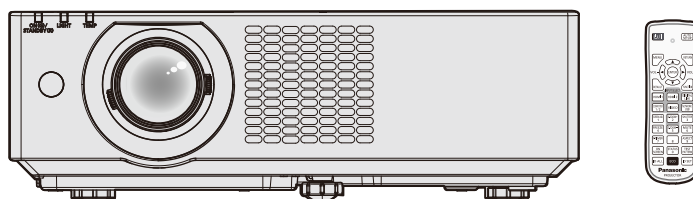


取扱説明書 詳細編

液晶プロジェクター **業務用**

品番 PT-VMZ60J
PT-VMZ50J
PT-VMW50J



このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に“安全上のご注意”（👁 4～7ページ）を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。



保証書別添付

製造番号は、品質管理上重要なものです。製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

JAPANESE

DPQP1261ZG/X1

もくじ

安全上のご注意 4

第 1 章 はじめに

ご使用になる前に	12
製品の意図する使い方	12
本機の運搬について	12
本機の設置について	12
使用上のご注意	14
セキュリティに関するお願い	15
無線 LAN に関するお願いとお知らせ	16
DIGITAL LINK について	16
本機が対応するアプリケーションソフトにつ いて	17
保管について	17
廃棄について	17
本機の取り扱いについて	17
付属品の確認	19
別売品	19
各部の名称とはたらき	20
リモコン	20
本体	21
リモコンの準備	24
電池を入れる、取り出す	24
本機を複数台使用するときは	24
レンズキャップを取り付ける	25

第 2 章 準備

設置する	27
設置形態	27
設置オプション（別売品）について	28
投写関係	28
接続する	31
接続の前に	31
映像機器との接続（例）	32
コンピューターとの接続（例）	33
DIGITAL LINK での接続（例）	34

第 3 章 基本的な使い方

電源を入れる / 切る	37
電源コードを接続する	37
電源インジケーターについて	38
電源を入れる	39
初期設定画面が表示されたら	40
調整・選択をする	41
電源を切る	42
投写する	43
投写する映像を選択する	43

フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する	45
アジャスター脚の調整	45
レンズシフト範囲について	46
リモコンで操作する	47
シャッター機能を使う	47
消音機能を使う	47
音量を調整する	48
静止機能を使う	48
オンスクリーン表示機能を使う	48
オートセットアップ機能を使う	48
スクリーン補正機能を使う	49
デジタルズーム機能を使う	49
映像の縦横比を切り換える	50
プレゼンテーションタイマー機能を使う	50
ファンクションボタンを使う	51
内蔵テストパターンを表示する	51
ステータス機能を使う	51
ECO マネージメント機能を使う	52
リモコンの ID ナンバーを設定する	52

第 4 章 調整と設定

オンスクリーンメニューについて	54
メニュー画面の操作方法	54
メインメニュー	55
サブメニュー	55
【映像調整】メニューについて	58
[映像モード]	58
[コントラスト]	58
[明るさ]	58
[色の濃さ]	59
[色あい]	59
[シャープネス]	59
[色温度設定]	59
[ガンマ選択]	60
[アドバンスドメニュー]	60
[デイルイトビュー]	60
[デジタルシネマリアリティー]	61
[ノイズリダクション]	61
[ダイナミックコントラスト]	61
[TV システム]	62
[RGB/YCbCr] / [RGB/YPbPr]	62
[RGB システム]	63
【位置調整】メニューについて	64
[リアルタイム台形補正]	64
[スクリーン補正]	64
[シフト]	66
[ドットクロック]	67

[クロックフェーズ]	67	[初期化]	95
[オーバースキャン]	67		
[アスペクト]	68	第5章 機能の操作	
[フレームロック]	68	MEMORY VIEWER 入力で表示する	97
[クランプ位置]	68	メモリービューワー機能で投写できる画像	97
[表示言語] メニューについて	70	USB メモリー使用上のお願い	97
表示言語を切り換える	70	メモリービューワー画面を表示する	98
[表示オプション] メニューについて	71	静止画を再生する	98
[オンスクリーン表示]	71	スライドショーを実行する	98
[HDMI 信号レベル]	72	メモリービューワーを終了する	98
[DIGITAL LINK 信号レベル]	72	NETWORK 入力で表示する	99
[クローズドキャプション設定] (NTSC 信号 入力時のみ)	73	使用できるアプリケーションソフト	99
[スクリーン設定]	73	端末を接続する	99
[スタートアップロゴ]	74	端末との接続を終了する	99
[シャッター設定]	74	ネットワーク接続について	100
[自動位置補正設定]	74	有線 LAN で接続する	100
[入力検出]	75	無線 LAN で接続する場合	102
[バックカラー]	75	「Presenter Light ソフトウェア」について	104
[プレゼンテーションタイマー]	75	WEB 制御機能について	105
[その他の機能]	76	設定に使用できるコンピューター	105
[プロジェクター設定] メニューについて	78	WEB ブラウザーからのアクセスのしかた	105
[ステータス]	78		
[COMPUTER2 入出力選択]	78	第6章 点検とお手入れ	
[プロジェクター ID]	78	光源 / 温度インジケータ	121
[起動方法]	79	インジケータが点灯したら	121
[投写方式]	79	お手入れ / 部品交換	122
[ECO マネージメント]	79	お手入れ / 部品交換の前に	122
[RS-232C]	82	お手入れ	122
[ファンクションボタン]	83	部品交換	125
[音声設定]	84	故障かな! ?	126
[テストパターン]	85	【自己診断】 の表示について	128
[フィルターカウンター]	86		
[全設定初期化]	86	第7章 その他	
[セキュリティ] メニューについて	88	付録	130
[パスワード設定]	88	PJLink プロトコルを使用する	130
[パスワード変更]	88	LAN 経由の制御コマンドについて	132
[テキスト設定]	89	〈SERIAL IN〉 端子について	135
[テキスト変更]	89	対応信号リスト	138
[メニューロック]	89	仕様	141
[メニューロックパスワード]	89	外形寸法図	144
[操作設定]	90	天つり金具取り付け時の注意事項	145
[ネットワーク] メニューについて	91	保証とアフターサービス	146
[DIGITAL LINK モード]	91	保証書 (別添付)	146
[DIGITAL LINK ステータス]	91	補修用性能部品の保有期間	146
[DIGITAL LINK メニュー]	92	修理のご依頼について	146
[有線 LAN]	92	さくいん	147
[プロジェクター名]	92		
[ネットワークコントロール]	93		
[メモリービューワー]	93		
[ネットワークステータス]	95		

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

				してはいけない内容です。
		実行しなければならない内容です。		



警告

電源について

（異常・故障時には直ちに使用を中止する）

	電源プラグを抜く	■ 異常があったときは、電源プラグを抜く [内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき、落下などで外装ケースが破損したとき、煙や異臭、異音が発生したとき] （そのまま使用すると、火災や感電の原因になったり、視力障害を引き起こす原因になったりします。） ⇒ 異常の際、電源プラグをすぐに抜けるように、コンセントを本機の近くに取り付けるか、配線用遮断装置を容易に手が届く位置に設置してください。 ⇒ 本機を電源から完全に遮断するには、電源プラグを抜く必要があります。 ⇒ お買い上げの販売店にご相談ください。
		■ 電源プラグ（コンセント側）や、電源コネクター（本体側）は、根元まで確実に差し込む （差し込みが不完全であると、感電や発熱による火災の原因になります。） ⇒ 傷んだプラグやゆるんだコンセントのまま使用しないでください。 ■ 電源プラグのほこりなどは、定期的にとる （プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災や感電の原因になります。） ⇒ 半年に一度はプラグを抜いて、乾いた布で拭いてください。 ⇒ 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
		■ 電源コード・プラグが破損するようなことはしない [傷つける、加工する、高温部や熱器具に近づく、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど] （傷んだまま使用すると、火災や感電、ショートの原因になります。） ⇒ 電源コードやプラグの修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。 ■ コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない （たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。） ■ 付属の電源コード以外は使用しない （付属以外の電源コードを使用すると、ショートや発熱により、感電・火災の原因になることがあります。また、付属の電源コードを使い、コンセント側でアースを取らないと感電の原因になります。）
	ぬれ手禁止	■ ぬれた手で電源プラグや電源コネクターに触れない （感電の原因になります。）



警告（つづき）

電源について



接触禁止

- 雷が鳴り出したら、本機や電源プラグには触れない
(感電の原因になります。)

ご使用・設置について



- 放熱を妨げない
[布や紙などの上に置かない（吸気口に吸着することがあります）、風通しが悪く狭い所に押し込まない]
(内部が高温になり、火災の原因になることがあります。)
⇒ 吸排気を妨げないよう、周辺の壁やものから排気口までは 1 m 以上、吸気口までは 50 cm 以上離して設置してください。
- カーペットやスポンジマットなどのやわらかい面の上で本機を使用しない
(内部に熱がこもり、本機の故障、火災ややけどの原因になることがあります。)
- 湿気やほこりの多い所、油煙や湯気が当たるような所に置かない
(火災や感電の原因になることがあります。また、油により樹脂が劣化し、天井取り付け設置の場合に落下するおそれがあります。)
- 荷重に耐えられない場所や不安定な場所に設置しない
(落下などによる本機の破損・変形や、大きな事故やけがの原因になります。)
- 人が通る場所にプロジェクターを設置しない
(ぶつかったり、電源コードに足を引っ掛けたりして、火災や感電、けがの原因になることがあります。)
- 使用中は投写レンズを絶対にのぞかない
- 光学器具（ルーペや反射鏡など）を使用して、投写光束内に進入しない
(投写レンズからは強い光がでます。中を直接のぞくと、目を痛める原因になります。)
⇒ 使用中に本機から離れる場合は、電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。
⇒ 特にお子様にはご注意ください。
- 内部に金属類や燃えやすいものなどを入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない
(ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。)
⇒ 機器の近くに水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
⇒ 水などの液体が内部に入ったときは、販売店にご相談ください。
⇒ 特にお子様にはご注意ください。
- レンズカバーを取り付けたまま投写しない
(火災の原因になることがあります。)



警告（つづき）

ご使用・設置について



分解禁止

■ 分解や改造をしない

（内部には電圧の高い部分があり、感電や火災の原因になります。また、使用機器の故障の原因になります。）

⇒ 内部の点検や修理などは、お買い上げの販売店にご相談ください。



警告

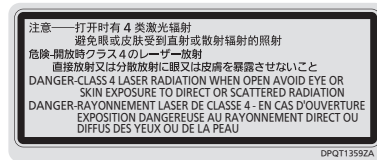
感電のおそれあり

サービスマン以外の方は
ケースをあけないでください。
内部には高電圧部分が多く
あり、万一さわると危険です。

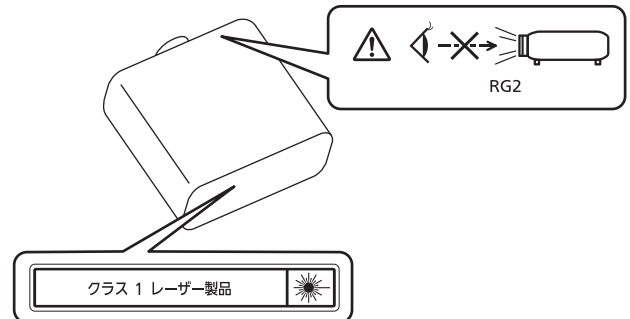
「本体に表示した事項」

（危険なレーザー放射にさらされる原因になることがあります。）

⇒ 本機はレーザーモジュールを内蔵しています。取扱説明書に指定した手順で操作や調整を行ってください。



「本体内部に表示した事項」



■ 天井取り付けなどの設置工事は、工事専門業者または販売店に依頼する

（工事の不備により、落下事故の原因となります。）

■ 当社で指定した天つり金具を使用する

（天つり金具の不備により、落下事故の原因となります。）

⇒ 天つり金具に付属のワイヤーで落下防止の処置を行ってください。

付属品・消耗品について



■ 電池の液が漏れたときは、素手で液をさわらない

【液が目に入ったら目をこすらない】

（失明のおそれや、液が身体や衣服に付着した場合、皮膚の炎症やけがの原因になります。）

⇒ すぐにきれいな水で洗ったあと、医師にご相談ください。

■ 電池は誤った使い方をしない

- 指定された電池以外は使用しない。
- 乾電池は充電しない。
- 加熱・分解したり水などの液体や火の中へ入れたりしない。
- ＋と－を針金などで接続しない。
- ＋と－を逆に入れない。
- ネックレスやヘアピンなど金具が使用されているものと一緒に持ち運んだり保管したりしない。
- 新旧の電池や違う種類の電池を混ぜて使わない。
- 被覆のはがれた電池は使わない。（電池には安全のために被覆がかぶせてあります。これをはがすとショートの原因になりますので、絶対にはがさないでください。）

（液漏れ・発熱・破裂・発火の原因になります。）

■ 付属の乾電池は、乳幼児の手の届く所に置かない

（誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。）

⇒ 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。



■ 使い切った電池は、すぐにリモコンから取り出す

（そのまま機器の中に放置すると、電池の液漏れや、発熱・破裂の原因になります。）



注意

電源について

 電源プラグを抜く	■ 長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く (電源プラグにほこりがたまり、火災・感電の原因になることがあります。) ■ お手入れ、部品交換の際は、電源プラグをコンセントから抜く (感電の原因になることがあります。)
	■ 電源コードを取り外すときは、必ず電源プラグ(コンセント側)や、電源コネクタ(本体側)を持って抜く (コードを引っ張るとコードが破損し、感電、ショートによる火災の原因になることがあります。)

ご使用・設置について

	■ 本機の上に重いものを載せたり、乗ったりしない (バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。また、本機の破損や変形の原因になることがあります。)
	■ 異常に温度が高くなる所に置かない (外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。) ⇒ 直射日光の当たる所や、熱器具などの近くには、設置・保管をしないでください。
	■ 塩害が発生する所、腐食性ガスが発生する所に設置しない (腐食による落下の原因になることがあります。また、本機の故障の原因になることがあります。)
	■ 使用中は投写レンズの前に立たない (投写レンズからは強い光がでます。投写レンズの前に立つと衣服を傷めたり、やけどの原因になることがあります。)
	■ 使用中は投写レンズの前にもものを置かない ■ 投写レンズの前にもものを置いて遮光しない (投写レンズからは強い光がでます。投写レンズの前にもものを置くと、火災やものの破損、本機の故障の原因になることがあります。)   「本体に表示したマーク」
	■ <VARIABLE AUDIO OUT> 端子には、ヘッドホンやイヤホンを接続しない (ヘッドホンやイヤホンからの過剰な音圧により、難聴の原因になることがあります。)
	■ 移動させる場合は、必ず接続線を外す (コードの破損などにより、火災や感電の原因になることがあります。) ■ 天井設置する場合は、取り付けねじや電源コードが天井内部の金属部と接触しないように設置する (天井内部の金属部と接触して、感電の原因になることがあります。)

付属品・消耗品について

	■ 長期間使用しない場合は、リモコンから電池を取り出す (電池の液漏れ、発熱、発火、破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。)
---	---

お手入れについて

	■ エアフィルターユニットは、ぬれたまま本体に取り付けない (感電や故障の原因になります。) ⇒ エアフィルターユニットを洗淨したあとは、十分に乾燥させてから取り付けてください。
	■ 使用時間 20 000 時間ごとを目安に、内部の清掃を販売店に依頼する (本機の内部にほこりがたまったままで使用を続けると、火災の原因になることがあります。) ⇒ 特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと効果的です。 ⇒ 内部清掃費用については販売店にご相談ください。

■ 商標などについて

- SOLID SHINE はパナソニック ホールディングス株式会社の商標です。
 - HDMI、High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または、登録商標です。
 - PjLink 商標は、日本、米国その他の国や地域における登録または出願商標です。
 - Crestron Connected、Crestron Connected ロゴ、Crestron Fusion、Crestron RoomView、RoomView は、Crestron Electronics, Inc. の、米国および / または各国での商標または登録商標です。
 - HDBaseT™ は HDBaseT Alliance の商標です。
 - Windows、Internet Explorer、Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
 - Mac、OS X、macOS、iPad、iPhone、iPod touch、Safari は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
 - iOS は、Cisco の米国およびその他の国における商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
 - Android および Google Chrome は Google LLC の商標です。
 - Adobe、Acrobat、Flash Player、Reader は、アドビシステムズ社の米国および / または各国での商標または登録商標です。
 - オンスクリーンメニューに使用しているフォントの一部は、株式会社リコーが製作・販売した、リコービットマップフォントです。
 - その他、この説明書に記載されている各種名称・会社名・商品名などは各社の商標または登録商標です。
- なお、本文中では® や™ マークは明記していません。

当製品に関するソフトウェア情報

本製品は、以下の種類のソフトウェアから構成されています。

- (1) パナソニック コネクト株式会社が独自に開発したソフトウェア
- (2) 第三者が保有しており、パナソニック コネクト株式会社にライセンスされたソフトウェア
- (3) GNU GENERAL PUBLIC LICENSE Version2.0 (GPL V2.0) に基づきライセンスされたソフトウェア
- (4) GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version2.1 (LGPL V2.1) に基づきライセンスされたソフトウェア
- (5) GPL V2.0、LGPL V2.1 以外の条件に基づきライセンスされたオープンソースソフトウェア

上記 (3) ~ (5) に分類されるソフトウェアは、これら単体で有用であることを期待して頒布されますが、「商品性」または「特定の目的についての適合性」についての黙示の保証をしないことを含め、一切の保証はなされません。詳細は、「取扱説明書 基本ガイド」に掲載されているライセンス条件をご参照ください。「取扱説明書 基本ガイド」は製品に添付されています。

パナソニック コネクト株式会社は、本製品の発売から少なくとも 3 年間、以下の問い合わせ窓口にご連絡いただいた方に対し、実費にて、GPL V2.0、LGPL V2.1、またはソースコードの開示義務を課すその他の条件に基づきライセンスされたソフトウェアに対応する完全かつ機械読取り可能なソースコードを、それぞれの著作権者の情報と併せて提供します。

問い合わせ窓口 (E メール) : oss-cd-request@gg.jp.panasonic.com

「Presenter Light」は下記のソフトウェアを使用します。

A portion of this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

■ 本書内のイラストについて

- プロジェクター本体、メニュー画面 (OSD) などのイラストは、実際とは異なることがあります。
- ご使用のコンピューターのモデルや OS の種類によって、実際にコンピューターの画面に表示されるものとは異なることがあります。

■ 参照ページについて

- 本書では、参照ページを (☞ 00 ページ) のように示しています。

■ 用語について

- 本書では付属品の「ワイヤレスリモコン」を「リモコン」と記載しています。

この装置は、クラス A 機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

本機は、IEC 60825-1:2014 に適合したクラス 1 レーザー製品です。

本機の特長

軽量コンパクト

- ▶ 6 000 lm^{*1} の明るさで、約 7.2 kg のコンパクト設計。

^{*1} PT-VMZ50J および PT-VMW50J の場合は 5 000 lm です。

高信頼性

- ▶ SOLID SHINE レーザー光源の採用により、20 000 時間^{*1} の長期運用が可能。

^{*1} 使用時間の目安とは、[プロジェクター設定] メニュー→ [ECO マネージメント] → [光源電力] を [ノーマル] に、[映像調整] メニュー→ [ダイナミックコントラスト] を [2] に設定した状態で 0.15 mg/m³ のほこり環境下で使用した場合に、明るさが出荷時に対しておおよそ半減するまでの時間です。

柔軟な設置性

- ▶ 1.6 倍ズームレンズを採用するとともに、水平 / 垂直レンズシフト機能を搭載。限られたスペースへの設置にも柔軟に対応できます。

優れた拡張性

- ▶ 将来のシステム更新に備えて、4K 映像信号^{*1} の入力に対応。
- ▶ 別売のワイヤレスモジュールを取り付ければ、ワイヤレス投写も可能。

^{*1} 4K/30p まで対応。解像度が異なる信号は表示ドット数に変換されて表示されます。

PT-VMZ60J / PT-VMZ50J: 1 920 x 1 200 ドット

PT-VMW50J: 1 280 x 800 ドット

投写するまでの手順

詳しくは各ページをご覧ください。

1. 本機を設置する
(👉 27 ページ)



2. 本機と外部機器を接続する
(👉 31 ページ)



3. 電源コードを接続する
(👉 37 ページ)



4. 電源を入れる
(👉 39 ページ)



5. 初期設定をする
(👉 40 ページ)

- 本機をご購入後、初めて電源を入れてご使用になる場合に行う手順です。



6. 投写する映像を選択する
(👉 43 ページ)



7. 映像の映り具合を調整する
(👉 45 ページ)

第 1 章 はじめに

ご使用の前に知っておいていただきたい内容やご確認いただきたい内容について説明しています。

ご使用になる前に

製品の意図する使い方

本機は、映像機器やコンピューターからの映像信号を、静止画や動画としてスクリーンなどに投写することを目的としています。

本機の運搬について

- 運搬の際は、本機の底面を持つようにし、過度の振動や衝撃を加えないようにお取り扱いください。内部の部品が傷み、故障の原因になります。
- アジャスター脚を伸ばした状態で運搬しないでください。アジャスター脚が破損するおそれがあります。
- 別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を装着した状態で本機を移動したり運搬したりしないでください。ワイヤレスモジュールが破損するおそれがあります。

本機の設置について

■屋外に設置しないでください

本機は室内でご使用ください。

■以下の場所には設置しないでください

- 車両・船舶など、振動や衝撃が加わる場所：内部の部品が傷み、故障の原因になります。
- 海の近くや腐食性ガスが発生する場所：腐食により製品が落下するおそれがあります。また、部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になることがあります。
- エアコンの吹き出し口の近く：使用環境によっては、排気口からの熱せられた空気や、空調からの温風・冷風の影響で、まれに画面に「ゆらぎ」が発生することがあります。本機の前面に自機、あるいは他機の排気や、空調からの風が回り込むような設置がないように注意してください。
- 照明器具（スタジオ用ランプなど）の近くなどの温度変化が激しい場所：光源の寿命などに影響を及ぼすおそれや、熱により本体が変形し、故障の原因になることがあります。
本機の使用環境温度をお守りください。
- 高圧電線や動力源の近く：妨害を受けることがあります。

■天井取り付けなどの設置工事は、必ず工事専門業者、または販売店にご依頼ください

本機を天井に設置する場合や、高所へ設置する場合は、性能、安全確保のため、工事専門業者またはお求めの販売店に施工を依頼してください。

■DIGITAL LINK 接続用のケーブル配線工事は、工事専門業者または販売店に依頼してください

工事の不備によりケーブル伝送特性が得られず、映像や音声途切れたり乱れたりする原因となります。

■放送局や無線機からの強い電波により、正常に動作しないことがあります

近くに強い電波を発生する設備や機器がある場合は、それらの機器から十分に離して設置してください。または、両端で接地された金属箔あるいは金属配管で〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している LAN ケーブルを覆ってください。

■フォーカス調整について

高輝度プロジェクターのレンズは、光源からの光による熱の影響で、電源を入れた直後はフォーカスが安定しません。フォーカスの調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。

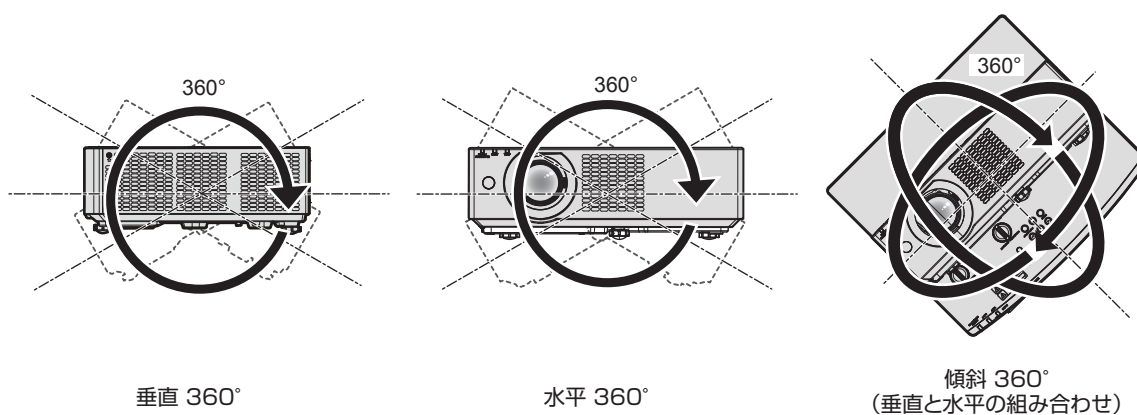
■海拔 2 700 m 以上の場所に設置しないでください

■周囲温度が 45 °C を超える場所で使用しないでください

本機を使用する場所の海拔高度が高すぎたり、周囲温度が高すぎたりすると、部品の寿命などに影響を及ぼすおそれや、故障の原因になることがあります。

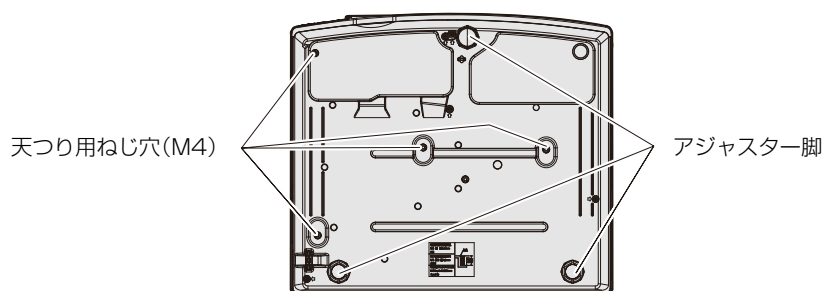
ただし、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付けている場合は、周囲温度が 40 °C を超える場所で使用しないでください。

■ 360° 全方位への投写が可能です



■ 設置上のご注意

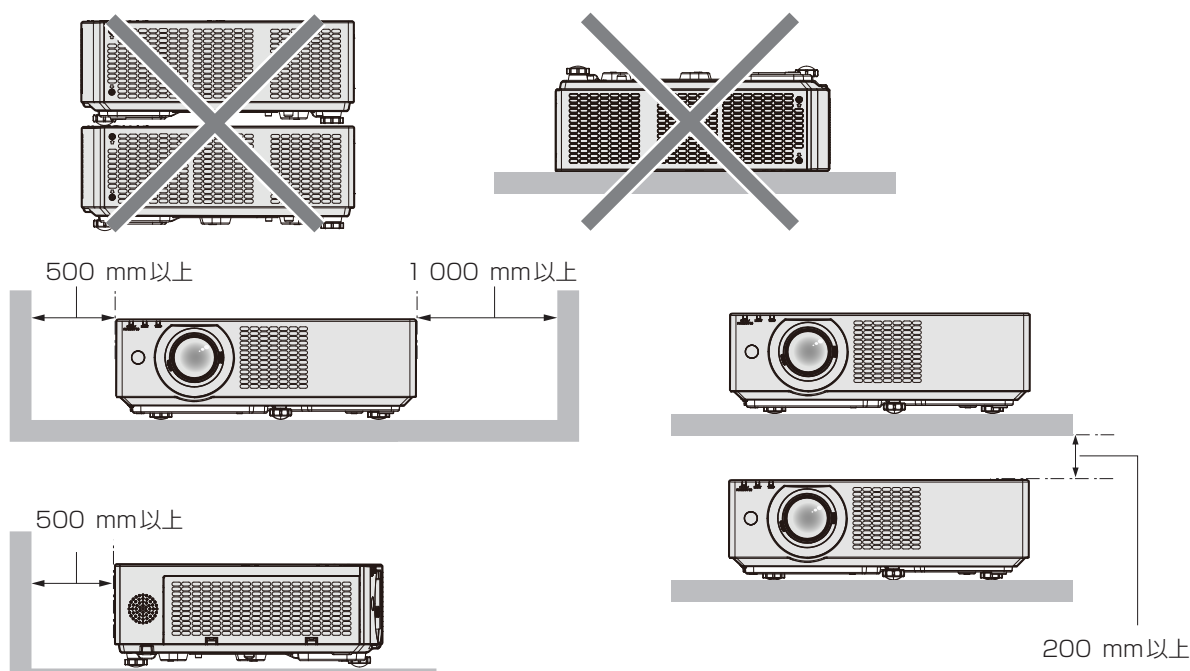
- アジャスター脚は、床置き設置およびその際の角度調整にのみ使用してください。それ以外の用途で使用すると、本機が破損するおそれがあります。
- プロジェクターをアジャスター脚による床置き設置や天つり金具による天つり設置以外の方法で設置して使用する場合は、プロジェクターの固定を天つり用ねじ穴（図示）4 か所を使用して行ってください。
またその際は、スペーサー（金属製）を挟むなどの方法で、プロジェクター底面の天つり用ねじ穴と設置面との間にすき間が生じないようにしてください。
- 固定ねじの締めつけの際は、トルクドライバーまたは、六角トルクレンチを使用し、規定値内のトルクで締めつけてください。電動ドライバー、インパクトドライバーを使用しないでください。
(ねじ径：M4、プロジェクター内部ねじ穴深さ：8 mm、ねじの締めつけトルク：1.25 ± 0.2 N・m)



天つり用ねじ穴(M4)とアジャスター脚の位置

- 本機を積み重ねて使用しないでください。
- 本機を天面で支えて使用しないでください。
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。

- 空調の冷風や温風が、本機の吸気口・排気口に直接当たらないように設置してください。



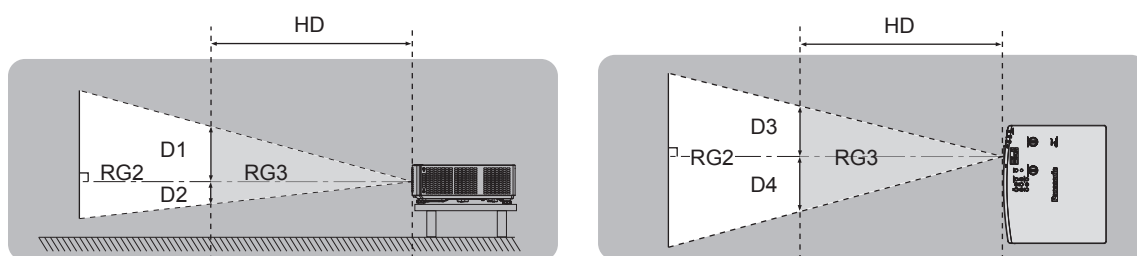
- 本機を密閉した空間に設置しないでください。
密閉した空間に設置する場合は、別途、空調設備、換気設備を設けてください。換気が不十分な場合、排気熱が滞留することで、本機の保護回路がはたらくことがあります。
- 設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であっても責任を負いかねますのでご注意ください。

使用上のご注意

■ 障害距離 (IEC 62471-5 : 2015)

被ばくのレベルが、当該の被ばく限度値に到達するまでの投写レンズ面からの距離を、障害距離 (HD)、または安全距離といいます。

障害距離の内側 (RG3 の領域内) では、プロジェクターからの投写光をのぞき込まないでください。直接照射により目を痛める可能性があります。障害距離の外側 (RG2 の領域内) からであれば、プロジェクターからの投写光をのぞき込んでも安全とみなされます。



■ リスクグループ

障害距離が 1 m 未満である場合、そのプロジェクターはリスクグループ 2 に分類されます。障害距離が 1 m を超える場合はリスクグループ 3 に分類され、民生用ではなく業務用になります。リスクグループ 3 の場合、障害距離の内側 (RG3 の領域内) で投写光をのぞき込むと、直接照射により目を痛める可能性があります。リスクグループ 2 の場合、すべての状況で、目を痛めることなく安全に使用できます。本機は、リスクグループ 2 に分類されます。

■使用中は投写レンズを絶対にのぞかないでください（RG2 IEC 62471-5:2015）

■光学器具（ルーペや反射鏡など）を使用して、投写光束内に進入しないでください

投写レンズからは強い光がでます。中を直接のぞくと、目を痛める原因になります。



「本体に表示したマーク」

セキュリティに関するお願い

本製品をご使用になる場合、次のような被害に遭うことが想定されます。

- 本製品を経由したお客様のプライバシー情報の漏えい
- 悪意の第三者による本製品の不正操作
- 悪意の第三者による本製品の妨害や停止

セキュリティ対策を十分に行ってください。

- パスワードはできるだけ推測されにくいものにしてください。
- パスワードは定期的に変更してください。パスワードは、[セキュリティ] メニュー → [パスワード変更] で設定できます。
- パナソニック コネクト株式会社およびその関係会社が、お客様に対して直接パスワードを照会することはありません。直接問い合わせがあっても、パスワードを答えないでください。
- ファイアウォールなどの設定により、安全性が確保されたネットワークでご使用ください。
- WEB 制御のパスワードを設定し、ログインできるユーザーを制限してください。WEB 制御のパスワードは、WEB 制御画面の [パスワード変更] ページで設定できます。

■無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピューターなどと無線アクセスポイントとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波が届く範囲内であれば障害物（壁など）を越えてあらゆる場所からアクセスできるため、セキュリティ設定に不足があると、次のような問題が発生するおそれがあります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、次のような通信内容を盗み見られる可能性があります。
 - － ID やパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
 - － メールの内容
- 不正に侵入される
悪意ある第三者により個人や会社内のネットワークへ無断でアクセスされ、次のような不正行為を受ける可能性があります。
 - － 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
 - － 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
 - － 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
 - － コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

本来、無線 LAN アダプターや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線 LAN 機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が行われていない場合があります。お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN 機器をご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関するすべての設定を、それぞれの無線 LAN 機器の取扱説明書に従って行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

本機を無線 LAN で使用する際のセキュリティ設定について、お客様ご自身で対処できない場合には、「パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター」（☎ 16 ページ）までお問い合わせください。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

無線 LAN に関するお願いとお知らせ

本機の無線 LAN 接続機能使用時は、2.4 GHz 帯域の電波を使用します。無線局の免許は必要ありませんが、以降の内容を十分理解してご使用ください。

本機で無線 LAN 機能を使用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付ける必要があります。

■ほかの無線機器の近くでは使用しないでください

次の機器は、本機と同じ帯域の電波を使用している可能性があります。これらの近くで本機を使用すると、電波の干渉により通信できなくなったり、通信速度が遅くなったりする場合があります。

- 電子レンジなど
- 産業・科学・医療用機器など
- 工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局
- 特定小電力無線局

■本機の近くでは、携帯電話・テレビ・ラジオをできるだけ使用しないでください

携帯電話・テレビ・ラジオなどは、本機とは違う帯域の電波を使用していますので、無線 LAN の通信や、これらの機器の送受信には影響ありません。しかし、本機からの電波により、音声や映像にノイズが発生することがあります。

■鉄筋・金属・コンクリートなどは、無線 LAN 通信の電波を通しません

木材やガラス（金属メッシュ入りガラスを除く）などの壁や床を通して通信することはできますが、鉄筋・金属・コンクリートなどの壁や床を通して通信することはできません。

■静電気が多く発生するような場所では、できるだけ本機を使用しないでください

静電気やノイズが多く発生するような場所で本機を使用する場合、無線 LAN、または有線 LAN での通信が切れやすくなります。

まれに静電気やノイズにより LAN 接続ができなくなる場合がありますので、その場合は本機の電源を切ったあとに電源プラグをコンセントから抜き、問題となる静電気やノイズ源を取り除いたあとに本機の電源を入れ直してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
- その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター：  0120-872-601

DIGITAL LINK について

「DIGITAL LINK（デジタルリンク）」は、HDBaseT Alliance により策定された通信規格 HDBaseT™ をベースに、パナソニック コネクト株式会社独自の機能を追加した、映像・音声・イーサネット・シリアル制御信号をツイストペアケーブルを使用して伝送する技術です。

本機は、別売品の弊社 DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）や、同じく HDBaseT™ 規格をベースとした他社製周辺機器（Extron 社製「XTP トランスミッター」などのツイストペアケーブル伝送器）に対応しています。本機で動作確認済みの他社製機器については、弊社 WEB サイト（<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>）をご覧ください。他社製機器の動作確認は、弊社確認項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

本機が対応するアプリケーションソフトについて

本機は、次のアプリケーションソフトに対応しています。各アプリケーションソフトの詳細やダウンロードについては、弊社 WEB サイト (<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>) をご覧ください。

● ロゴ転送ソフトウェア

スタート時に投影する会社ロゴマークなどユーザー独自の画像を、プロジェクターに転送するアプリケーションソフトです。

● 複数台監視制御ソフトウェア

イントラネットに接続された複数台のディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）を監視・制御するアプリケーションソフトです。

● 予兆監視ソフトウェア

イントラネット内にあるディスプレイやその周辺機器の状態を監視し、これらの機器の異常の通知や異常発生の予兆を検知するプラグインソフトです。「予兆監視ソフトウェア」は、「複数台監視制御ソフトウェア」にあらかじめ組み込まれています。このプラグインソフトの予兆監視機能を使用する場合は、「複数台監視制御ソフトウェア」を、ご使用のコンピューターにインストールしてください。予兆監視機能を有効にすると、ディスプレイの消耗品交換、各部清掃、部品交換のおおよその時期を通知し、事前にメンテナンスを実施することが可能になります。

予兆監視機能は、「複数台監視制御ソフトウェア」をコンピューターへのインストール後 90 日間に限り、無料で最大 2048 台のディスプレイを登録してご使用いただけます。90 日以降も継続して予兆監視機能を使用する場合は、「予兆監視ソフトウェア」のライセンス（ET-SWA100 シリーズ）をご購入のうえ、アクティベーションを行う必要があります。また、ライセンスの種類によって監視できるディスプレイの登録台数が異なります。

詳しくは、「複数台監視制御ソフトウェア」の取扱説明書をご覧ください。

● Presenter Light ソフトウェア

コンピューターの画面を、無線 LAN または有線 LAN でプロジェクターへ送信するための、Windows コンピューター対応のアプリケーションソフトです。

● ワイヤレスプロジェクター

PDF や画像などのファイルを、プロジェクターへ無線 LAN で送信して投写するための、iOS/Android 用アプリケーションソフトです。

保管について

本機を保管しておく場合は、乾燥した室内に保管してください。

廃棄について

製品を廃棄する際は、最寄りの市町村窓口または販売店に、正しい廃棄方法をお問い合わせください。また、製品を分解せずに廃棄してください。

本機の取り扱いについて

■ 美しい映像をご覧いただくために

より高いコントラストで美しい映像をご覧いただくには、適切な環境を整えてください。スクリーン面に外光や照明などの光が入らないように、窓のカーテンやブラインドなどを閉め、スクリーン面近くの照明を消してください。

■ 投写レンズについて

● 投写レンズ面は素手でさわらないでください

投写レンズ面に指紋や汚れが付着すると、それらが拡大されてスクリーンに映り、美しい映像をご覧いただくための妨げとなります。

● 投写中にレンズをふかないでください

投写中にレンズの前面をふくと、レンズに異物が固着したり、レンズの表面を傷つけたりすることがあります。



「本体に表示したマーク」

■ 液晶パネルについて

液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で製造されていますが、まれに画素の欠けや、常時点灯する画素が発生する場合があります。これらの現象は故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

また、静止画を長時間投写すると、液晶パネルに映像の残像が生じる場合がありますので、その場合は全白画面を 1 時間以上投写してください。なお、残像が完全に消えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 光学部品について

ご使用になる環境温度が高い場合や、ほこり、たばこなどの煙が多い環境下では、1 年未満のご使用でも、液晶パネルや偏光板などの光学部品の交換サイクルが短くなる場合があります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

■ 光源について

本機の光源には、レーザーを使用しており、下記のような特性があります。

- 使用環境温度によって、光源の輝度が低下します。
温度が高くなるほど、光源の輝度の低下が大きくなります。
- 使用時間にともない、光源の輝度が低下します。
明るさが著しく低下した場合や、光源が点灯しなくなった場合は、内部清掃または光源ユニットの交換を販売店に依頼してください。

■ コンピューターや外部機器との接続について

コンピューターまたは外部機器を接続する際は、電源コードやシールドされたケーブルの使用も含め、本書の内容をよくご確認ください。

付属品の確認

以下の付属品が入っていることを確認してください。＜ ＞は個数です。

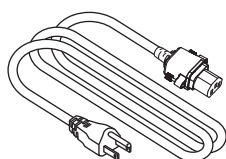
ワイヤレスリモコン＜1＞
(N2QAYA000204)



レンズキャップ＜1＞
(TKKL5573-1)

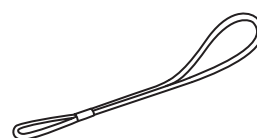


電源コード＜1＞
(1JP2VMZ50J)



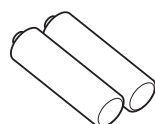
(お買い上げ時は、製品本体に装着されています。)

ストラップ＜1＞
(1AA2SRZ0013A-)



(レンズキャップ用)

単 4 形乾電池＜2＞



(リモコン用)

お願い

- 電源コードキャップおよび包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理してください。
- 付属の電源コードは本機以外の機器では使用しないでください。
- 付属品を紛失してしまった場合、販売店にご相談ください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かない所に適切に保管してください。

お知らせ

- 付属品の品番は、予告なく変更する可能性があります。

別売品

別売品 (品名)	品番
天つり金具	ET-PKL100H (高天井用)、ET-PKL100S (低天井用)、ET-PKV400B (取付用ベース金具)
天つり金具用アタッチメント金具 *1	ET-PAD100
交換用フィルターユニット	ET-RFV500
デジタルインターフェースボックス	ET-YFB100
デジタルリンクスイッチャー	ET-YFB200
予兆監視ソフトウェア (基本ライセンス / 3 年ライセンス)	ET-SWA100 シリーズ *2
ワイヤレスモジュール *3	AJ-WM50GT

*1 既設の天つり金具 (品番: ET-PKV100H (高天井用)、ET-PKV100S (低天井用)) に本機を取り付ける場合は、天つり金具 (品番: ET-PKV400B (取付用ベース金具)) と天つり金具用アタッチメント金具 (品番: ET-PAD100) を組み合わせて使用します。

*2 ライセンスの種類によって品番末尾の記号が異なります。

*3 発売開始時期の最新情報は販売店にお問い合わせください。

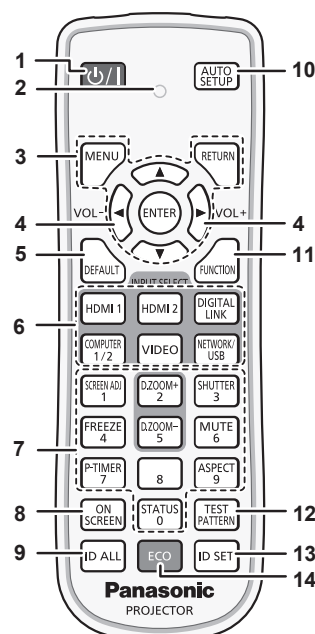
お知らせ

- ワイヤレスモジュール (品番: AJ-WM50GT) は、本機への取り付けを含めて 0℃ ～ 40℃ の環境下でご使用ください。
- 別売品の品番は、予告なく変更する可能性があります。

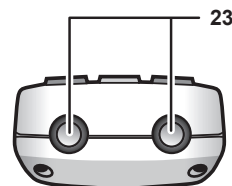
各部の名称とはたらき

リモコン

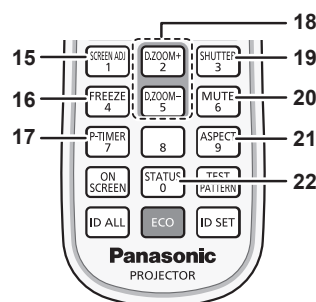
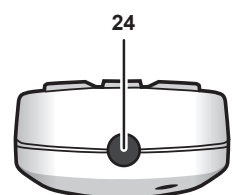
■ 正面



■ 天面



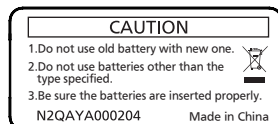
■ 底面



- 1 **電源 (ON/OFF) ボタン** (ON スタンバイ / OFF 電源入)
投写状態のとき、本機の電源を切った状態 (スタンバイ状態) にします。また、電源が切れている状態 (スタンバイ状態) のとき、本機を投写状態にします。
- 2 **リモコン操作インジケータ**
リモコンのボタンを押すと点滅します。
- 3 **〈MENU〉ボタン、〈RETURN〉ボタン、〈ENTER〉ボタン、
▲▼◀▶ ボタン**
メニュー画面の操作に使用します。(☞ 54 ページ)
また、▲▼◀▶ ボタンは [セキュリティ] のパスワード入力
や文字の入力にも使用します。
- 4 **〈VOL-〉ボタン / 〈VOL+〉ボタン**
内蔵スピーカーまたは音声出力の音量を調整します。
(☞ 48 ページ)
- 5 **〈DEFAULT〉ボタン**
サブメニューの設定内容を工場出荷時の状態に戻します。
(☞ 55 ページ)
- 6 **入力切替 (〈HDMI1〉、〈HDMI2〉、〈DIGITAL LINK〉、
〈COMPUTER1/2〉、〈VIDEO〉、〈NETWORK/USB〉) ボタン**
投写する入力を切り換えます。(☞ 43 ページ)
- 7 **数字 (〈0〉 ~ 〈9〉) ボタン**
本体を複数台使用する環境で ID ナンバーを入力する場合や、
パスワードを入力する場合などに使用します。
- 8 **〈ON SCREEN〉ボタン**
オンスクリーン表示機能のオン (表示) / オフ (非表示) を切り
換えます。(☞ 48 ページ)
- 9 **〈ID ALL〉ボタン**
本体を複数台使用する環境で、1 つのリモコンで同時制御する
場合に使用します。(☞ 52 ページ)
- 10 **〈AUTO SETUP〉ボタン**
映像を投写中に、画面表示位置を自動調整します。
(☞ 48 ページ)
- 11 **〈FUNCTION〉ボタン**
よく使う操作を割り当て、ショートカットボタンとして使用し
ます。(☞ 51 ページ)
- 12 **〈TEST PATTERN〉ボタン**
テストパターンを表示します。(☞ 51 ページ)
- 13 **〈ID SET〉ボタン**
本体を複数台使用する環境で、リモコンの ID ナンバーを設定
する場合に使用します。(☞ 52 ページ)
- 14 **〈ECO〉ボタン**
ECO マネージメントに関する設定画面を表示します。
(☞ 52 ページ)
- 15 **〈SCREEN ADJ〉ボタン**
投写映像のゆがみを補正したい場合に使用します。
(☞ 49 ページ)
- 16 **〈FREEZE〉ボタン**
映像を一時的に静止し、音声を消したい場合に使用します。
(☞ 48 ページ)
- 17 **〈P-TIMER〉ボタン**
プレゼンテーションタイマー機能を操作します。
(☞ 50 ページ)
- 18 **〈D.ZOOM +〉ボタン / 〈D.ZOOM -〉ボタン**
映像を拡大および縮小します。(☞ 49 ページ)
- 19 **〈SHUTTER〉ボタン**
映像と音声を一時的に消したい場合に使用します。
(☞ 47 ページ)
- 20 **〈MUTE〉ボタン**
音声を一時的に消したい場合に使用します。(☞ 47 ページ)
- 21 **〈ASPECT〉ボタン**
映像のアスペクト比を切り換えます。(☞ 50 ページ)
- 22 **〈STATUS〉ボタン**
本体の情報を表示します。(☞ 51 ページ)
- 23 **リモコン発信部**
- 24 **本機では使用しません。**

お願い

- リモコンは落とさないようにしてください。
 - リモコンに液状のものをかけないでください。
 - リモコンを分解・修理しないでください。
 - リモコン裏面の注意書きに記載されている次の内容をお守りください。
 - 新旧の電池は混用しない。
 - 指定された電池以外は使用しない。
 - 電池の極性（+、-）を正しく入れる。
- このほか、“安全上のご注意”に記載されている電池に関する内容をお読みください。



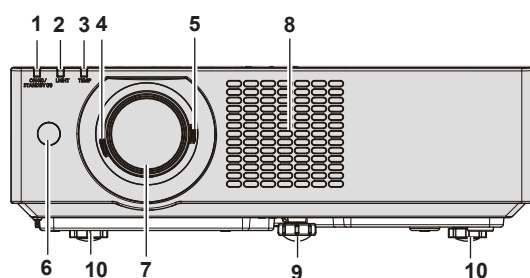
リモコン裏面の注意書き

お知らせ

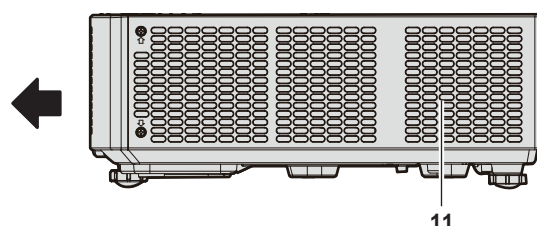
- リモコンを直接本体のリモコン受信部に向けて操作する場合は、リモコン受信部正面より約 30 m 以内で操作してください。また、上下左右に± 30° まで操作できますが、操作可能距離が短くなることがあります。
- リモコンとリモコン受信部の間に障害物があると、正しく動作しないことがあります。
- リモコンからの信号を、スクリーンに反射させて本機を操作できます。ただし、スクリーン特性による光反射ロスにより、操作有効範囲が制限されることがあります。
- 本体のリモコン受信部に蛍光灯などの強い光が当たっていると、操作できなくなることがあります。できるだけ光源から離して設置してください。
- 本体がリモコンの信号を受信すると電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉 が点滅します。

本体

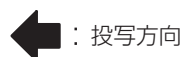
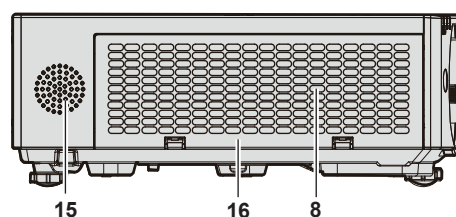
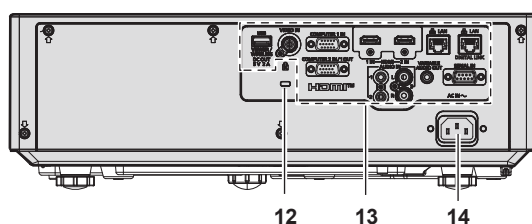
■ 前面



■ 側面



■ 後面



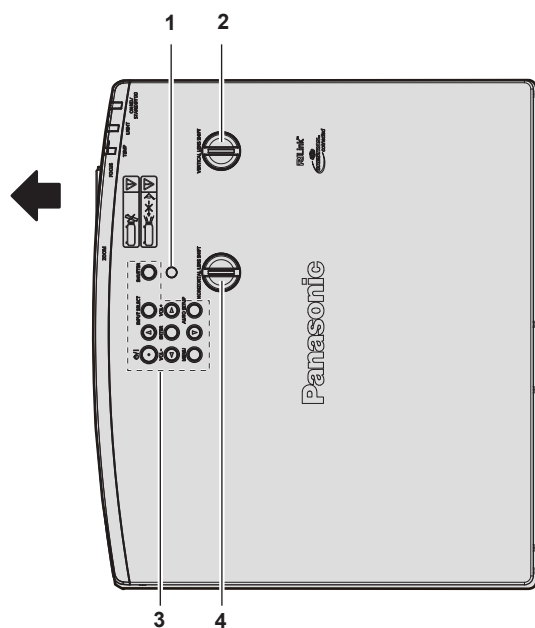
- 1 電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉
電源の状態を表示します。
- 2 光源インジケータ 〈LIGHT〉
光源の状態を表示します。
- 3 温度インジケータ 〈TEMP〉
内部温度の状態を表示します。
- 4 フォーカスレバー
フォーカスを調整します。
- 5 ズームレバー
ズームを調整します。
- 6 リモコン受信部
- 7 投写レンズ
- 8 吸気口

- 9 前方アジャスター脚
設置姿勢を調整します。
- 10 後方アジャスター脚
設置姿勢を調整します。
- 11 排気口
- 12 セキュリティスロット
このセキュリティスロットは、Kensington 社製セキュリティケーブルに対応しています。
- 13 接続端子部 (23 ページ)
- 14 〈AC IN〉 端子
付属の電源コードを接続します。
- 15 スピーカー

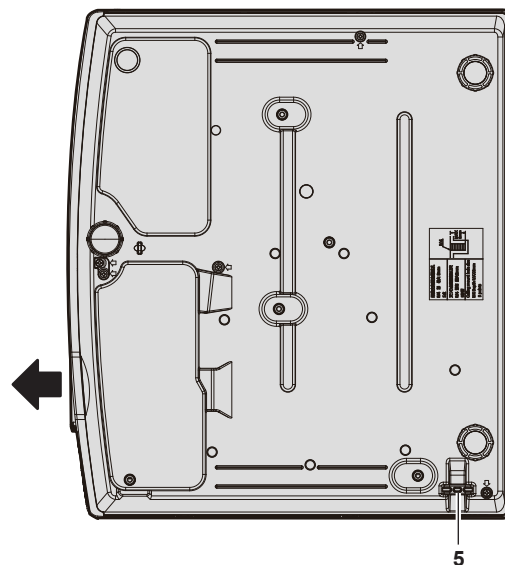
16 エアフィルターカバー

内部にエアフィルターユニットがあります。

■ 天面



■ 底面



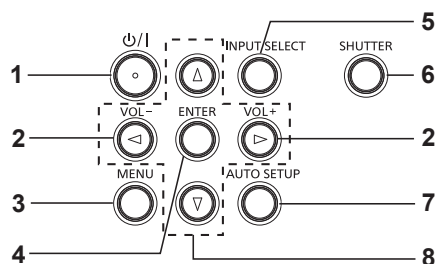
←：投写方向

- | | |
|--|---|
| <p>1 照度センサー</p> <p>2 垂直レンズシフトダイヤル
垂直方向の投写位置（垂直シフト）を調整します。</p> <p>3 本体操作部（☞ 22 ページ）</p> | <p>4 水平レンズシフトダイヤル
水平方向の投写位置（水平シフト）を調整します。</p> <p>5 セキュリティーバー
盗難防止用にワイヤーなどを取り付けることができます。</p> |
|--|---|

お願い

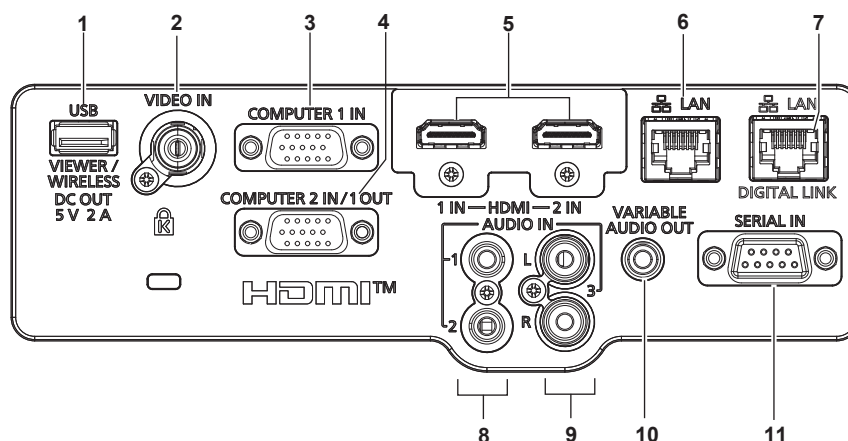
- 本機の吸気口・排気口をふさがないでください。
本機内部の冷却が妨げられることで、部品が早期に劣化するおそれがあります。

■ 本体操作部



- | | |
|---|---|
| <p>1 電源〈ϕ/I〉ボタン（ϕ：スタンバイ、I：電源入）
投写状態のとき、本機の電源を切った状態（スタンバイ状態）にします。また、電源が切れている状態（スタンバイ状態）のとき、本機を投写状態にします。</p> <p>2 〈VOL-〉ボタン / 〈VOL+〉ボタン
内蔵スピーカーまたは音声出力の音量を調整します。（☞ 48 ページ）</p> <p>3 〈MENU〉ボタン
メインメニューを表示したり、消したりします。（☞ 54 ページ）
サブメニューが表示されているときは、1 つ前の画面に戻ります。</p> <p>4 〈ENTER〉ボタン
メニュー画面の項目の決定や実行をします。</p> | <p>5 〈INPUT SELECT〉ボタン
投写する入力を切り換えます。（☞ 43 ページ）</p> <p>6 〈SHUTTER〉ボタン
映像と音声を一時的に消したい場合に使用します。（☞ 47 ページ）</p> <p>7 〈AUTO SETUP〉ボタン
映像を投写中に、オートセットアップ機能を用いて自動調整します。（☞ 48 ページ）
また、メモリービューワー画面の操作に使用します。</p> <p>8 ▲▼◀▶ ボタン
メニュー画面の項目選択や、設定の切り換えおよびレベルの調整をします。
また、[セキュリティ] メニューのパスワード入力や文字の入力にも使用します。</p> |
|---|---|

■ 接続端子部



1 〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子

メモリービューワー機能を使用するときに、USB メモリーを取り付ける端子です。(☞ 97 ページ)
また、無線 LAN 機能を使用するときに、別売品のワイヤレスモジュール (品番: AJ-WM50GT) を直接取り付ける端子です。(☞ 102 ページ)
さらに、給電用 (DC5V、最大 2A) としても使用できます。

2 〈VIDEO IN〉端子

ビデオ信号を入力する端子です。

3 〈COMPUTER 1 IN〉端子

RGB 信号または YCbCr/YPbPr 信号を入力する端子です。

4 〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子

RGB 信号または YCbCr/YPbPr 信号を入力する端子です。また、〈COMPUTER 1 IN〉端子に入力された信号を外部機器に出力することもできます。

5 〈HDMI 1 IN〉端子 / 〈HDMI 2 IN〉端子

HDMI 信号を入力する端子です。

6 〈LAN〉端子

ネットワーク接続する LAN 端子です。
画像転送用アプリケーションソフトからの、画像転送にも対応しています。(☞ 100 ページ)

7 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子

LAN 端子経由で映像信号や音声信号を送出する機器を接続するときの端子です。または、ネットワーク接続する LAN 端子です。

8 〈AUDIO IN 1〉端子 / 〈AUDIO IN 2〉端子

音声信号を入力する端子です。

9 〈AUDIO IN 3〉端子

音声信号を入力する端子です。
右入力〈R〉と左入力〈L〉があります。

10 〈VARIABLE AUDIO OUT〉端子

本機に入力された音声信号を出力する端子です。

11 〈SERIAL IN〉端子

コンピューターを接続して本機を外部制御するための RS-232C 準拠の入力端子です。

お願い

- [プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ノーマル] に設定している場合、本機がスタンバイ状態でも、〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子を使用して給電できます。[ECO] に設定している場合は、スタンバイ状態で給電できません。
- 〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に定格 (DC5 V、最大 2 A) を超える外部機器を接続した場合、エラーを検出して給電を停止します。給電が停止した場合は、外部機器を取り外したうえで本機の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントに接続し直してください。
- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。
ノイズや配線長の影響で信号が劣化するおそれがあります。
- 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子は、本機の内部で接続されています。〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子の両方を使用する場合は、直接、またはハブやツイストペアケーブル伝送器などの周辺機器を介して同じネットワークに接続しないようにシステムを構成してください。

リモコンの準備

電池を入れる、取り出す

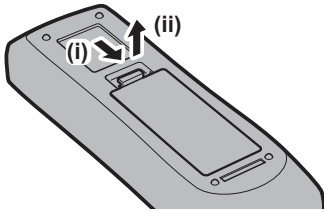


図 1

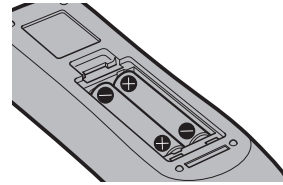


図 2

- 1) ふたを開ける（図 1）
- 2) 電池を入れ、ふたを閉じる（●側から先に入れます）（図 2）
 - 電池を取り出す場合は、逆の手順で行います。

本機を複数台使用するときは

本機を複数台並べて使用する場合、それぞれの本体に個々の ID ナンバーを設定することにより、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

ID ナンバーを設定して使用する場合は、初期設定終了後、まず本体の ID ナンバーを設定し、次にリモコンの ID ナンバーを設定します。初期設定については、“初期設定画面が表示されたら”（☞ 40 ページ）をご覧ください。工場出荷時、本機（本体とリモコン）の ID ナンバーは「オール」に設定されていますので、そのままお使いいただけます。必要に応じて、本体とリモコンの ID ナンバーを設定してください。

リモコンの ID ナンバーの設定について、詳しくは“リモコンの ID ナンバーを設定する”（☞ 52 ページ）をご覧ください。

お知らせ

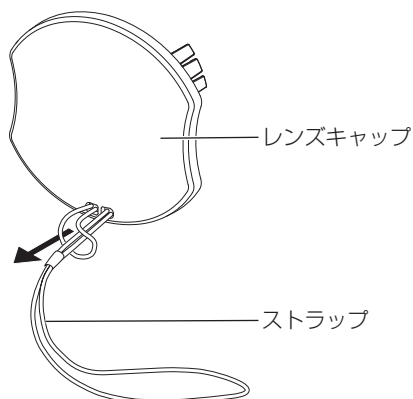
- 本体の ID ナンバーは、[プロジェクター設定] メニュー → [プロジェクター ID] で設定してください。

レンズキャップを取り付ける

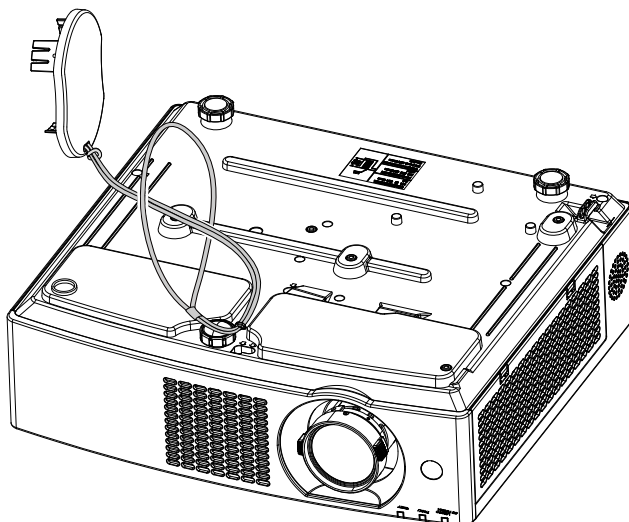
本機を運搬するときや、しばらくの間使用しないときは、レンズが汚れないようにレンズキャップを取り付けておくことをお勧めします。

レンズキャップを紛失しないよう、次の手順に従い、付属のストラップでレンズキャップを本機に取り付けてください。

1) ストラップの先端（輪の小さい方）をレンズキャップの穴に通して取り付ける



2) ストラップのもう片方（輪の大きい方）を本機の底部にある穴に通して取り付ける



第 2 章 準備

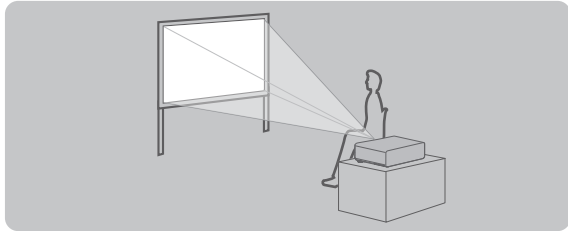
設置や接続など、ご使用前に行っていただく内容について説明しています。

設置する

設置形態

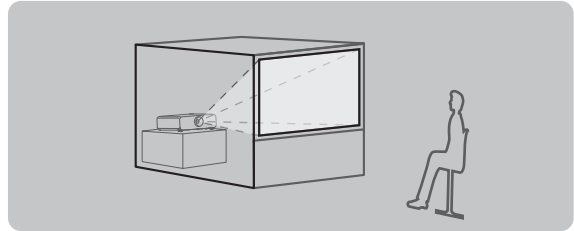
本機の設置形態は次のとおりです。設置形態に応じて「[プロジェクター設定] メニュー → [投写方式] (79ページ)」を設定してください。

床置き設置で前方に投写する場合



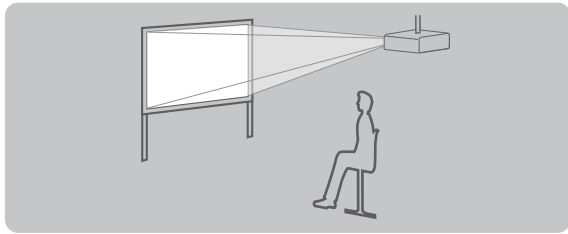
メニュー項目	設定値
[投写方式]	[オート] または [フロント / 床置き]

床置き設置で後方から投写する場合
(透過式スクリーン使用)



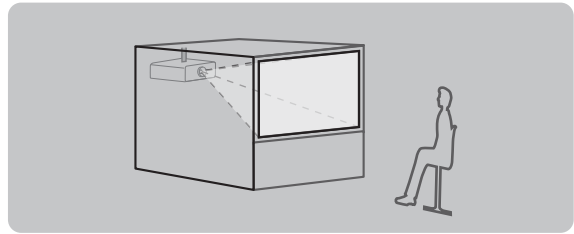
メニュー項目	設定値
[投写方式]	[リア / 床置き]

天つり設置で前方に投写する場合



メニュー項目	設定値
[投写方式]	[オート] または [フロント / 天つり]

天つり設置で後方から投写する場合
(透過式スクリーン使用)



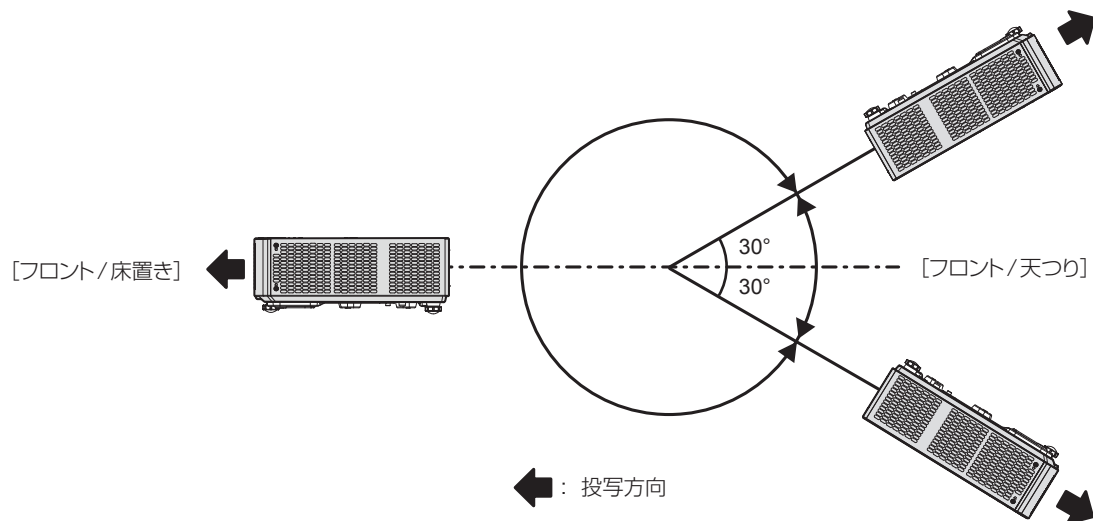
メニュー項目	設定値
[投写方式]	[リア / 天つり]

お知らせ

- 本機は角度センサーを内蔵しています。フロント投写の場合、[プロジェクター設定] メニュー → [投写方式] を [オート] に設定すると、本機の姿勢を自動的に検出します。リア投写の場合は、[投写方式] を [リア / 床置き] または [リア / 天つり] に設定してください。

■ 角度センサーについて

本機内蔵の角度センサーで検出する設置姿勢の範囲は、次のとおりです。



設置オプション（別売品）について

別売品の天つり金具が必要です。天つり金具（品番：ET-PKL100H（高天井用）またはET-PKL100S（低天井用））と、天つり金具（品番：ET-PKV400B（取付用ベース金具））を組み合わせで設置してください。

品番：ET-PKL100H（高天井用）、ET-PKL100S（低天井用）、ET-PKV400B（取付用ベース金具）

既設の天つり金具（品番：ET-PKV100H（高天井用）またはET-PKV100S（低天井用））に本機を取り付ける場合は、天つり金具（品番：ET-PKV400B（取付用ベース金具））と天つり金具用アタッチメント金具（品番：ET-PAD100）を組み合わせで設置してください。

- 必ず、本機専用の天つり金具をご使用ください。
- 本機の取り付けおよび設置については、天つり金具の施工説明書をご覧ください。

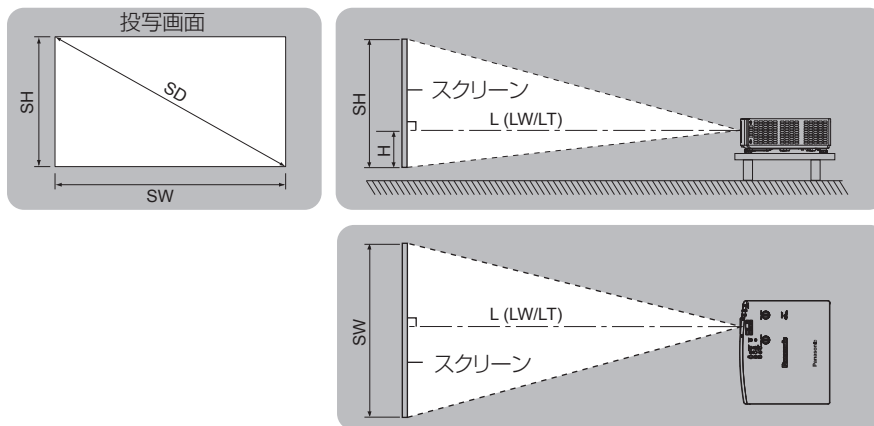
お願い

- 天つり金具の取り付け工事は、性能、安全確保のため、必ずお求めの販売店または工事専門業者に施工を依頼してください。

投写関係

本機の設置は、スクリーンサイズや投写距離を参考にして設置してください。なお、スクリーンサイズ、スクリーン位置に応じて投写画面サイズ、投写画面位置を調整できます。

- 次のイラストは、投写画面のサイズと位置をスクリーンいっぱいに合わせて表現しています。



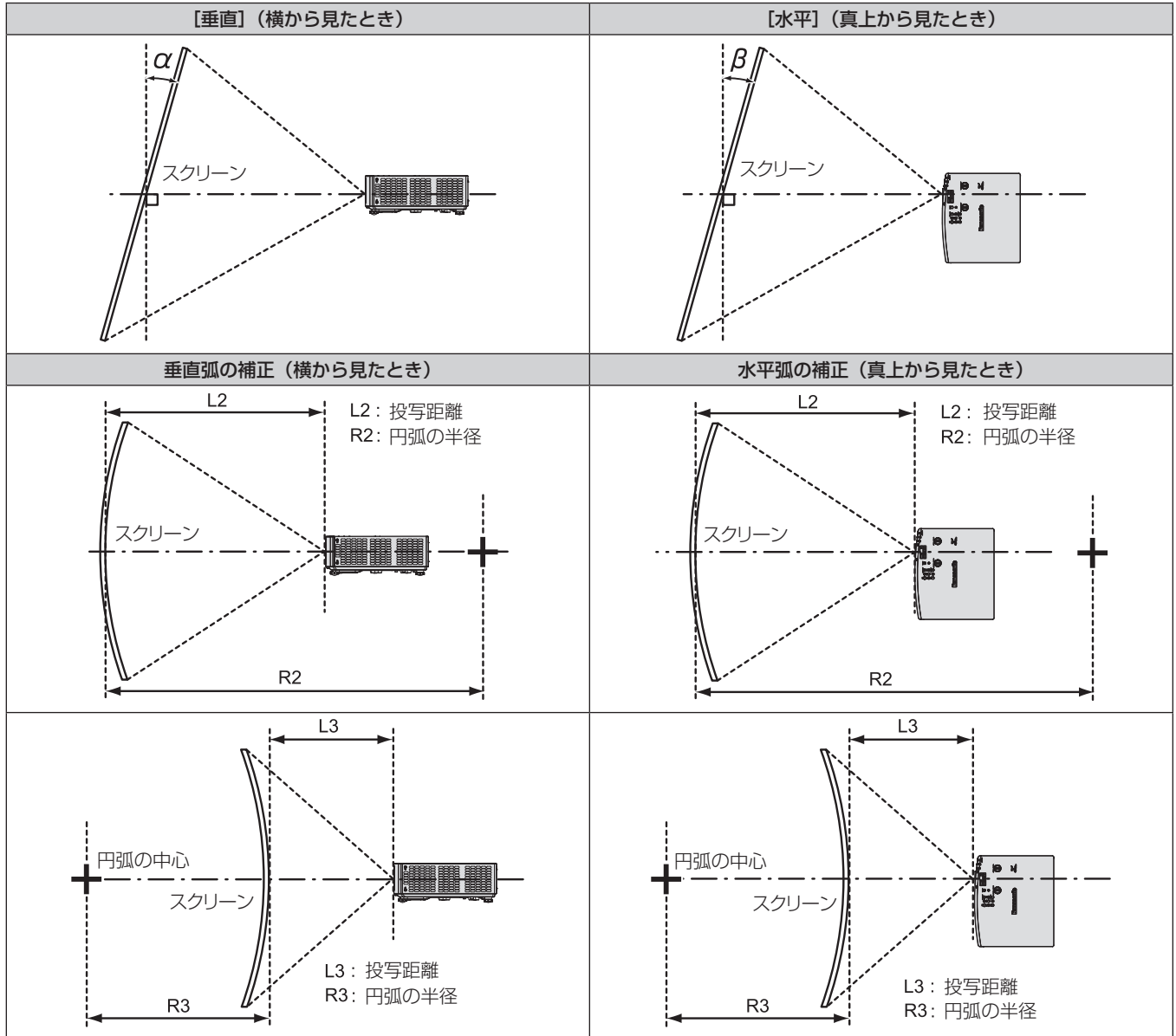
L (LW/LT) *1	投写距離
SH	投写画面高さ
SW	投写画面幅
H	レンズセンターから投写画面下端までの距離
SD	投写画面サイズ

*1 LW：最短投写距離
LT：最長投写距離

お願い

- 設置する前に“ご使用になる前に”（👁 12 ページ）をお読みください。

[スクリーン補正] による投写範囲



品番	[台形補正] のみ		[台形補正] と [曲面スクリーン補正] の併用時				[曲面スクリーン補正] のみ	
	垂直台形補正 角 α (°)	水平台形補正 角 β (°)	垂直台形補正 角 α (°)	水平台形補正 角 β (°)	R2/L2 の最 小値	R3/L3 の最 小値	R2/L2 の最 小値	R3/L3 の最 小値
PT-VMZ60J PT-VMZ50J	± 25	± 35	± 25	± 35	1.4	2.9	0.7	1.6
PT-VMW50J	± 35	± 35	± 35	± 35	1.4	2.9	0.7	1.6

お知らせ

- [スクリーン補正] を使用した場合、補正量が大きくなるとフォーカスが画面全体では合わない場合があります。
- 曲面のスクリーンは、真円の一部分を切り取った円弧の形状にしてください。

投写距離

記載の投写距離は± 5 % の誤差が発生します。

また、[スクリーン補正] 使用時は、所定の画面サイズよりも小さくなる方向で補正されます。

(単位：m)

投写画面サイズ	アスペクト比 16 : 10 の場合			アスペクト比 16 : 9 の場合			アスペクト比 4 : 3 の場合		
対角 (SD)	最短 (LW)	最長 (LT)	レンズセンターから投写画面下端までの距離 (H)	最短 (LW)	最長 (LT)	レンズセンターから投写画面下端までの距離 (H)	最短 (LW)	最長 (LT)	レンズセンターから投写画面下端までの距離 (H)
0.76 (30 型)	0.68	1.12	0.022 - 0.201	0.70	1.15	0.002 - 0.186	0.78	1.27	0.025 - 0.228
1.02 (40 型)	0.93	1.51	0.030 - 0.270	0.95	1.55	0.003 - 0.250	1.05	1.71	0.034 - 0.306
1.27 (50 型)	1.16	1.89	0.037 - 0.337	1.19	1.94	0.004 - 0.311	1.32	2.14	0.042 - 0.381
1.52 (60 型)	1.39	2.26	0.045 - 0.403	1.43	2.33	0.005 - 0.372	1.58	2.57	0.051 - 0.456
1.78 (70 型)	1.64	2.66	0.052 - 0.472	1.69	2.73	0.005 - 0.436	1.86	3.01	0.059 - 0.534
2.03 (80 型)	1.87	3.03	0.060 - 0.538	1.93	3.12	0.006 - 0.497	2.12	3.44	0.068 - 0.609
2.29 (90 型)	2.12	3.43	0.067 - 0.607	2.18	3.52	0.007 - 0.561	2.40	3.88	0.076 - 0.687
2.54 (100 型)	2.35	3.80	0.075 - 0.673	2.42	3.91	0.008 - 0.622	2.67	4.31	0.085 - 0.762
3.05 (120 型)	2.83	4.57	0.090 - 0.808	2.91	4.70	0.009 - 0.747	3.21	5.18	0.102 - 0.915
3.81 (150 型)	3.54	5.72	0.112 - 1.010	3.64	5.88	0.012 - 0.933	4.01	6.48	0.127 - 1.143
5.08 (200 型)	4.73	7.64	0.150 - 1.346	4.86	7.85	0.015 - 1.245	5.36	8.65	0.169 - 1.524
6.35 (250 型)	5.92	9.56	0.187 - 1.683	6.09	9.83	0.019 - 1.556	6.71	10.83	0.212 - 1.905
7.62 (300 型)	7.11	11.48	0.224 - 2.019	7.31	11.80	0.023 - 1.867	8.05	13.00	0.254 - 2.286

投写距離計算式

本書に記載のない画面サイズでご使用の場合は、投写画面サイズ SD (m) をご確認のうえ、それぞれの計算式で投写距離を求めてください。

式の単位はすべて m です。(次の計算式で求められる値には、若干の誤差があります。)

投写距離を、画面サイズ呼称 (インチ数値) を用いて計算する場合は、インチ数値を 0.0254 倍したものを投写距離計算式の SD に代入してください。

アスペクト比	16 : 10	16 : 9	4 : 3
投写画面高さ (SH) 計算式	$=0.530 \times SD$	$=0.490 \times SD$	$=0.6 \times SD$
投写画面幅 (SW) 計算式	$=0.848 \times SD$	$=0.872 \times SD$	$=0.8 \times SD$
投写距離 (L) 計算式	最短 (LW)	$=0.9371 \times SD - 0.0294$	$=0.9632 \times SD - 0.0294$
	最長 (LT)	$=1.5103 \times SD - 0.0319$	$=1.5523 \times SD - 0.0319$
		$=1.0609 \times SD - 0.0294$	$=1.7098 \times SD - 0.0319$

接続する

接続の前に

- 接続の前に、本機と接続する外部機器の取扱説明書もよくお読みください。
- 各機器の電源を切ってからケーブルの接続をしてください。
- 次の点に注意して、ケーブルを接続してください。行わない場合、故障の要因になります。
 - ケーブルを本機、あるいは本機と接続する外部機器に接続するときは、事前に周辺の金属に触れるなどして身体から静電気を除去してください。
 - 本機と、本機に接続する機器とを接続するケーブルは、必要以上に長くしないでください。長くするほどノイズの影響を受けやすくなります。巻いた状態で使用するとアンテナになりますので、さらにノイズの影響を受けやすくなります。
 - ケーブル接続時は、GND が先に接続されるように、接続する機器の接続端子部にまっすぐに挿入してください。
- システム接続に必要な接続ケーブルは、各機器の付属品、別売品がない場合は接続される外部機器に合わせて準備してください。
- 映像機器からの映像信号にジッター成分が多い場合は、画像がふらつくことがあります。この場合はタイムベースコレクター（TBC）の接続が必要です。
- 本機に接続できる信号はビデオ信号、YCbCr/YPrPb 信号、アナログ RGB 信号（同期信号は TTL レベル）、およびデジタル信号です。
- コンピューターのモデルやご使用のグラフィックスカードによっては、本機と接続して使用できないものもあります。
- 各機器と本機を、長いケーブルを使用して接続する場合は、ケーブル補償器などを使用してください。本機が正常に映像を表示できないことがあります。
- 本機が投写できる映像信号について、詳しくは“対応信号リスト”（🔍 138 ページ）をご覧ください。

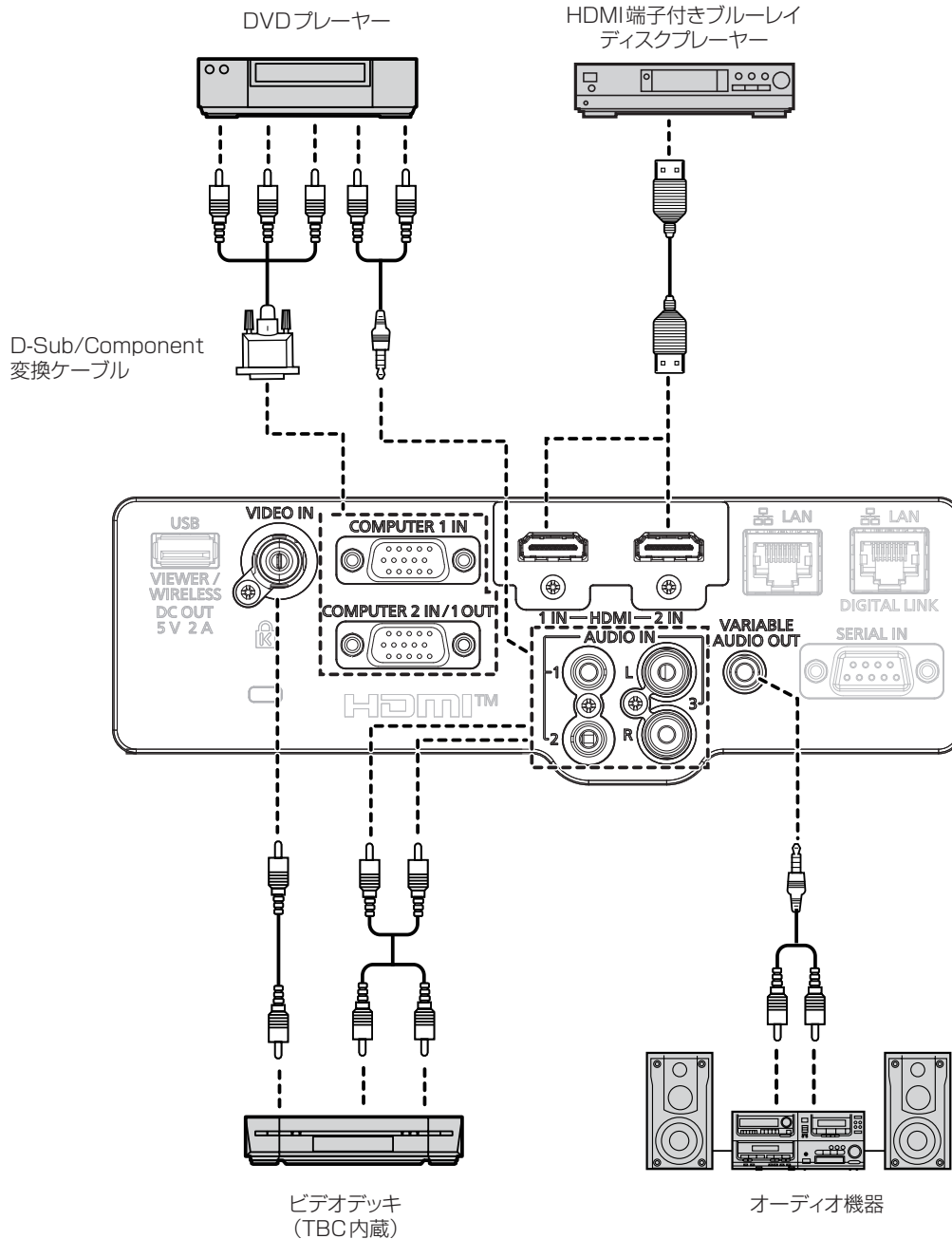
〈COMPUTER 1 IN〉端子 / 〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子のピン配列と信号名

外側から見た図	ピン No.	信号名	ピン No.	信号名
	(1)	R/P _R	(9)	+5 V
	(2)	G/Y	(10)	GND
	(3)	B/P _B	(11)	GND
	(4)	—	(12)	DDC データ
	(5)	GND	(13)	HD/SYNC
	(6)	GND	(14)	VD
	(7)	GND	(15)	DDC クロック
	(8)	GND		

〈HDMI 1 IN〉端子 / 〈HDMI 2 IN〉端子のピン配列と信号名

外側から見た図	ピン No.	信号名	ピン No.	信号名
	(1)	T.M.D.S データ 2+	(11)	T.M.D.S クロックシールド
	(2)	T.M.D.S データ 2 シールド	(12)	T.M.D.S クロック —
	(3)	T.M.D.S データ 2–	(13)	CEC
	(4)	T.M.D.S データ 1+	(14)	—
	(5)	T.M.D.S データ 1 シールド	(15)	SCL
	(6)	T.M.D.S データ 1–	(16)	SDA
	(7)	T.M.D.S データ 0+	(17)	DDC/CEC GND
	(8)	T.M.D.S データ 0 シールド	(18)	+5 V
	(9)	T.M.D.S データ 0–	(19)	ホットプラグ検出
	(10)	T.M.D.S クロック +		

映像機器との接続（例）



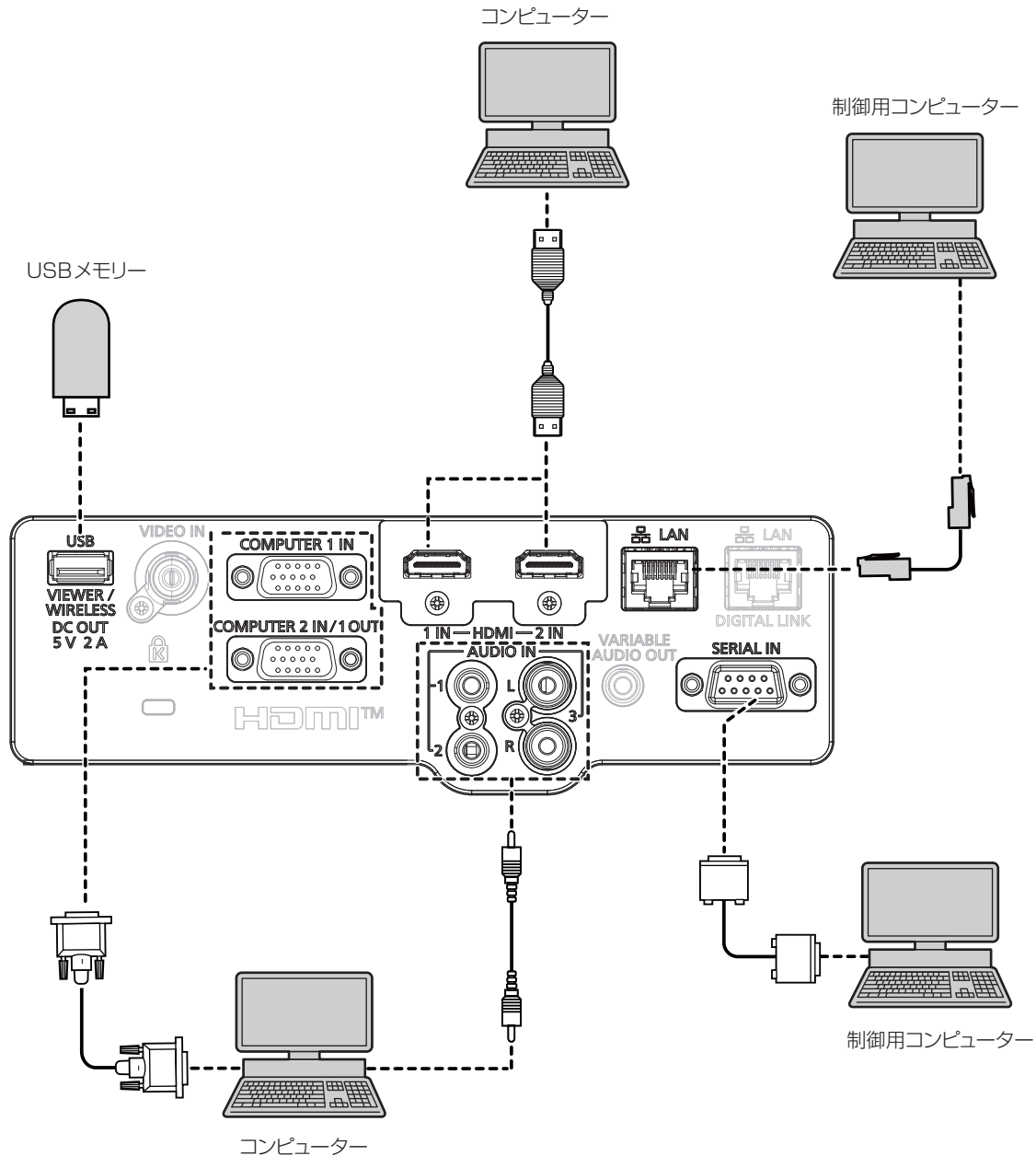
お願い

- ビデオデッキを接続するときは、必ず、次のどちらかを使用してください。
 - タイムベースコレクター（TBC）内蔵のビデオデッキを使用する
 - 本機とビデオデッキの間にタイムベースコレクター（TBC）を使用する
- バースト信号が非標準の信号を接続すると、映像が乱れる場合があります。その場合は、本機と外部機器との間にタイムベースコレクター（TBC）を接続してください。

お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。また、4K 映像信号を入力する場合は、4K 映像信号の伝送に対応した HDMI ケーブルをご使用ください。使用している HDMI ケーブルの対応伝送速度を超える映像信号を入力した場合、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しないことがあります。
- 本機の〈HDMI 1 IN〉端子／〈HDMI 2 IN〉端子は、HDMI/DVI 変換ケーブルを使用することで、DVI-D 端子がある外部機器とも接続できます。ただし、一部の外部機器では、映像がでないなど正常に動作しないことがあります。
- 本機はピエラリンク（HDMI）に対応していません。
- 〈COMPUTER 1 IN〉端子に入力された信号を〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子から出力する場合は、[プロジェクター設定] メニュー → [COMPUTER2 入出力選択] を [COMPUTER1 OUT] に設定してください。
- 音声を出力する場合は、[プロジェクター設定] メニュー → [音声設定] → [音声入力選択] を正しく設定してください。
- 〈VARIABLE AUDIO OUT〉端子にケーブルを接続すると、内蔵スピーカーから音声はできません。

コンピューターとの接続（例）



お願い

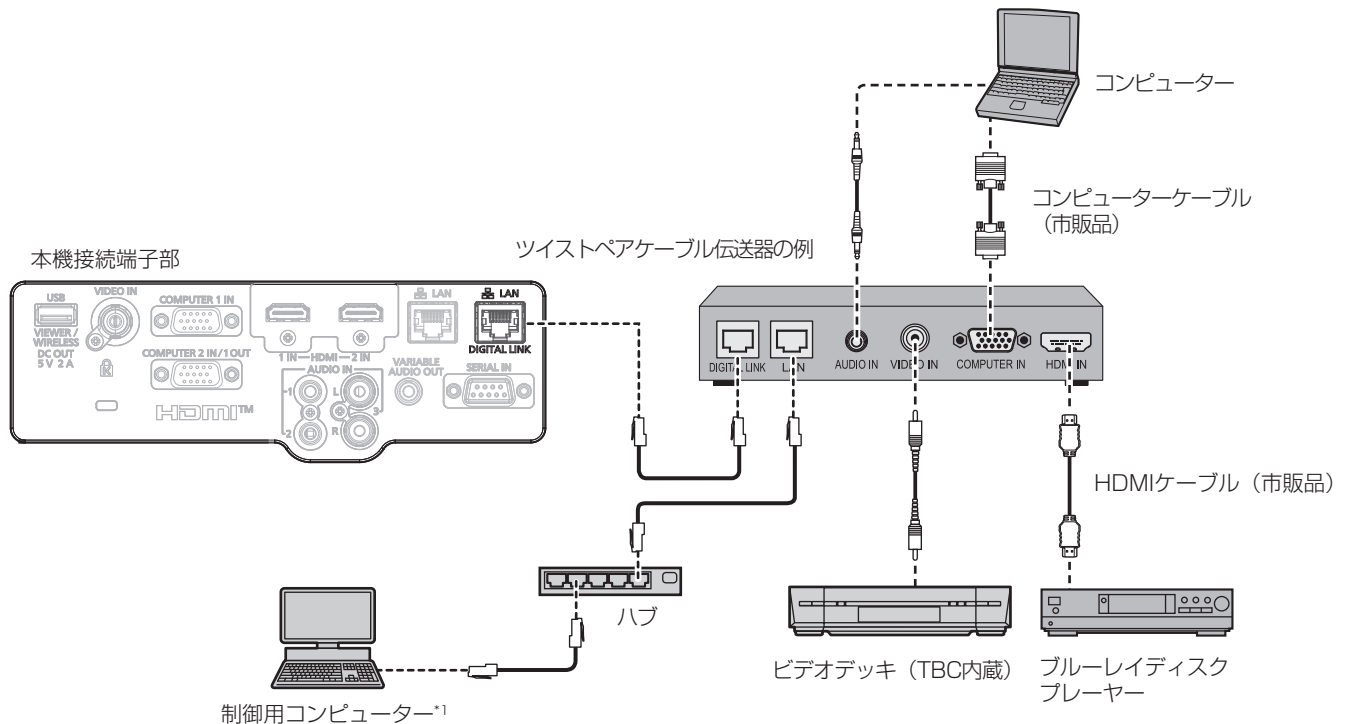
- コンピューターや外部機器に接続する際、それぞれの機器に付属の電源コードと、シールドされた市販のケーブルを使用してください。

お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。また、4K 映像信号を入力する場合は、4K 映像信号の伝送に対応した HDMI ケーブルをご使用ください。使用している HDMI ケーブルの対応伝送速度を超える映像信号を入力した場合、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しないことがあります。
- レジューム機能（ラストメモリー）を持つコンピューターを使用して本機を動作させるには、レジューム機能のリセットが必要になることがあります。
- 〈COMPUTER 1 IN〉端子に入力された信号を〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子から出力する場合は、[プロジェクター設定] メニュー → [COMPUTER2 入出力選択] を [COMPUTER1 OUT] に設定してください。

DIGITAL LINK での接続 (例)

別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器 (品番: ET-YFB100、ET-YFB200) をはじめ、通信規格 HDBaseT™ をベースとしたツイストペアケーブル伝送器は、入力された映像・音声・イーサネット・シリアル制御信号をツイストペアケーブルを使用して伝送するもので、本機はそのデジタル信号を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力できます。



^{*1} 制御対象は本機、またはツイストペアケーブル伝送器になります。ツイストペアケーブル伝送器によっては制御そのものがない場合がありますので、接続する機器の取扱説明書をご確認ください。

お願い

- ビデオデッキを接続するときは、必ず、次のどちらかを使用してください。
 - タイムベースコレクター (TBC) 内蔵のビデオデッキを使用する
 - 本機とビデオデッキの間にタイムベースコレクター (TBC) を使用する
- バースト信号が非標準の信号を接続すると、映像が乱れる場合があります。その場合は、本機と外部機器との間にタイムベースコレクター (TBC) を接続してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル配線工事は、工事専門業者または販売店に依頼してください。工事の不備によりケーブル伝送特性が得られず、映像が途切れたり乱れたりする原因となります。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の LAN ケーブルは、次の条件に適合したケーブルをお使いください。
 - CAT5e 以上の規格に適合
 - シールドタイプ (コネクターを含む)
 - ストレート結線
 - 単線
 - 芯線の直径が AWG24 以上の太さ (AWG24、AWG23 など)
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル敷設時には、ケーブルテスターやケーブルアナライザーなどを使用して、ケーブルの特性が CAT5e 以上の特性を満たしていることをご確認ください。途中で中継コネクターを介している場合は、それも含めて測定してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間にハブを使用しないでください。
- 他社製ツイストペアケーブル伝送器 (受信器) を使用して本機に接続を行うとき、他社製ツイストペアケーブル伝送器と本機の間には別のツイストペアケーブル伝送器 (送信器) を経由させないでください。映像が途切れたり乱れたりする原因となります。
- 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子は、本機の内部で接続されています。〈DIGITAL LINK/LAN〉端子と〈LAN〉端子の両方を使用する場合は、直接、またはハブやツイストペアケーブル伝送器などの周辺機器を介して同じネットワークに接続しないようにシステムを構成してください。
- ケーブルを強い力で引っ張らないでください。また、無理に曲げたり折り畳んだりしないでください。
- ノイズの影響を少なくするため、ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルはできるだけ巻かずに引き伸ばした状態で、設置・使用してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルは、他のケーブル、特に電源ケーブルからは離して敷設してください。
- 複数のケーブルを敷設するときは、束ねないで並走する距離をできるだけ短くしてください。
- ケーブル敷設後に [ネットワーク] メニュー → [DIGITAL LINK ステータス] で [信号品質] の数値が、正常な品質を示す緑色で表示されることを確認してください。 (p. 91 ページ)

お知らせ

- HDMI ケーブルは、HDMI 規格に適合している HDMI High Speed ケーブルをご使用ください。HDMI 規格に適合するケーブル以外のものを使用すると、映像が途切れる、映らないなど正常に動作しないことがあります。
- 本機はピエラリンク (HDMI) に対応していません。

- 別売品のデジタルインターフェースボックス（品番：ET-YFB100）と、別売品のデジタルリンクスイッチャー（品番：ET-YFB200）は、4K 映像信号の入出力には対応していません。
- 1 920 x 1 200 ドット以下の解像度の信号の場合、ツイストペアケーブル伝送器と本機間の伝送可能距離は、通常は最長 100 m です。1 920 x 1 200 ドットを超える解像度の信号の場合、伝送可能距離は最長 50 m です。またツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応している場合は、最長 150 m まで伝送できます。ただし、ロングリーチの通信方式の場合に本機が受像できる信号は、1080/60p（1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz）までになります。これらを上回ると映像が途切れたり、LAN 通信で誤動作したりすることがあります。最長伝送距離以上でのご使用は、当社サポートの対象外となりますので、ご注意ください。なお、ロングリーチで接続する場合、ツイストペアケーブル伝送器の仕様によって伝送できる映像信号や距離が制限されることがあります。
- 本機で動作確認済みの他社製ツイストペアケーブル伝送器については、弊社 WEB サイト（<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>）をご覧ください。他社製機器の動作確認は、弊社確認項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

第 3 章 基本的な使い方

まず使っていただくための操作方法について説明しています。

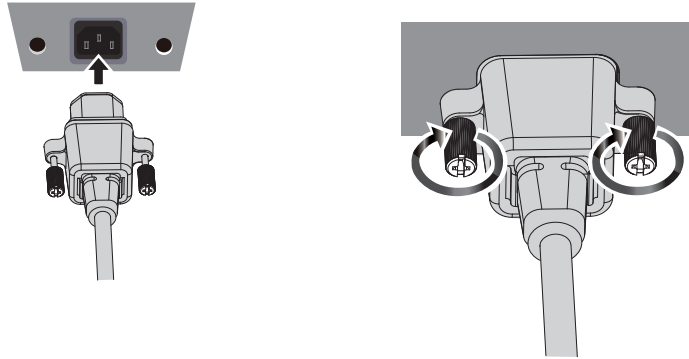
電源を入れる / 切る

電源コードを接続する

電源コードの抜けを防止するため、付属の電源コードを使用して、本体の〈AC IN〉端子に奥までしっかりと差し込んで固定してください。

電源コードの詳しい取り扱いについては“安全上のご注意”（ 4 ページ）をご覧ください。

取り付け方

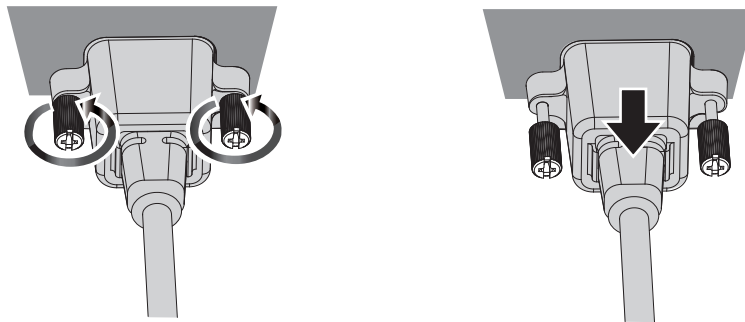


- 1) 本体後面の〈AC IN〉端子と、電源コードのコネクターの形状を確認し、向きを合わせて奥までしっかりと差し込む
- 2) コネクター左右の固定ネジで電源コードのコネクターを〈AC IN〉端子にしっかりと固定する

お願い

- 固定ネジを使用しない場合、または固定ネジがしっかりと締め付けられていない場合、電源コードのコネクターと〈AC IN〉端子との間で接触不良になるおそれがあります。電源コードの修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。

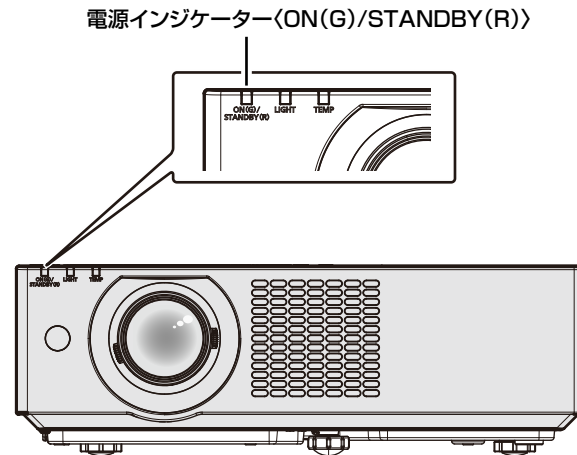
取り外し方



- 1) 本機がスタンバイ状態になっていることを確認し、コンセントから電源プラグを抜く
- 2) コネクター左右の固定ネジを外した後、本体の〈AC IN〉端子から電源コードを抜く

電源インジケータについて

電源の状態を表示します。電源インジケータ〈ON (G) /STANDBY (R)〉の状態をよく確認し、操作してください。



点灯状況		本機の状態
消灯		電源プラグがコンセントに接続されていません。
赤色	点灯	電源が切れています。(スタンバイ状態です。) 電源〈φ/I〉ボタンを押すと、本機は投写を開始します。 ● 本機の設定は次のとおりです。 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] が [ECO] ● 光源インジケータ〈LIGHT〉、温度インジケータ〈TEMP〉点滅時は電源〈φ/I〉ボタンを押しても投写を開始しないことがあります。(121 ページ)
	点滅 ^{*1}	電源が切れています。(スタンバイ状態です。) 電源〈φ/I〉ボタンを押すと、本機は投写を開始します。 ● 消費電力が高い状態になっています。本機の設定は次のとおりです。 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] が [ノーマル] ● 以下の本機の設定はいずれか、または両方になっています。 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] が [オン] - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [音声設定] → [スタンバイ時動作] が [オン] ● 本機を次のとおり設定している場合、スタンバイ状態になってから所定の時間が経過すると、赤色点灯に移行します。 所定の時間とは、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] → [有効期間] で設定した時間です。 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] が [オン] - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [音声設定] → [スタンバイ時動作] が [オフ] ● 光源インジケータ〈LIGHT〉、温度インジケータ〈TEMP〉点滅時は電源〈φ/I〉ボタンを押しても投写を開始しないことがあります。(121 ページ)
	点滅 ^{*2}	電源が切れています。(スタンバイ状態です。) 電源〈φ/I〉ボタンを押すと、本機は投写を開始します。 ● 消費電力が高い状態になっています。本機の設定は次のとおりです。 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] が [ノーマル] - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] が [オフ] - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [音声設定] → [スタンバイ時動作] が [オフ] ● 光源インジケータ〈LIGHT〉、温度インジケータ〈TEMP〉点滅時は電源〈φ/I〉ボタンを押しても投写を開始しないことがあります。(121 ページ)

点灯状況		本機の状態
緑色	点灯	投写状態です。
	点滅 ^{*3}	パワーマネジメント機能が働いて、光源を消灯しています。 信号が入力される、またはボタン操作をすると、光源が点灯して投写状態になります。 ・ 本機の設定は次のとおりです。 - [プロジェクター設定]メニュー→[ECO マネージメント]→[パワーマネジメント]が[待機]
	点滅 ^{*4}	シャッター機能を使用中(シャッター：閉)で、光源を消灯しています。 リモコンまたは本体操作部の〈SHUTTER〉ボタンを押すと、光源が点灯して投写状態になります。
オレンジ色	点灯	電源を切る準備をしています。 しばらくすると、電源が切れます。(スタンバイ状態になります。)

*1 点灯 0.5 秒 → 消灯 0.5 秒の周期で点滅します。

*2 点灯 2.75 秒 → 消灯 0.25 秒の周期で点滅します。

*3 点灯 2.0 秒 → 消灯 2.0 秒の周期で点滅します。

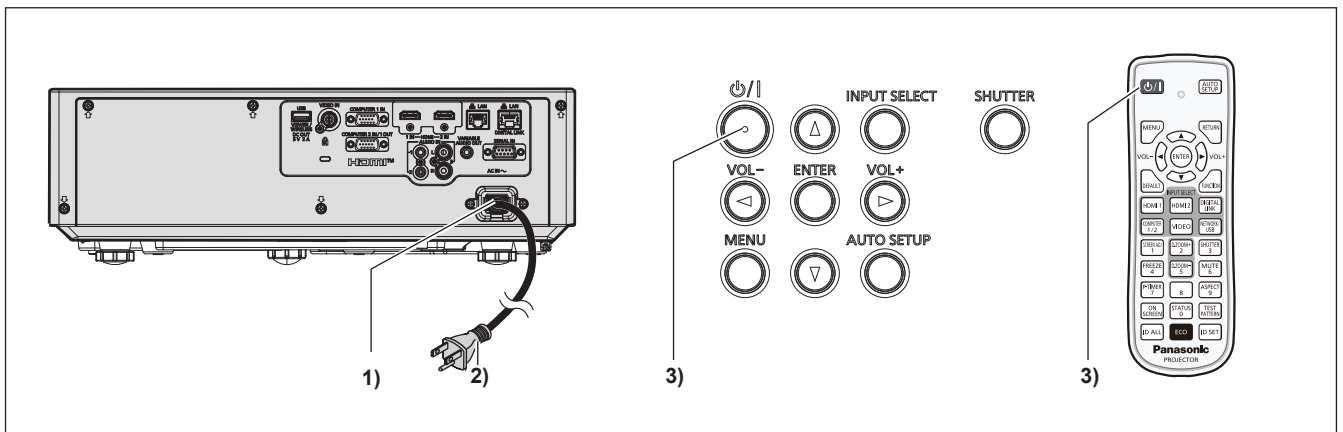
*4 点灯 0.75 秒 → 消灯 0.75 秒の周期で点滅します。

お知らせ

- 電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉がオレンジ色に点灯中は、ファンが回転し、本機を冷却しています。
- 電源を切ったあとの約 5 秒間は、電源を入れても点灯しません。電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が赤色に点灯 / 点滅してから、電源を入れ直してください。
- スタンバイ状態(電源インジケータ〈ON (G) /STANDBY (R)〉が赤色に点灯 / 点滅)でも、電力を消費しています。消費電力については、“消費電力”(141 ページ)をご覧ください。
- 本体がリモコンの信号を受信すると電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が点滅します。

電源を入れる

電源を入れる前に、“接続する”(31 ページ)を参考に、外部機器との接続を確認してください。
 あらかじめレンズキャップを取り外してください。



1) 本体に電源コードを接続する

2) 電源プラグをコンセントに接続する

- 電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が点灯 / 点滅してスタンバイ状態になります。

3) 電源 〈power icon〉ボタンを押す

- 電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が緑色に点灯し、しばらくすると映像が投写されます。

お願い

- 投写する際は、必ずレンズキャップを取り外してください。

お知らせ

- [プロジェクターセットアップ] メニュー→ [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ECO] に設定した場合、[ノーマル] 設定時と比べて、電源を入れてから投写を開始するまでに時間がかかります。
- [プロジェクターセットアップ] メニュー→ [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、スタンバイ状態になってから所定の時間が経過するまでに電源を入れると、電源を入れてから約 1 秒後に映像が投写されます。所定の時間とは、[プロジェクターセットアップ] メニュー→ [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] → [有効期間] で設定した時間です。

初期設定画面が表示されたら

本機をご購入後はじめて電源を入れたとき、および［プロジェクター設定］メニュー→［全設定初期化］を実行した場合、投写開始後に**【初期設定】**画面が表示されます。ご使用になる場合や状況に応じて設定してください。それ以外の場合でも、メニュー操作で設定を変更できます。

なお、**【初期設定】**画面を表示中に〈MENU〉ボタンまたは〈RETURN〉ボタンを押すと、1つ前の画面に戻ることができます。

お知らせ

- 初回使用の際は、メニュー画面をはっきり表示させるため、本体の投写レンズ部分にあるズームレバー、フォーカスレバー（ 21 ページ）での調整が必要になる場合があります。詳しくは“フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する”（ 45 ページ）をご覧ください。

初期設定（表示言語）

オンスクリーンに表示させる言語を選択してください。

初期設定終了後は、[表示言語] メニューで言語を変更できます。

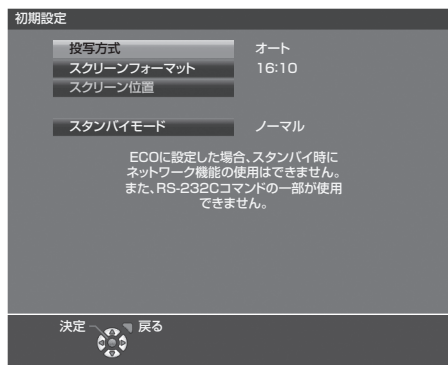
1) ▲▼◀▶ ボタンで表示言語を選択する



2) 〈ENTER〉ボタンを押し、次の初期設定を行う

初期設定（本体設定）

必要に応じて各項目の設定を変更してください。



1) ▲▼ ボタンで項目を選択する

項目	概要
【投写方式】	設置形態に応じて［投写方式］を設定します。
【スクリーンフォーマット】	スクリーンのフォーマット（縦横比）を設定します。
【スクリーン位置】	スクリーンの表示位置を設定します。
【スタンバイモード】	スタンバイ時の動作モードを設定します。

2) ◀▶ ボタンで設定を切り換える

- すべての設定が終わったら、手順 3) に進みます。

3) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 設定値を確定し、初期設定を終了します。

【投写方式】を設定する場合

画面表示が上下逆になったり、反転して映ったりしている場合に、設定を変更してください。詳しくは、“設置形態” (27 ページ) をご覧ください。

初期設定終了後は、[プロジェクター設定] メニュー → [投写方式] で設定を変更できます。

1) ▲▼ ボタンで【投写方式】を選択する

2) ◀▶ ボタンで設定を切り換える

- [オート] に設定すると、内蔵の角度センサーで本機の姿勢を検出し、[フロント / 床置き] または [フロント / 天つり] に自動的に切り換えます。スクリーン前方に設置するフロント投写の場合は、通常は [オート] に設定して使用してください。
- 本機をスクリーン後方 (透過式スクリーン使用) に設置する場合は、[リア / 床置き] または [リア / 天つり] を選択してください。

【スクリーンフォーマット】および【スクリーン位置】を設定する場合

ご使用のスクリーンに合わせて、スクリーンのフォーマット (縦横比) と表示位置を設定してください。初期設定終了後は、[表示オプション] メニュー → [スクリーン設定] → [スクリーンフォーマット] / [スクリーン位置] で設定を変更できます。

1) ▲▼ ボタンで【スクリーンフォーマット】を選択する

2) ◀▶ ボタンでスクリーンのフォーマット (縦横比) を選択する

3) ▲▼ ボタンで【スクリーン位置】を選択する

- [16 : 10] を選択した場合、[スクリーン位置] は変更できません。
- [16 : 9] または [4 : 3] を選択した場合は、手順 4) に進みます。

4) ◀▶ ボタンで映像位置を選択する

- [中央] / [左] / [右] または [中央] / [高] / [低] の中から選択してください。

【スタンバイモード】を設定する場合

スタンバイ時の動作モードを設定してください。初期設定終了後は、[プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] で設定を変更できます。

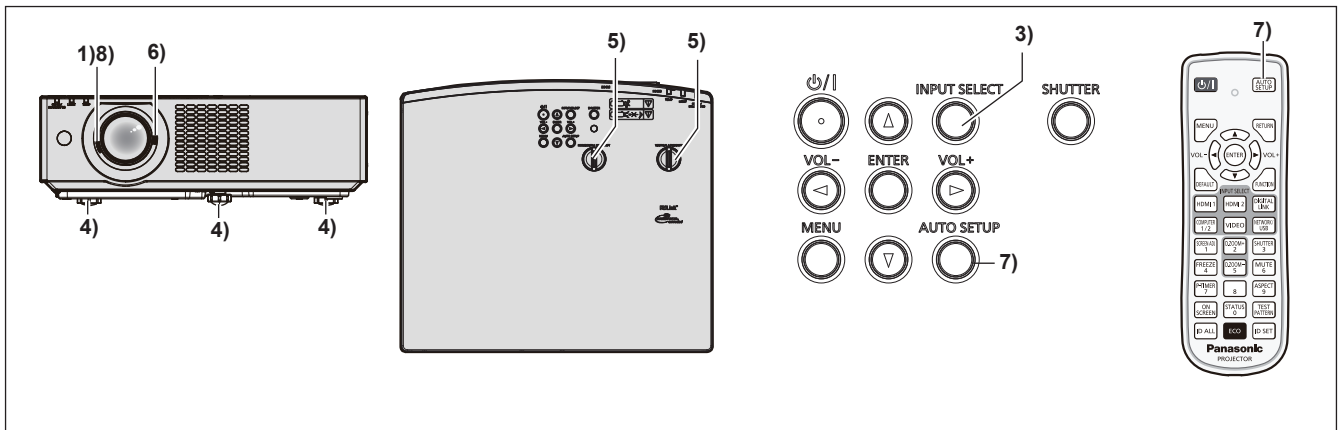
1) ▲▼ ボタンで【スタンバイモード】を選択する

2) ◀▶ ボタンで動作モードを選択する

- 工場出荷時の設定は、スタンバイ時にもネットワーク機能を使用できる [ノーマル] です。
- スタンバイ時の消費電力を低く抑える場合は、[ECO] に設定してください。

調整・選択をする

フォーカス調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。



1) フォーカスレバーを操作して、投写画面のフォーカスをおおまかに合わせる (21 ページ)

2) 設置形態に応じて、[プロジェクター設定] メニュー → [投写方式] の設定を変更する (27 ページ)

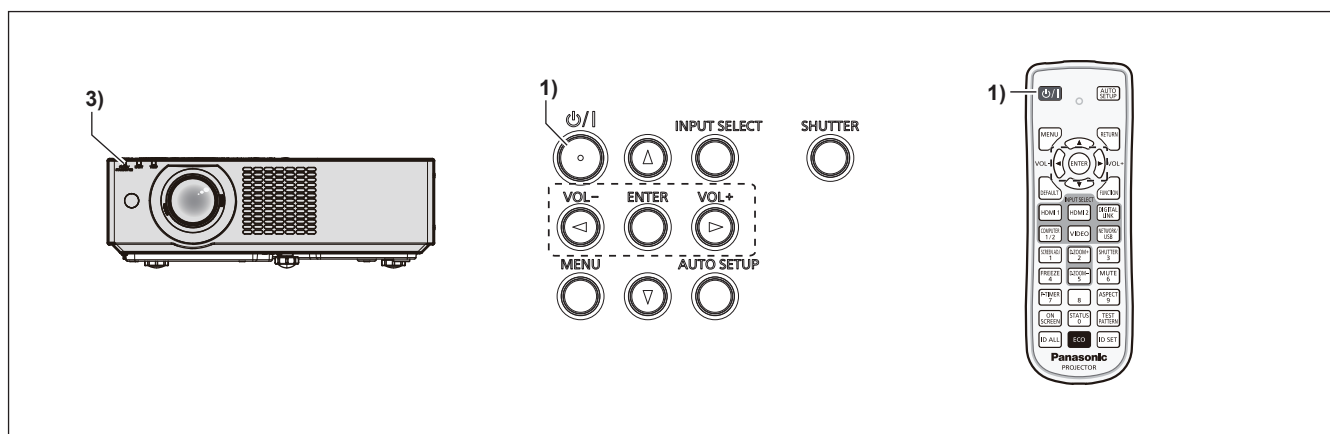
- メニューの操作については、“メニュー画面の操作方法” (54 ページ) をご覧ください。

- 3) リモコンの入力切替ボタンまたは本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押して入力を選択する (☞ 43 ページ)
 - リモコンで使用できるボタンは、次のとおりです。
 〈HDMI 1〉ボタン、〈HDMI 2〉ボタン、〈DIGITAL LINK〉ボタン、〈COMPUTER 1/2〉ボタン、〈VIDEO〉ボタン、〈NETWORK/USB〉ボタン
- 4) 本体の前後左右の傾きをアジャスター脚で調整する (☞ 45 ページ)
- 5) 水平 / 垂直レンズシフトダイヤルを操作して、投写画面の水平 / 垂直方向の位置を調整する (☞ 45 ページ)
- 6) ズームレバーを操作して、投写画面の大きさをスクリーンに合わせる (☞ 45 ページ)
- 7) 入力信号がアナログ RGB 信号の場合は、〈AUTO SETUP〉ボタンを押す
- 8) 再度、フォーカスレバーでフォーカスを調整する

お知らせ

- 本機をご購入後はじめて電源を入れたとき、および [プロジェクター設定] メニュー → [全設定初期化] を実行した場合、投写開始後に [初期設定] 画面が表示されます。詳しくは、“初期設定画面が表示されたら” (☞ 40 ページ) をご覧ください。

電源を切る



- 1) 電源 (電源アイコン) ボタンを押す
 - [電源オフ] 確認画面が表示されます。
- 2) ◀▶ ボタンで [はい] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す (または、電源 (電源アイコン) ボタンを再度押す)
 - 映像の投写が停止し、本体の電源インジケーター 〈ON (G) /STANDBY (R)〉がオレンジ色に点灯します。(ファンは回転したままです。)
- 3) 本体の電源インジケーター 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が赤色に点灯 / 点滅するまで待つ
 - 電源インジケーター 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が赤色の点灯 / 点滅に変わりスタンバイ状態になります。
- 4) コンセントから電源プラグを抜く

お知らせ

- 電源を切ったあとの約 5 秒間は、電源を入れても点灯しません。
- 電源 (電源アイコン) ボタンを押して電源を切っても、電源プラグをコンセントに接続していると、電力が消費されます。
 [プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ECO] に設定した場合、一部機能の利用が制限されますが、スタンバイ時の消費電力を節約できます。
- 投写中に電源プラグをコンセントから抜いたり、天つり設置時などに電源ブレーカーで電源を落としたりすることができるダイレクトパワーオフに対応しています。しかし、電源を切る直前に行った設定や調整内容が反映されないことがあります。

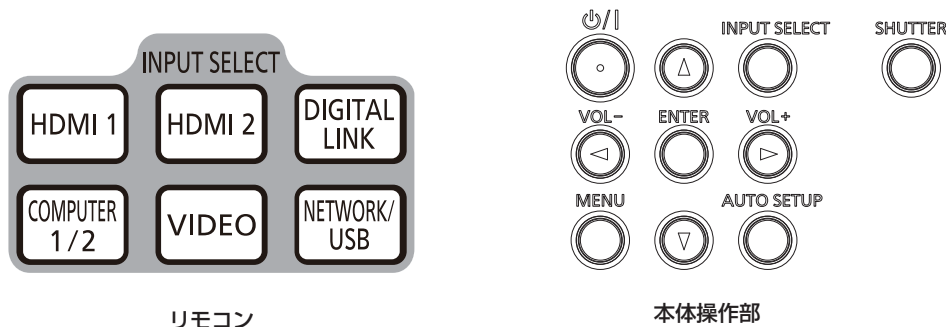
投写する

外部機器の接続（[31 ページ](#)）、電源コードの接続（[37 ページ](#)）を確認し、電源を入れる（[39 ページ](#)）と投写を開始します。投写する映像を選択し、映像の映り具合を調整してください。

投写する映像を選択する

投写する映像の入力を切り換えます。入力の切り換え方法は、次のとおりです。

- リモコンの入力切換ボタンを押して、投写する映像の入力を直接指定する。
- 本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押して入力ガイドを表示し、投写する映像の入力を選択する。



リモコンでダイレクトに入力を切り換える

リモコンの入力切換ボタンで、投写する映像の入力を直接指定して切り換えることができます。

- 1) 入力切換（〈HDMI 1〉、〈HDMI 2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈COMPUTER 1/2〉、〈VIDEO〉、〈NETWORK/USB〉）ボタンを押す

リモコンボタン	入力	用途
〈HDMI 1〉	HDMI1	HDMI 1 に入力を切り換えます。 〈HDMI 1 IN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈HDMI 2〉	HDMI2	HDMI 2 に入力を切り換えます。 〈HDMI 2 IN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈DIGITAL LINK〉	DIGITAL LINK	DIGITAL LINK に入力を切り換えます。 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈COMPUTER 1/2〉*1	COMPUTER1	COMPUTER1 または COMPUTER2 に入力を切り換えます。 〈COMPUTER 1 IN〉 / 〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。 すでにいずれかの入力を選択されている場合は、ボタンを押すごとに入力が切り換わります。
	COMPUTER2	
〈VIDEO〉	VIDEO	VIDEO に入力を切り換えます。 〈VIDEO IN〉端子に入力されている信号の映像が投写されます。
〈NETWORK/USB〉	MEMORY VIEWER	MEMORY VIEWER または NETWORK に入力を切り換えます。 すでにいずれかの入力を選択されている場合は、ボタンを押すごとに入力が切り換わります。 ● MEMORY VIEWER：メモリービューワー機能を用いて、USB メモリーに記録されている静止画を表示します。（ 97 ページ ） ● NETWORK：当社の画像転送用のアプリケーションソフトを用いて、端末から無線 LAN/ 有線 LAN で伝送される映像を表示します。（ 99 ページ ）
	NETWORK	

*1 [プロジェクター設定] メニュー → [COMPUTER2 入出力選択] を [COMPUTER1 OUT] に設定している場合、COMPUTER2 入力に切り換えできません。

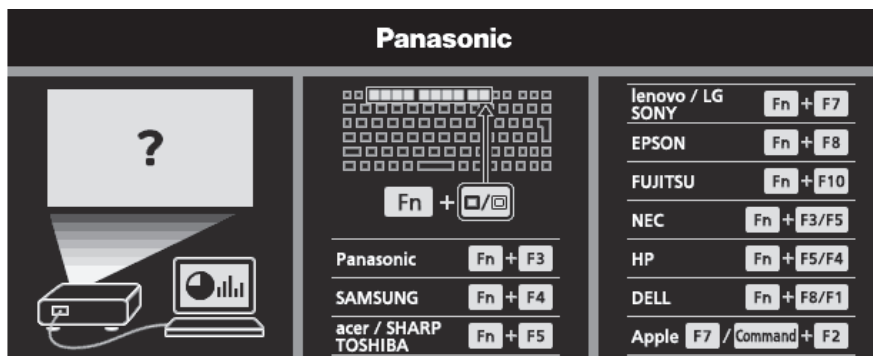
- 入力切り換え時に、一時的に詳細表示または簡易表示の入力ガイドが表示されます。入力ガイドについては、「本体操作部で入力を切り換える」（[44 ページ](#)）および「表示オプション」メニュー → 「オンスクリーン表示」 → 「入力ガイド」をご覧ください。

お願い

- 外部機器や再生するブルーレイディスク、DVD などによっては、正常に映像が映らないことがあります。その場合は、入力している信号に応じて次のメニュー項目を設定してください。
 - [映像調整] メニュー → [TV システム]
 - [映像調整] メニュー → [RGB/YCbCr]
 - [映像調整] メニュー → [RGB/YPrPb]
 - [映像調整] メニュー → [RGB システム]
- 投写するスクリーンと映像の縦横比を確認し、[位置調整] メニュー → [アスペクト] で最適な縦横比に切り換えてください。

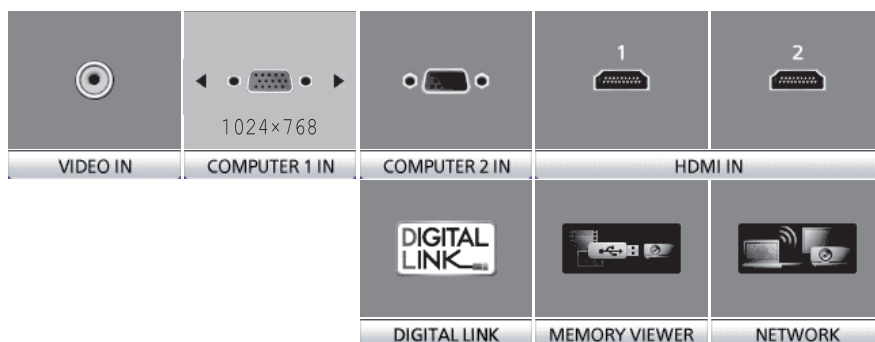
お知らせ

- NETWORK 入力、当社の画像転送用のアプリケーションソフトを用いて、コンピューター（iPad/iPhone/iPod touch、Android 端末を含む）から有線 LAN/ 無線 LAN を介して本機に画像を転送して表示する場合に選択します。画像転送用のアプリケーションソフト「Presenter Light ソフトウェア」、「ワイヤレスプロジェクター」については、次の URL を参照してください。
<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>
- 〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子に信号を入力する場合は、[プロジェクター設定] メニュー → [COMPUTER2 入出力選択] を [COMPUTER2 IN] に設定してください。[COMPUTER2 入出力選択] を [COMPUTER1 OUT] に設定している場合、COMPUTER2 入出力に切り換えできません。
- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合は、〈DIGITAL LINK〉ボタンを押すごとに、DIGITAL LINK 出力対応機器側の入力が切り換わります。また、RS-232C の操作コマンドでも入力の切り換えができます。
他社製ツイストペアケーブル伝送器の場合は、DIGITAL LINK 入出力に切り換えたい方で、ツイストペアケーブル伝送器側の入力切り換えを行ってください。
RS-232C の操作コマンドについて、詳しくは「〈SERIAL IN〉端子について」（135 ページ）をご覧ください。
- COMPUTER1/COMPUTER2/HDMI 1/HDMI 2 のいずれかの入力を選択していて、信号が入力されていない場合は、次の画面が表示されます。お使いのコンピューターの出力設定を確認してください。



本体操作部で入力を切り換える

本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンで、投写する映像の入力を切り換えることができます。
〈INPUT SELECT〉ボタンを押すと、詳細表示または簡易表示の入力ガイドが表示されます。



入力ガイド表示例(詳細表示)



入力ガイド表示例(簡易表示)

1) 本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押す

- 入力ガイドが表示されます。

2) 再度〈INPUT SELECT〉ボタンを押す

- 〈INPUT SELECT〉ボタンを押すごとに、切り換え可能な入力が切り換わります。
- 詳細表示の入力ガイドを表示中は、本体操作部またはリモコンの ▲▼◀▶ ボタンで入力を選択することもできます。

お知らせ

- 入力ガイドの詳細表示 / 簡易表示の切り換えは、[表示オプション] メニュー → [オンスクリーン表示] → [入力ガイド] で設定できます。
- [表示オプション] メニュー → [オンスクリーン表示] → [入力ガイド] を [オフ] に設定している場合、入力ガイドは表示されません。

フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整する

本機とスクリーンの位置関係が正しく設置された状態で、スクリーンに投写された映像や位置がずれている場合は、フォーカス、ズーム、レンズシフトを調整してください。

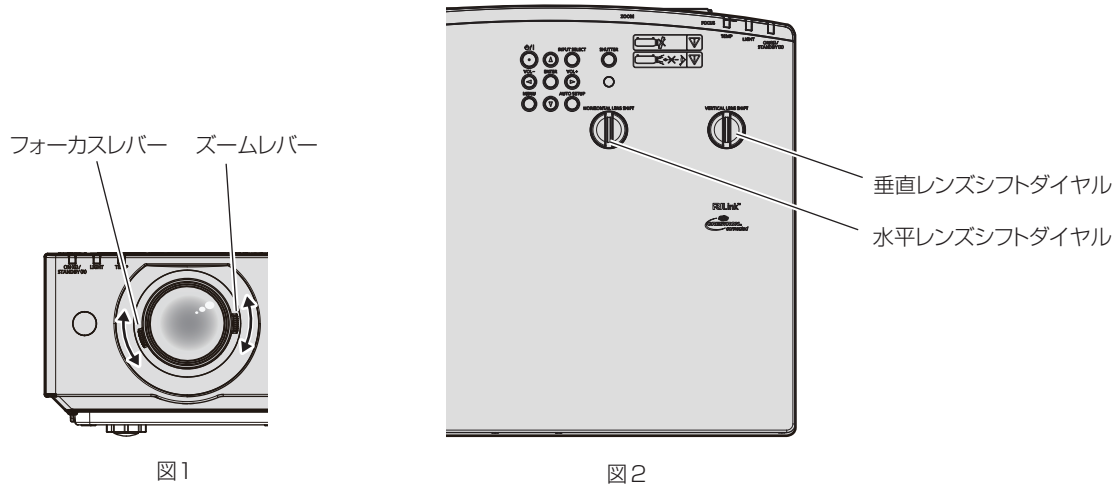


図 1

図 2

1) フォーカスとズームを調整する (図 1)

- フォーカスレバーを操作して、フォーカスを合わせます。
- ズームレバーを操作して、投写画面の大きさをスクリーンに合わせます。

2) レンズシフトを調整する (図 2)

- 水平レンズシフトダイヤルまたは垂直レンズシフトダイヤルを回して、水平方向または垂直方向の投写位置をスクリーンに合わせます。詳しくは“レンズシフト範囲について” (P. 46 ページ) をご覧ください。

お知らせ

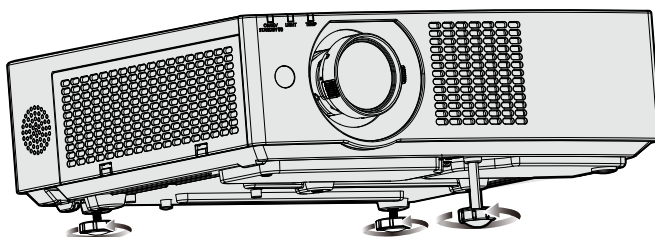
- フォーカス調整は、映像を映した状態で 30 分以上経過したのちに行うことをお勧めします。
- フォーカスを調整すると、投写画面の大きさも若干変化します。映像の映り具合に応じて、手順 1) と 2) の操作を繰り返して最良の状態になるよう調整してください。
- 投写映像にゆがみが発生している場合は、[位置調整] メニュー → [スクリーン補正] で補正してください。

アジャスター脚の調整

投写画面が長方形になるよう、プロジェクターは、その前面がスクリーン面と平行になるように水平な場所に設置してください。

スクリーンが上向きまたは下向きに傾いている場合は、前方アジャスター脚および後方アジャスター脚を伸ばして投写画面が長方形になるように調整します。プロジェクターが水平方向に傾いている場合も、後方アジャスター脚で水平になるように調整します。

図のようにアジャスター脚を回すと脚を伸ばすことができます。また、逆に回すと元に戻すことができます。



最大調整可能量

前方アジャスター脚：37 mm
各後方アジャスター脚：7.5 mm

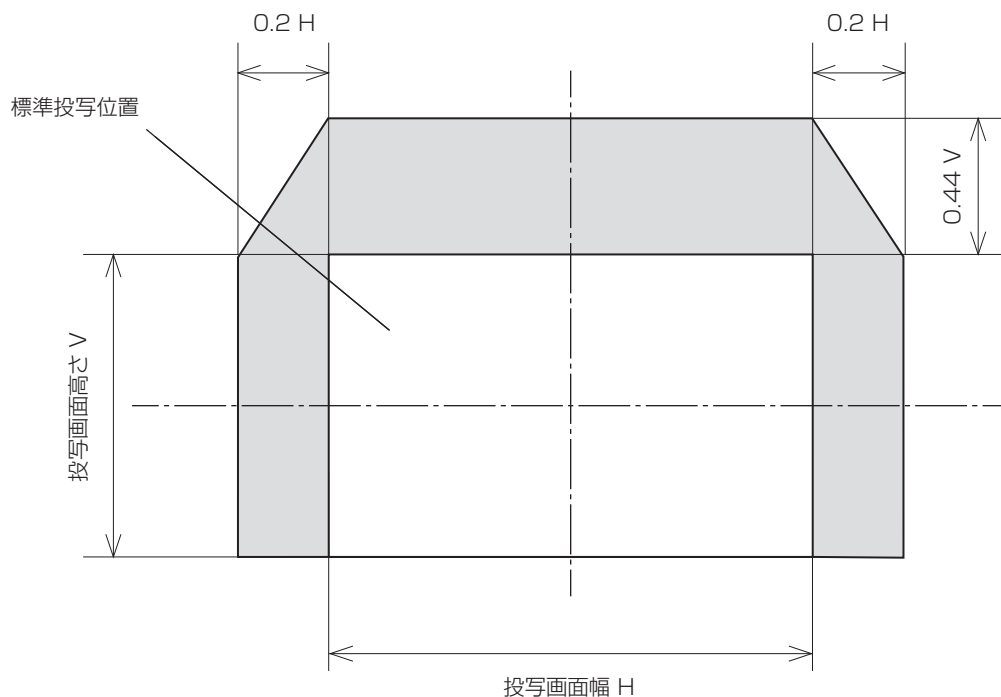
お願い

- 光源点灯中にアジャスター脚を調整するときは、手などで吸排気を妨げないように注意してください。(P. 21 ページ)

レンズシフト範囲について

本機は水平方向および垂直方向のレンズシフト機能を備えており、標準投写位置を基準に、次の図の範囲で投写位置を調整できます。

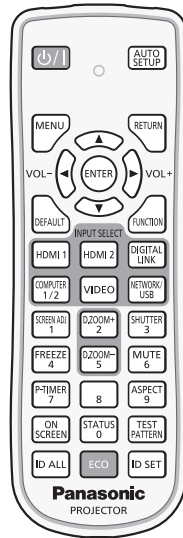
次の図は、本機を床置きで設置する場合の調整範囲です。



お知らせ

- 標準投写位置とは、レンズシフト調整をしていない状態での投写画面の位置を表します。

リモコンで操作する



シャッター機能を使う

会議の休憩時間や準備などの一定時間だけ本機を使用しない場合には、映像と音声を一時的に消すことができます。

ボタン

1) 〈SHUTTER〉ボタンを押す

- 映像と音声が消えます。
- 本体操作部の〈SHUTTER〉ボタンを押しても操作できます。

2) 再度〈SHUTTER〉ボタンを押す

- 映像と音声がでます。

お知らせ

- シャッター機能を使用中（シャッター：閉）は、電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が点灯 0.75 秒→消灯 0.75 秒の周期で緑色点滅します。
- シャッター機能を使用中（シャッター：閉）でも、電源 〈I〉ボタン、入力切替（〈HDMI 1〉、〈HDMI 2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈COMPUTER 1/2〉、〈VIDEO〉、〈NETWORK/USB〉）ボタンの操作ができます。
- 使用環境温度が 0℃付近でシャッター機能を使用すると、ウォームアップのため、光源が薄暗く点灯することがあります。

消音機能を使う

音声を一時的に消すことができます。

ボタン

1) 〈MUTE〉ボタンを押す

- 音声が消えます。

2) 再度〈MUTE〉ボタンを押す

- 音声がでます。

音量を調整する

内蔵スピーカーおよび音声出力の音量を調整できます。



1) リモコンの〈VOL-〉ボタン / 〈VOL+〉ボタンを押す

〈VOL+〉	音を大きくします。
〈VOL-〉	音を小さくします。

お知らせ

- 本体操作部の〈VOL-〉ボタン / 〈VOL+〉ボタンでも操作できます。

静止機能を使う

外部機器の再生に関係なく、一時的に投写映像を静止し、音声を消すことができます。



1) 〈FREEZE〉ボタンを押す

- 映像が静止し、音声が消えます。

2) 再度〈FREEZE〉ボタンを押す

- 映像の静止が解除され、音声がでます。

お知らせ

- 静止中は、投写画面の左下に「静止」と表示されます。
- 動画の静止を解除したときに、映像が一時的に消えたり、乱れたりすることがあります。

オンスクリーン表示機能を使う

メニューや入力端子名などのオンスクリーン表示を視聴者に見せたくない場合に、オンスクリーン表示機能をオフ（非表示）にします。



1) 〈ON SCREEN〉ボタンを押す

- オンスクリーン表示が消えます。

2) 再度〈ON SCREEN〉ボタンを押す

- オンスクリーン表示がでます。

お知らせ

- オンスクリーン表示がオフ（非表示）の状態、本体操作部の〈MENU〉ボタンを3秒以上長押しすると、オンスクリーン表示の非表示状態を解除します。

オートセットアップ機能を使う

コンピューター信号のようなドット構成されたアナログRGB信号入力時のドットクロック、クロックフェーズ、映像位置を自動で調整できます。自動調整時は、最外郭が明るい白枠で、白黒がはっきりしたキャラクター文字などを含む画像を入力することをお勧めします。

写真やCGのような中間調を含む画像は適しません。



1) 〈AUTO SETUP〉ボタンを押す

お知らせ

- 本体操作部の〈AUTO SETUP〉ボタンでも操作できます。
- 自動調整してもクロックフェーズがずれていることがあります。このときは、[位置調整] メニュー → [クロックフェーズ] (👉 67 ページ) で調整してください。
- 画面の端がわからないような画像や暗い画像を入力すると、自動調整をしても正しく調整できていないことがあります。このときは、次の設定を調整してください。
 - [位置調整] メニュー → [ドットクロック] (👉 67 ページ)
 - [位置調整] メニュー → [クロックフェーズ] (👉 67 ページ)
 - [位置調整] メニュー → [シフト] (👉 66 ページ)
- コンピューターのモデルや入力信号によっては自動調整できないことがあります。
- 自動調整中、数秒間画像が乱れる場合がありますが、異常ではありません。
- 自動調整中にリモコンのいずれかのボタンを押すと、自動調整を取り消すことができます。
- オートセットアップが可能な信号であっても、動画映像が入力されている状態でオートセットアップ機能を使用した場合、正しく調整できていないことがあります。

スクリーン補正機能を使う

[スクリーン補正] メニューを表示できます。

本機を傾けて設置した場合や、スクリーンが傾いていたり湾曲したりしている場合に発生する映像のゆがみを補正します。



- 1) 〈SCREEN ADJ〉ボタンを押して[台形補正] 個別調整画面を表示する
または、再度〈SCREEN ADJ〉ボタンを押して[コーナー補正] 個別調整画面を表示する
または、再度〈SCREEN ADJ〉ボタンを押して[曲面スクリーン補正] 個別調整画面を表示する

- いずれかの個別調整画面で調整している場合、〈SCREEN ADJ〉ボタンを押しても個別調整画面は切り換わりません。

[台形補正]	投写映像が台形にゆがむ場合に調整します。
[コーナー補正]	投写映像の四隅がゆがむ場合に調整します。
[曲面スクリーン補正]	投写映像が曲面にゆがむ場合に調整します。

- [台形補正] を調整する場合は、手順 3) に進みます。

- 2) 〈ENTER〉ボタンを押して調整する項目を選択する

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

- 3) ▲▼◀▶ ボタンを押して調整する

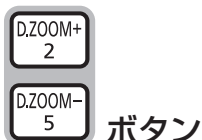
お知らせ

- [台形補正]、[コーナー補正]、[曲面スクリーン補正] は、いずれかの設定のみが有効になります。
- 詳しくは、[位置調整] メニュー → [スクリーン補正] (👉 64 ページ) をご覧ください。

デジタルズーム機能を使う

(静止画系信号入力時のみ)

映像を拡大したり、映像の拡大場所を移動したりします。

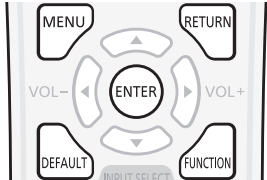


- 1) 〈D.ZOOM-〉ボタン / 〈D.ZOOM+〉ボタンを押す

- リモコン操作から実行すると、[デジタルズーム] 個別調整画面は表示されず、移動画面が表示されます。
- メニュー操作から実行すると、[デジタルズーム] 個別調整画面が表示されます。詳しくは、[表示オプション] メニュー → [その他の機能] → [デジタルズーム] (👉 77 ページ) をご覧ください。

- 2) 次のボタン操作で拡大場所を移動したり、倍率を調整したりする

- 〈D.ZOOM -〉 ボタン / 〈D.ZOOM +〉 ボタンを 3 秒以上押すとデジタルズームの調整値が解除されます。

操作メニュー / ボタン	操作	変化内容
 移動画面  リモコン操作ボタン	▲ ボタンを押す	画像が下へ移動します。
	▼ ボタンを押す	画像が上へ移動します。
	◀ ボタンを押す	画像が右へ移動します。
	▶ ボタンを押す	画像が左へ移動します。
	〈MENU〉 ボタンを押す	左上端を表示します。
	〈RETURN〉 ボタンを押す	右上端を表示します。
	〈ENTER〉 ボタンを押す	中心を表示します。
	〈DEFAULT〉 ボタンを押す	左下端を表示します。
	〈FUNCTION〉 ボタンを押す	右下端を表示します。
	〈D.ZOOM +〉 ボタンを押す	倍率が上がります。
	〈D.ZOOM -〉 ボタンを押す	倍率が下がります。

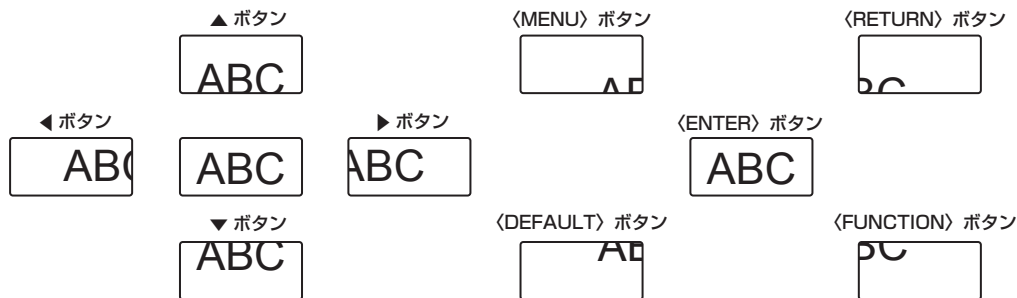


図1 ボタン操作後の画面表示位置

お知らせ

- 移動画面に倍率は表示されません。
- デジタルズーム中に入力信号の種類が変わると、デジタルズームの調整値が解除されます。
- デジタルズーム中は、静止機能は無効になります。
- 一部の静止画系信号ではデジタルズームは動作しません。

映像の縦横比を切り換える

入力に応じて映像の縦横比（アスペクト比）を切り換えることができます。



1) 〈ASPECT〉 ボタンを押す

- ボタンを押すごとに、設定が切り換わります。

お知らせ

- 詳しくは、[位置調整] メニュー → [アスペクト] (p.68 ページ) をご覧ください。

プレゼンテーションタイマー機能を使う

プレゼンテーションタイマーを操作できます。

経過時間、または設定した時間に対する残り時間を確認しながらプレゼンテーションなどを行うことができます。



1) 〈P-TIMER〉 ボタンを押す

- カウントを開始します。

2) 再度 〈P-TIMER〉 ボタンを押す

- カウントを停止します。

お知らせ

- プレゼンテーションタイマーを使用中は、投写画面の右下に経過時間または残り時間が表示されます。

- カウント停止中に〈P-TIMER〉ボタンを押すと、カウントを再開します。
- 〈P-TIMER〉ボタンを 3 秒以上長押しすると、プレゼンテーションタイマーを終了します。
- プレゼンテーションタイマー機能の設定など詳細については、[表示オプション] メニュー → [プレゼンテーションタイマー] (🔍 75 ページ) をご覧ください。

ファンクションボタンを使う

リモコンの〈FUNCTION〉ボタンによく使うメニュー項目を割り当てることで、簡単なショートカットボタンとして使用できます。



1) 〈FUNCTION〉ボタンを押す

〈FUNCTION〉ボタンへの割り当てを設定する場合

1) 〈MENU〉ボタンを押して、割り当てたいメニュー項目（メインメニュー、サブメニュー、または詳細メニュー）を表示させる

- メニューの操作については、“メニュー画面の操作方法” (🔍 54 ページ) をご覧ください。

2) 〈FUNCTION〉ボタンを 3 秒以上押し続ける

お知らせ

- 設定が完了すると、割り当てたメニュー項目がメニュー下部の操作ガイド部分に、[割り当て機能] として表示されます。
- 割り当ての解除は、[プロジェクター設定] メニュー → [ファンクションボタン] (🔍 83 ページ) で行います。

内蔵テストパターンを表示する

本体の状態を確認するために、10 種類の内蔵テストパターンを表示させることができます。テストパターンを表示させる場合は、次の手順で操作してください。



1) 〈TEST PATTERN〉ボタンを押す

2) ◀▶ ボタンでテストパターンを選択する

お知らせ

- [プロジェクター設定] メニュー → [テストパターン] (🔍 85 ページ) でも設定できます。
- 位置、サイズなどの設定内容はテストパターンには反映されません。必ず入力信号を表示させた状態で各種調整を行ってください。

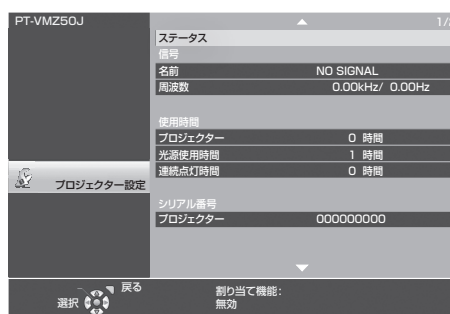
ステータス機能を使う

本体の情報を表示します。



1) 〈STATUS〉ボタンを押す

- [ステータス] 画面が表示されます。



お知らせ

- メニュー操作でも本体の状態を表示できます。詳しくは、[プロジェクター設定] メニュー → [ステータス] (📖 78 ページ) をご覧ください。

ECO マネージメント機能を使う

ECO マネージメントに関する設定画面を表示できます。



1) 〈ECO〉ボタンを押す

お知らせ

- 詳しくは、[プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] (📖 79 ページ) をご覧ください。

リモコンの ID ナンバーを設定する

本機を複数台並べて使用する場合、それぞれの本体に個々の ID ナンバーを設定することにより、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

本体の ID ナンバーを設定したあと、同じ ID ナンバーをリモコンに指定してください。

本機の ID ナンバーは、工場出荷時、[オール] に設定されています。1 台だけでご使用の場合は、リモコンの〈ID ALL〉ボタンを押してください。また、本体の ID がわからない場合でも、リモコンの〈ID ALL〉ボタンを押せば制御できます。



1) 〈ID SET〉ボタンを押す

2) 5 秒以内に、本体側で設定した 1 桁または 2 桁の ID ナンバーを、数字 (〈0〉～〈9〉) ボタンを押して設定する

- 〈ID ALL〉ボタンを押した場合は、本体の ID ナンバー設定に関係なく制御できます。

お願い

- リモコンの ID ナンバー指定は、本体がなくても可能なため、リモコンの〈ID SET〉ボタンは不用意に押さないでください。〈ID SET〉ボタンを押した場合は、5 秒以内に数字 (〈0〉～〈9〉) ボタンを押さないと〈ID SET〉ボタンを押す以前の ID ナンバーに戻ります。
- リモコンに入力された ID ナンバーの指定は、再度指定しない限り記憶しています。ただし、リモコンの電池が消耗したまま放置しておくと消去されます。乾電池を交換した場合は、同じ ID ナンバーを再度設定してください。

お知らせ

- リモコンの ID ナンバーを [0] に設定した場合は、[オール] に設定した場合と同様に、本体の ID ナンバー設定に関係なく制御できます。
- 本体の ID ナンバーは、[プロジェクター設定] メニュー → [プロジェクター ID] で設定してください。(📖 78 ページ)

第 4 章 調整と設定

オンスクリーンメニューを使ってできる設定や調整方法について説明しています。

オンスクリーンメニューについて

本機の各種設定や調整は、オンスクリーンメニュー（メニュー画面）を使用します。

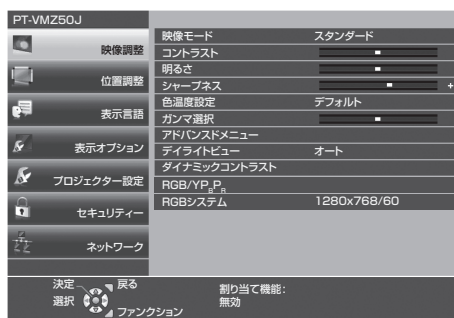
メニュー画面の操作方法

操作の手順



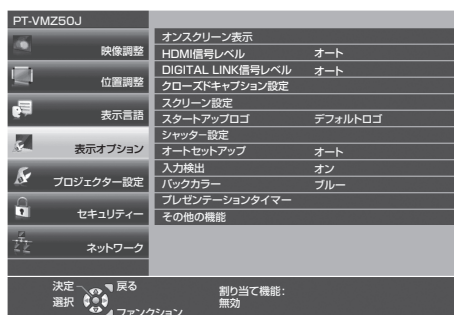
1) リモコンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押す

- メインメニュー画面が表示されます。



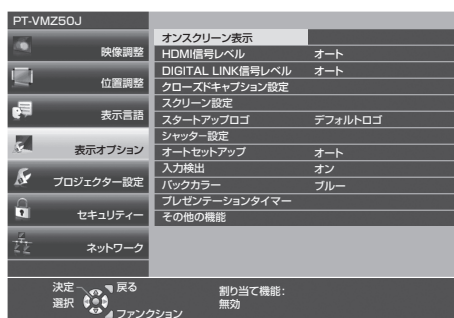
2) ▲▼ ボタンを押してメインメニュー項目を選択する

- 選択中の項目は黄色のカーソルで表示されます。



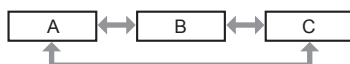
3) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 選択したメインメニューのサブメニューの操作ができます。



4) ▲▼ ボタンを押してサブメニュー項目を選択し、◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押して設定の切り換えや調整を行う

- 項目によっては ◀▶ ボタンを押すごとに、下図のように順繰りに項目が切り換わります。



- 項目によっては ◀▶ ボタンを押すと、下図のようなバースケールの個別調整画面が表示されます。



お知らせ

- メニュー画面を表示中に〈MENU〉ボタンを押すと、1 つ上の階層のメニュー画面に戻ります。〈RETURN〉ボタンを押すことでも同様に操作できます。
- 選択している入力や本機に入力してる信号によっては、調整できない項目や使用できない機能があります。調整または使用できない状態のときは、メニュー画面の項目が灰色文字で表示され、項目は選択できません。
- 信号が入力されていない場合でも、調整できるものがあります。
- 約 5 秒間何も操作しないで放置していると、個別調整画面は自動的に消えます。
- メニューの項目については“メインメニュー”（ 55 ページ）や“サブメニュー”（ 55 ページ）をご覧ください。

調整値を工場出荷時の状態に戻す

リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押すと、メニュー項目で調整した値が工場出荷時の状態に戻ります。



1) リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押す

お知らせ

- すべての設定を一度に工場出荷時の状態には戻せません。
- サブメニュー項目で調整した値を、一度に工場出荷時の状態に戻すには、[プロジェクター設定] メニュー → [全設定初期化] で行います。
- リモコンの〈DEFAULT〉ボタンを押しても、工場出荷時の状態に戻らない項目もあります。それらの項目は個別に操作してください。

メインメニュー

メインメニューには以下の項目があります。

メインメニューを選択すると、カーソルがサブメニューに移動します。

メインメニュー項目		ページ
	[映像調整]	58
	[位置調整]	64
	[表示言語]	70
	[表示オプション]	71
	[プロジェクター設定]	78
	[セキュリティ]	88
	[ネットワーク]	91

サブメニュー

各サブメニュー項目の設定・調整ができます。

[映像調整]



サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[映像モード]	[スタンダード]	58
[コントラスト]	[0]	58
[明るさ]	[0]	58
[色の濃さ]	[0] *1	59
[色あい]	[0]	59
[シャープネス]	[9]	59
[色温度設定]	[デフォルト]	59
[ガンマ選択]	[0]	60
[アドバンスドメニュー]	—	60
[デイライトビュー]	[オート]	60
[デジタルシネマリアリティー]	[オン]	61
[ノイズリダクション]	[オフ]	61
[ダイナミックコントラスト]	[オフ]	61
[TV システム]	[オート]	62
[RGB/YCbCr] / [RGB/YPrPb]	[オート]	62
[RGB システム]	[1280x768/60] *1	63

*1 入力信号により異なります。

[位置調整]



サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[リアルタイム台形補正]	[オン]	64
[スクリーン補正]	—	64
[シフト]	—	66
[ドットクロック]	[0]	67
[クロックフェーズ]	[0]	67
[オーバースキャン]	[0] *1	67
[アスペクト]	[ノーマル] *1	68
[フレームロック]	[オン]	68
[クランプ位置]	[24] *1	68

*1 入力信号により異なります。

[表示言語]



項目の詳細 (70 ページ)

[表示オプション]



サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[オンスクリーン表示]	—	71
[HDMI 信号レベル]	—	72
[DIGITAL LINK 信号レベル]	—	72
[クローズドキャプション設定]	—	73
[スクリーン設定]	—	73
[スタートアップロゴ]	[デフォルトロゴ]	74
[シャッター設定]	—	74
[自動位置補正設定]	[オート]	74
[入力検出]	[オン]	75
[バックカラー]	[ブルー]	75
[プレゼンテーションタイマー]	—	75
[その他の機能]	—	76

【プロジェクター設定】



サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[ステータス]	—	78
[COMPUTER2 入出力選択]	[COMPUTER2 IN]	78
[プロジェクター ID]	[オール]	78
[起動方法]	[ラストメモリー]	79
[投写方式]	[オート]	79
[ECO マネージメント]	—	79
[RS-232C]	—	82
[ファンクションボタン]	—	83
[音声設定]	—	84
[テストパターン]	—	85
[フィルターカウンター]	—	86
[全設定初期化]	—	86

【セキュリティ】



サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[パスワード設定]	[オフ]	88
[パスワード変更]	—	88
[テキスト設定]	[オフ]	89
[テキスト変更]	—	89
[メニューロック]	[オフ]	89
[メニューロックパスワード]	—	89
[操作設定]	—	90

【ネットワーク】



サブメニュー項目	工場出荷時	ページ
[DIGITAL LINK モード]	[オート]	91
[DIGITAL LINK ステータス]	—	91
[DIGITAL LINK メニュー]	—	92
[有線 LAN]	—	92
[プロジェクター名]	—	92
[ネットワークコントロール]	—	93
[メモリービューワー]	—	93
[ネットワークステータス]	—	95
[初期化]	—	95

お知らせ

- 本機に入力される信号によっては、調整できない項目や使用できない機能があります。
調整または使用できない状態のときは、メニュー画面の項目が灰色文字で表示され、項目は選択できません。
- サブメニューの項目、および工場出荷時の値は、選択している入力により表示が異なります。

[映像調整] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[映像調整]を選択し、サブメニューから項目を選択してください。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（ 54 ページ）をご覧ください。

[映像モード]

ご覧になる映像や視聴環境に合わせて最適な映像モードに設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [映像モード] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [映像モード] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【スタンダード】	動画系全般に適した画像になります。
【ダイナミック】	明るい場所で使用する場合に適した画像になります。
【黒板】	黒板への投写に適した画像になります。
【ホワイトボード】	ホワイトボードへの投写に適した画像になります。
【シネマ】*1	映画コンテンツに適した画像になります。
【ナチュラル】*2	暗い部屋で使用する場合に適した画像になります。

*1 動画系信号入力時

*2 静止画系信号入力時

[コントラスト]

色の明暗度を調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [コントラスト] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [コントラスト] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	画面が明るくなります。	-32 ~ +32
◀ ボタンを押す	画面が暗くなります。	

お願い

- [明るさ] と [コントラスト] を調整する必要がある場合には、[明るさ] を先に調整してください。

[明るさ]

画面の暗い部分（黒色）を調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [明るさ] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [明るさ] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	画面の暗い部分（黒色）が明るくなります。	-32 ~ +32
◀ ボタンを押す	画面の暗い部分（黒色）が暗くなります。	

[色の濃さ]

(動画系信号入力時のみ)

色の濃さを調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [色の濃さ] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [色の濃さ] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	色が濃くなります。	-32 ~ +32
◀ ボタンを押す	色が薄くなります。	

[色あい]

(PAL/PAL-M/PAL-N/PAL60/SECAM を除く動画系信号入力時)

肌色の部分を調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [色あい] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [色あい] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	色あいが変化し肌色が緑色がかかります。	-32 ~ +32
◀ ボタンを押す	色あいが変化し肌色が赤紫色がかかります。	

[シャープネス]

映像のシャープ感を調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [シャープネス] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [シャープネス] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	輪郭がシャープになります。	0 ~ +15
◀ ボタンを押す	輪郭がやわらかくなります。	

[色温度設定]

映像の白色部分が青みがかったり、赤みがかったりする場合に切り換えます。

- 1) ▲▼ ボタンで [色温度設定] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [色温度設定] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルト]	工場出荷時の状態です。
[高]	青みがかった映像になります。映像の白色部分が赤みがかっている場合に選択します。
[低]	赤みがかった映像になります。映像の白色部分が青みがかっている場合に選択します。

[ガンマ選択]

コントラストのバランスを調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ガンマ選択] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [ガンマ選択] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	中間階調が明るくなります。	-8 ~ +7
◀ ボタンを押す	中間階調が暗くなります。	

[アドバンスドメニュー]

映像をさらに詳細に調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [アドバンスドメニュー] を選択する
- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [アドバンスドメニュー] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [コントラスト R] ~ [ブライト B] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - 各調整項目の個別調整画面が表示されます。
- 5) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

調整項目	操作	変化内容	調整範囲
[コントラスト R]	▶ ボタンを押す	明るい部分の赤色が強くなります。	-32 ~ +32
	◀ ボタンを押す	明るい部分の赤色が弱くなります。	
[コントラスト G]	▶ ボタンを押す	明るい部分の緑色が強くなります。	-32 ~ +32
	◀ ボタンを押す	明るい部分の緑色が弱くなります。	
[コントラスト B]	▶ ボタンを押す	明るい部分の青色が強くなります。	-32 ~ +32
	◀ ボタンを押す	明るい部分の青色が弱くなります。	
[ブライト R]	▶ ボタンを押す	暗い部分の赤色が強くなります。	-32 ~ +32
	◀ ボタンを押す	暗い部分の赤色が弱くなります。	
[ブライト G]	▶ ボタンを押す	暗い部分の緑色が強くなります。	-32 ~ +32
	◀ ボタンを押す	暗い部分の緑色が弱くなります。	
[ブライト B]	▶ ボタンを押す	暗い部分の青色が強くなります。	-32 ~ +32
	◀ ボタンを押す	暗い部分の青色が弱くなります。	

[デイライトビュー]

明るい照明下で映像を投写する場合でも、映像を最適な鮮やかさに補正します。

- 1) ▲▼ ボタンで [デイライトビュー] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [デイライトビュー] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	補正なしの状態です。
[1]	映像の鮮やかさを弱めに補正します。
[2]	映像の鮮やかさを中程度に補正します。
[3]	映像の鮮やかさを強めに補正します。
[オート]	照度センサーで設置環境の明るさを検出して、映像の鮮やかさを自動的に補正します。

お知らせ

- [プロジェクター設定] メニュー → [投写方式] を [リア / 床置き] または [リア / 天つり] に設定している場合、[オート] は選択できません。
- プロジェクターの天面にものなどを置くと照度センサーが陰に入り、明るさを正しく検出できないことがあります。この場合、[オート] に設定していても適切に動作しないことがあります。

【デジタルシネマリアリティー】

次の信号が入力されたとき、シネマ処理をして垂直解像度をさらに上げ、画質を向上させます。
480/60i、576/50i、1080/60i、1080/50i、およびビデオ信号

- 1) ▲▼ ボタンで [デジタルシネマリアリティー] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [デジタルシネマリアリティー] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	シネマ処理をしません。
【オン】	シネマ処理をします。

【ノイズリダクション】

(ビデオ信号入力時のみ)
入力された映像が劣化して、映像信号ノイズが発生している場合に切り換えます。

- 1) ▲▼ ボタンで [ノイズリダクション] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ノイズリダクション] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	補正なしの状態です。
【オン】	ノイズを補正します。

お願い

- ノイズが少ない入力信号に対して設定すると、映像本来のイメージと違って見える場合があります。その際は [オフ] に設定してください。

【ダイナミックコントラスト】

映像に合わせて自動的に光源の調光と信号補正を行うことで、最適なコントラストの画像にします。

- 1) ▲▼ ボタンで [ダイナミックコントラスト] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ダイナミックコントラスト] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	ダイナミックコントラスト機能を無効にします。
【1】	光源の調光と信号を弱めに補正します。
【2】	光源の調光と信号を強めに補正します。
【ユーザー】	入力中の映像信号が、ある一定の明るさレベル以下になった場合に一時的に光源を消灯できます。詳しくは、“光源の消灯条件を設定する場合” (👁 61 ページ) をご覧ください。

お知らせ

- [ダイナミックコントラスト] は、信号が入力されているときのみ調整できます。メニュー画面 (OSD) や入力ガイドなどのオンスクリーン表示、テストパターン、警告メッセージを表示されていないときのみ設定が有効になります。

光源の消灯条件を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [ダイナミックコントラスト] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは <ENTER> ボタンを押す
 - [ダイナミックコントラスト] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで [ユーザー] を選択する
- 4) <ENTER> ボタンを押す
 - [ダイナミックコントラスト] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで設定したい項目を選択する
 - ◀▶ ボタンを押すごとに、その詳細設定の項目が切り換ります。

設定項目	内容
[消灯検出タイマー] (消灯するまでの時間設定)	[無効]
	光源を消灯しません。
	[0.5s] ~ [10.0s]
	設定した時間の間、入力中の映像信号の明るさレベルが [消灯検出信号レベル] で設定した値を下回り続けると、光源を消灯します。項目は、[0.5s] ~ [4.0s]、[5.0s]、[7.0s]、[10.0s] から選択します。 [0.5s] ~ [4.0s] までは、0.5 単位で選択できます。
[消灯検出信号レベル] (消灯する信号の明るさレベルの設定)	[0%] ~ [5%]
	[消灯検出タイマー] で光源を消灯する場合の映像信号の明るさレベルを設定します。 1 % 単位で設定できます。(出荷設定値 0 %)

お知らせ

- [消灯検出タイマー] を [無効] に設定している場合、[消灯検出信号レベル] は設定できません。
- [消灯検出タイマー] を [無効] 以外に設定している場合、この機能が働いて光源が消灯した状態から、再び光源が点灯する条件は次のとおりです。
 - 入力中の映像信号の明るさレベルが、[消灯検出信号レベル] で設定した値を超えたとき
 - 入力信号がなくなったとき
 - メニュー画面 (OSD) や入力ガイドなどのオンスクリーン表示、テストパターン、警告メッセージを表示するとき
- アナログ信号の映像を投写している場合、映像信号の明るさレベルを検出するときに信号ノイズの影響を受けることがあります。この場合、[消灯検出信号レベル] で設定した明るさレベルを下回る映像であっても、信号としては下回っていないものと判別されます。

[TV システム]

(ビデオ信号入力時のみ)

本機は入力信号を自動判別しますが、不安定な信号を入力している場合は、手動でカラー方式を設定します。入力信号に合ったカラー方式を設定してください。

- 1) ▲▼ ボタンで [TV システム] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは <ENTER> ボタンを押す
 - [TV システム] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。
 - [オート]、[NTSC]、[NTSC4.43]、[PAL]、[PAL-M]、[PAL-N]、[PAL60]、[SECAM] から選択します。
 - 通常は [オート] に設定してください。([オート] は、[NTSC]、[NTSC4.43]、[PAL]、[PAL-M]、[PAL-N]、[PAL60]、[SECAM] の中から自動的に判別します。)
 - 入力しているテレビ信号のカラー方式に設定を切り換えてください。日本国内では NTSC のカラー方式が使われています。

[RGB/YC_BC_R] / [RGB/YP_BP_R]

本機は入力信号を自動判別しますが、不安定な信号を入力している場合は、手動でシステム方式を設定します。入力信号に合ったシステム方式を設定してください。

- 1) ▲▼ ボタンで [RGB/YC_BC_R] または [RGB/YP_BP_R] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは <ENTER> ボタンを押す
 - [RGB/YC_BC_R] または [RGB/YP_BP_R] 個別調整画面が表示されます。

3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。
- 通常は [オート] に設定してください。[オート] で正常に映らない場合は、入力している信号に合わせて [RGB]、[YCbCr] または [YPbPr] に設定してください。

接続端子	システム方式	
〈COMPUTER 1 IN〉端子、 〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉 端子	480/60i、576/50i、 480/60p、576/50p 信号	[オート]、[RGB]、[YCbCr] から選択します。
	上記以外の動画系信号	[オート]、[RGB]、[YPbPr] から選択します。
〈HDMI 1 IN〉端子、〈HDMI 2 IN〉端子、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子	480/60i、576/50i、 480/60p、576/50p 信号	[オート]、[RGB]、[YCbCr] から選択します。
	上記以外の信号	[オート]、[RGB]、[YPbPr] から選択します。

お知らせ

- 本機が投写できる映像信号について、詳しくは“対応信号リスト”（ 138 ページ）をご覧ください。
- 接続する一部の外部機器では、正常に動作しないことがあります。

[RGB システム]

(アナログ RGB 信号入力時のみ)

本機は入力信号を自動判別しますが、入力している信号によっては映像が正常に映らないことがあります。その場合は、入力信号に合った項目に設定してください。

1) ▲▼ ボタンで [RGB システム] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [RGB システム] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで項目を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

- 入力している信号によって選択できる項目が異なります。

選択項目	解像度 (ドット)	走査周波数		ドットクロック周波数 (MHz)
		水平 (kHz)	垂直 (Hz)	
[1280x768/60]	1 280 x 768	47.7	60.0	80.1
[1366x768/60]	1 366 x 768	47.7	60.0	84.7
[1400x1050/60]	1 400 x 1 050	65.2	60.0	122.6
[1680x1050/60]	1 680 x 1 050	65.2	60.0	147.1
[1440x900/50]	1 440 x 900	45.3	50.0	87.4
[1600x900/50]	1 600 x 900	46.3	50.0	97.0
[1440x900/60]	1 440 x 900	55.9	60.0	106.5
[1600x900/60]	1 600 x 900	55.9	60.0	119.0
[1024x768/50]	1 024 x 768	39.6	50.0	51.9
[1280x1024/60]	1 280 x 1 024	64.0	60.0	108.0

お知らせ

- 接続する一部の外部機器では、正常に動作しないことがあります。

[位置調整] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[位置調整]を選択し、サブメニューから項目を選択してください。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (54 ページ) をご覧ください。

お知らせ

- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器 (品番:ET-YFB100、ET-YFB200) を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合、シフト、アスペクトの調整は、まず DIGITAL LINK 出力対応機器側のメニューで設定してください。

[リアルタイム台形補正]

本機を傾けて設置している場合に発生する台形ひずみを自動で補正します。

- 1) ▲▼ ボタンで [リアルタイム台形補正] を選択する
- 2) ◀▶ または 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [リアルタイム台形補正] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで調整する項目を選択する

【オン】	リアルタイム台形補正機能を自動実行します。
【オフ】	リアルタイム台形補正機能を自動実行しません。

お知らせ

- 設置の状況によっては、台形ひずみを完全に補正できないことがあります。その場合は、[位置調整] メニュー → [スクリーン補正] で調整してください。
- 次の場合、[リアルタイム台形補正] は設定できません。
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [投写方式] を [フロント / 天つり] または [リア / 天つり] に設定している場合
 - [プロジェクターセットアップ] メニュー → [投写方式] を [オート] に設定していて、実際の設置状態が天つり設置の場合

[スクリーン補正]

本機を傾けて設置した場合や、スクリーンが傾いていたり湾曲したりしている場合に発生する映像のゆがみを補正します。

- 1) ▲▼ ボタンで [スクリーン補正] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [スクリーン補正] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで調整する項目を選択する

【台形補正】	投写映像が台形にゆがむ場合に調整します。
【コーナー補正】	投写映像の四隅がゆがむ場合に調整します。
【曲面スクリーン補正】	投写映像が曲面にゆがむ場合に調整します。

- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [台形補正] 画面、[コーナー補正] 画面、[曲面スクリーン補正] 画面が表示されます。

お知らせ

- [台形補正]、[コーナー補正]、[曲面スクリーン補正] は、いずれかの設定のみ有効です。[台形補正]、[コーナー補正]、[曲面スクリーン補正] のいずれかの項目を調整後に、他の項目を調整すると、元の項目の調整値はリセットされます。
- [スクリーン補正] の補正量が多くなればなるほど画質が劣化し、フォーカスが合いにくくなります。できるだけ補正量が少なくなるように設置してください。
- [スクリーン補正] で各種調整をすると、映像のサイズも変化します。

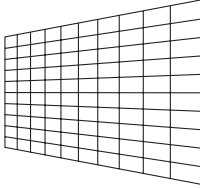
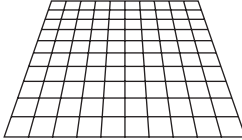
[台形補正] を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [スクリーン補正] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [スクリーン補正] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [台形補正] を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [台形補正] 個別調整画面が表示されます。

5) ▲▼◀▶ ボタンで調整する

調整項目	操作	変化内容	
[水平]	◀ ボタンを押す	左側が小さくなります。	
	▶ ボタンを押す	右側が小さくなります。	
[垂直]	▲ ボタンを押す	上側が小さくなります。	
	▼ ボタンを押す	下側が小さくなります。	

お知らせ

- 個別調整画面を表示中に〈ENTER〉ボタンを押すことで、別の項目の個別調整画面に切り換えできます。
- 補正量が多くなればなるほど画質が劣化し、フォーカスが合いにくくなります。できるだけ補正量が少なくなるように設置してください。

[コーナー補正] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [スクリーン補正] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [スクリーン補正] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [コーナー補正] を選択する

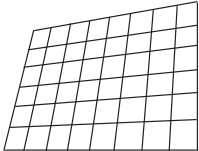
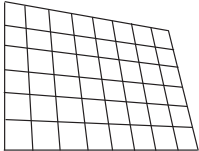
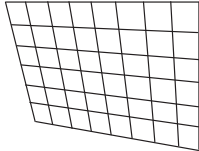
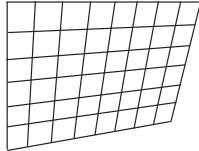
4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [コーナー補正] 画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで調整する項目を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

- [コーナー補正] 個別調整画面が表示されます。

6) ▲▼◀▶ ボタンで調整する

[コーナー補正]			
[左上] 	[右上] 	[左下] 	[右下] 

お知らせ

- 個別調整画面を表示中に〈ENTER〉ボタンを押すことで、別の項目の個別調整画面に切り換えできます。
- 補正量によっては、映像の縦横比（アスペクト比）が変化することがあります。

[曲面スクリーン補正] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [スクリーン補正] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [スクリーン補正] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [曲面スクリーン補正] を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [曲面スクリーン補正] 画面が表示されます。

5) ▲▼ ボタンで調整する項目を選択する

[台形補正]	投写映像が台形にゆがむ場合に調整します。
[弧]	投写映像が弧にゆがむ場合に調整します。

6) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [台形補正] または [弧] 個別調整画面が表示されます。

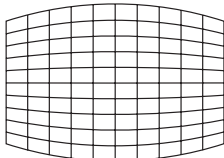
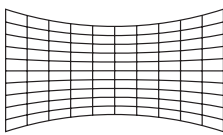
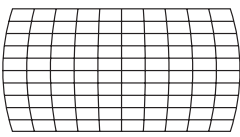
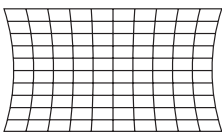
[台形補正] を調整する

1) ▲▼◀▶ ボタンで調整する

- 詳細については、“[スクリーン補正]” → “[台形補正] を設定する場合” (P. 64 ページ) をご覧ください。

[弧] を調整する

1) ▲▼◀▶ ボタンで調整する

調整項目	操作	変化内容
[水平]	◀ ボタンを押す	上下の横線がふくらみます。 
	▶ ボタンを押す	上下の横線がへこみます。 
[垂直]	▼ ボタンを押す	左右の縦線がふくらみます。 
	▲ ボタンを押す	左右の縦線がへこみます。 

お知らせ

- 個別調整画面を表示中に〈ENTER〉ボタンを押すことで、別の項目の個別調整画面に切り換えできます。

[シフト]

(COMPUTER1 入力 /COMPUTER2 入力時のみ)

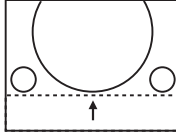
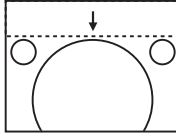
本機とスクリーンの位置関係が正しく設置された状態で、スクリーンに投写された映像位置がずれている場合は、上下左右に映像位置を移動します。

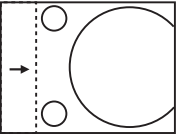
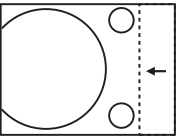
1) ▲▼ ボタンで [シフト] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [シフト] 画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンで位置を調整する

調整方向	操作	変化内容
垂直位置 (上下) 調整	▲ ボタンを押す	映像位置が上へ移動します。 
	▼ ボタンを押す	映像位置が下へ移動します。 

調整方向	操作	変化内容
水平位置（左右）調整	▶ ボタンを押す	映像位置が右へ移動します。 
	◀ ボタンを押す	映像位置が左へ移動します。 

お知らせ

- [シフト] 調整の際、入力信号によっては有効調整範囲を超え、画像位置が変化しない範囲が存在します。有効調整範囲内でお使いください。

[ドットクロック]

(COMPUTER1 入力 /COMPUTER2 入力時のみ)

縦縞模様を投写したときに発生するノイズを軽減する際に調整します。

縞模様を投写したときに、周期的な縞模様（ノイズ）が発生することがあります。この場合にもっともノイズが少なくなるように調整してください。

- 1) ▲▼ ボタンで [ドットクロック] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [ドットクロック] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで調整する
 - 調整値は、[-32] ～ [+32] まで変化します。

お願い

- [クロックフェーズ] より先に調整してください。

[クロックフェーズ]

(COMPUTER1 入力 /COMPUTER2 入力時のみ)

画像のちらつきや輪郭のにじみが発生しているとき、最適な画像になるように調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [クロックフェーズ] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [クロックフェーズ] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで調整する
 - 調整値は、[-16] ～ [+16] まで変化します。ノイズが少なくなるように調整してください。

お知らせ

- 信号によっては調整できない場合があります。
- 入力しているコンピューターの出力が不安定であると最適値がない場合があります。
- ドットクロック周波数が 162 MHz 以上の映像信号を入力している場合は、[クロックフェーズ] の調整をしてもノイズがなくなることはありません。

[オーバースキャン]

(動画系信号入力時のみ)

投写映像の周辺で文字や映像が欠ける場合に調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [オーバースキャン] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [オーバースキャン] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで調整する
 - 調整値は、[0] ～ [+3] まで変化します。

[アスペクト]

映像の縦横比（アスペクト比）を切り換えます。

[表示オプション] メニュー → [スクリーン設定] → [スクリーンフォーマット] で選択したスクリーンの範囲内でアスペクトを切り換えます。[スクリーンフォーマット] を先に設定してください。（ 73 ページ）

- 1) ▲▼ ボタンで [アスペクト] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [アスペクト] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[ノーマル]	入力信号のアスペクト比のまま表示します。
[オート] *1	映像信号に組み込まれたアスペクト比の識別信号を判別し、自動的に最適なアスペクト比に切り換えて表示します。
[ワイド]	標準信号入力時*2は、アスペクト比を 16 : 9 に変換して表示します。ワイド信号入力時*3は、入力信号のアスペクト比のまま表示します。
[H フィット]	[スクリーンフォーマット] で選択したスクリーン範囲の幅をすべて使って表示します。[スクリーンフォーマット] で選択されたスクリーンのアスペクトよりも縦長のアスペクト比を持つ信号は、画像の上下が切れて表示されます。
[V フィット]	[スクリーンフォーマット] で選択したスクリーン範囲の高さをすべて使って表示します。[スクリーンフォーマット] で選択されたスクリーンのアスペクトよりも横長のアスペクト比を持つ信号は、画像の左右が切れて表示されます。
[フル]	[スクリーンフォーマット] で選択したスクリーン範囲全体に映像を表示します。入力信号とスクリーン範囲のアスペクト比が異なる場合は、[スクリーンフォーマット] で選択されたスクリーンのアスペクトに変換して表示します。
[リアル]	入力信号の解像度のまま表示します。

*1 ビデオ信号（NTSC）入力時のみ

*2 標準信号入力時とは、アスペクト比 4 : 3、5 : 4 の信号入力時です。

*3 ワイド信号入力時とは、アスペクト比 16 : 10、16 : 9、15 : 9 の信号入力時です。

お知らせ

- 入力信号によっては、選択できないサイズモードがあります。
- [オート] で画面サイズが正常に切り換わらない場合は、入力信号に合わせて [ノーマル] または [ワイド] に設定してください。
- 入力信号と異なるアスペクト比を選択すると、オリジナルの映像と見え方に差が出ます。この点に注意して、アスペクト比を選択してください。
- 営利目的または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店やホテルなどの場所で、本機を使用して画面の圧縮や引き伸ばしなどをすると、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがあります。本機のアスペクト調整、ズーム機能などの機能を利用するときはご注意ください。
- ワイド画面ではない従来（通常）の 4 : 3 の映像をワイド画面で投写すると、周辺画像が一部見えなくなることや、変形して見えることがあります。制作者の意図を尊重したオリジナルの映像は、4 : 3 の映像をご覧ください。

[フレームロック]

（静止画系信号入力時のみ）

一部の信号においてフレームロック機能を設定できます。

- 1) ▲▼ ボタンで [フレームロック] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンまたは〈ENTER〉ボタンを押す
 - [フレームロック] 個別調整画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	フレームをロックします。入力信号の垂直走査周波数に表示映像が同期します。
[オフ]	フレームロック機能をオフにします。フリッカーが気になる場合に設定してください。

[クランプ位置]

映像の黒部分がつぶれている場合や、緑色になっている場合に最良点に調整します。

- 1) ▲▼ ボタンで [クランプ位置] を選択する

2) ◀▶ ボタンで調整する

状態	最適値の目安	調整範囲
黒部分がつぶれている	黒部分のつぶれが最も改善する点が最適値です。	1 ~ 255
黒部分が緑色になっている	緑色部分が黒くなり、つぶれが改善する点が最適値です。	

お知らせ

- [クランプ位置]の調整ができるのは、〈COMPUTER 1 IN〉端子または〈COMPUTER 2 IN/ 1 OUT〉端子に信号を入力した場合のみです。
- 信号によっては調整できない場合があります。

[表示言語] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[表示言語]を選択し、サブメニューを表示させます。
メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（ 54 ページ）をご覧ください。

表示言語を切り換える

オンスクリーン表示の言語を切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで表示言語を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す



- 切り換えた言語で各種メニューや設定、調整画面、操作ボタン名などが表示されます。
- 英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、オランダ語、スウェーデン語、フィンランド語、ノルウェー語、デンマーク語、ポーランド語、チェコ語、ルーマニア語、ハンガリー語、ロシア語、トルコ語、アラビア語、カザフ語、ベトナム語、中国語、韓国語、日本語、タイ語への切り換えができます。

お知らせ

- 工場出荷時、および [プロジェクター設定] メニュー → [全設定初期化] を実行した場合、日本語でオンスクリーン表示するように設定されています。

[表示オプション] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[表示オプション]を選択し、サブメニューから項目を選択してください。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（ 54 ページ）をご覧ください。

[オンスクリーン表示]

オンスクリーン表示を設定します。

[入力ガイド] を設定する場合

入力切り換え時に表示する入力ガイドの設定をします。入力ガイドは、現在選択している入力と入力信号名を表示する画面です。

- 1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [入力ガイド] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[詳細表示]	入力端子をグラフィック表示し、選択中の入力端子部分に入力信号の名称または解像度を表示します。
[オフ]	入力ガイドを表示しません。
[簡易表示]	選択中の入力端子名と入力信号名を表示します。

お知らせ

- [詳細表示] に設定している場合、入力ガイド表示中に本体操作部またはリモコンの ▲▼◀▶ ボタンで入力を選択することができます。

[OSD ポジション] を設定する場合

メニュー画面（OSD）の位置を設定します。この設定に連動して、個別調整画面の表示位置も切り換わります。

- 1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [OSD ポジション] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

項目	メニュー画面（OSD）	個別調整画面
[中央]	画面の中央部に設定します。	画面の中央部に表示されます。
[左上]	画面の左上部に設定します。	画面の上部に表示されます。
[右上]	画面の右上部に設定します。	画面の上部に表示されます。
[左下]	画面の左下部に設定します。	画面の下部に表示されます。
[右下]	画面の右下部に設定します。	画面の下部に表示されます。

[OSD サイズ] を設定する場合

(PT-VMZ60J と PT-VMZ50J のみ)

メニュー画面（OSD）の表示の大きさを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [OSD サイズ] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[ノーマル]	通常はこちらを選択してください。
[倍角]	[ノーマル] 設定時の倍角のフォントサイズでメニュー画面を表示します。メニュー画面のサイズは縦 / 横それぞれ 2 倍になります。

[警告メッセージ] を設定する場合

警告メッセージの表示 / 非表示を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [オンスクリーン表示] を選択する

2) <ENTER> ボタンを押す

- [オンスクリーン表示] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [警告メッセージ] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オン]	警告メッセージを表示します。
[オフ]	警告メッセージを表示しません。

お知らせ

- [オフ] に設定すると、本機を使用中に [温度警告] などの警告状態を検出しても、投写画面上に警告メッセージが表示されなくなります。フィルターのお手入れ / 交換を促すメッセージも表示されません。

[HDMI 信号レベル]

本機の <HDMI 1 IN> 端子 / <HDMI 2 IN> 端子を使用して外部機器と接続しているときに、正常な映像が映らない場合に設定を切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで [HDMI 信号レベル] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オート]	信号レベルを自動的に設定します。
[64-940]	外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 端子出力を、<HDMI 1 IN> 端子 / <HDMI 2 IN> 端子に入力している場合などに選択します。
[0-1023]	外部機器（コンピューターなど）の DVI-D 端子出力を、変換ケーブルなどを使用して <HDMI 1 IN> 端子 / <HDMI 2 IN> 端子に入力している場合などに選択します。 コンピューターなどの HDMI 端子出力を、<HDMI 1 IN> 端子 / <HDMI 2 IN> 端子に入力している場合も同様です。

お知らせ

- 最適な設定は、接続する外部機器の出力設定によって異なります。外部機器の出力については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。
- 信号レベルの表示は、入力が 30 bit 時の表示としています。

[DIGITAL LINK 信号レベル]

本機の <DIGITAL LINK/LAN> 端子を使用して外部機器と接続しているときに、正常な映像が映らない場合に設定を切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK 信号レベル] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オート]	信号レベルを自動的に設定します。
[64-940]	外部機器（ブルーレイディスクプレーヤーなど）の HDMI 端子出力を、ツイストペアケーブル伝送器を経由して <DIGITAL LINK/LAN> 端子に入力している場合などに選択します。
[0-1023]	外部機器（コンピューターなど）の DVI-D 端子出力や HDMI 端子出力を、ツイストペアケーブル伝送器を経由して <DIGITAL LINK/LAN> 端子に入力している場合などに選択します。

お知らせ

- 最適な設定は、接続する外部機器の出力設定によって異なります。外部機器の出力については、外部機器の取扱説明書などをご覧ください。
- 信号レベルの表示は、入力が 30 bit 時の表示としています。

[クローズドキャプション設定] (NTSC 信号入力時のみ)

クローズドキャプションを設定します。

クローズドキャプションの表示を選択する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [クローズドキャプション設定] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [クローズドキャプション設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [クローズドキャプション] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	クローズドキャプションを表示しません。
[オン]	クローズドキャプションを表示します。

- [オン] を選択した場合は、手順 5) に進みます。

- 5) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [はい] を選択し、<ENTER> ボタンを押す

クローズドキャプションのモードを設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [クローズドキャプション設定] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [クローズドキャプション設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する
 - [クローズドキャプション] を [オフ] に設定している場合、[モード] は選択できません。
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[CC1]	CC1 のデータを表示します。
[CC2]	CC2 のデータを表示します。
[CC3]	CC3 のデータを表示します。
[CC4]	CC4 のデータを表示します。

お知らせ

- クローズドキャプションは、主に北米で使用されている映像信号の文字情報を表示する機能です。接続する機器や再生するコンテンツによってはキャプションが表示できません。
- NTSC 信号が入力されている場合にのみ [クローズドキャプション設定] を選択できます。
- [クローズドキャプション] を [オン] に設定すると、接続するクローズドキャプション対応の外部機器や使用するコンテンツによっては、映像の明るさが変化することがあります。
- 選択したモードのクローズドキャプション信号が入力された場合、[セキュリティ] メニュー → [テキスト設定] を [オン] に設定してもセキュリティメッセージは表示されません。
- メニュー画面表示中は、クローズドキャプションは表示されません。

[スクリーン設定]

スクリーンサイズを設定します。

投写映像のアスペクト比変更の際に、設定したスクリーンに合わせて最適な映像位置に補正します。ご使用のスクリーンに合わせて設定してください。

- 1) ▲▼ ボタンで [スクリーン設定] を選択する
- 2) <ENTER> ボタンを押す
 - [スクリーン設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [スクリーンフォーマット] を選択する

4) ◀▶ ボタンで [スクリーンフォーマット] の項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[スクリーンフォーマット]	[スクリーン位置] 選択時の設定項目
[16 : 10]	設定できません。
[16 : 9]	垂直位置を [中央]、[高]、[低] から選択します。
[4 : 3]	水平位置を [中央]、[左]、[右] から選択します。

- [16 : 10] に設定した場合、[スクリーン位置] は変更できません。
- [16 : 9] または [4 : 3] に設定した場合は、手順 5) に進みます。

5) ▲▼ ボタンで [スクリーン位置] を選択する

6) ◀▶ ボタンで映像位置を設定する

[スタートアップロゴ]

電源を入れたときのロゴ表示を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [スタートアップロゴ] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[デフォルトロゴ]	Panasonic ロゴを表示します。
[ユーザーロゴ]	ユーザーが登録した画像を表示します。
[オフ]	スタートアップロゴ表示を無効にします。

お知らせ

- [ユーザーロゴ] を選択した場合、スタートアップロゴの表示は約 15 秒間維持されます。
- [ユーザーロゴ] の画像作成・登録には、「ロゴ転送ソフトウェア」を使用します。ロゴ転送ソフトウェアの詳細やダウンロードについては、弊社 WEB サイト (<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>) をご覧ください。
- [プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、スタンバイ状態になってから所定の時間が経過するまでに投写を開始した際はスタートアップロゴを表示しません。所定の時間とは、[プロジェクターセットアップ] メニュー → [ECO マネージメント] → [高速スタートアップ] → [有効期間] で設定した時間です。

[シャッター設定]

電源を入れたときに自動でシャッター機能を有効 / 無効 (シャッター : 閉 / 開) にする設定をします。

1) ▲▼ ボタンで [シャッター設定] を選択する

2) <ENTER> ボタンを押す

- [シャッター設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [スタートアップ] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

[オフ]	電源を入れたときにシャッター機能無効の状態 (シャッター : 開) で投写状態になります。
[オン]	電源を入れたときにシャッター機能有効の状態 (シャッター : 閉) で投写状態になります。

[自動位置補正設定]

オートセットアップの自動実行を設定します。

会議などで未登録の信号を頻繁に入力する場合、その都度 <AUTO SETUP> ボタンを押さなくてもドットクロック、クロックフェーズ、映像位置を自動で調整できます。

1) ▲▼ ボタンで [自動位置補正設定] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オート】	投写中の映像が、未登録の信号に変わった場合、自動的にオートセットアップを行います。
【ボタン】	〈AUTO SETUP〉 ボタンを押したときにオートセットアップを行います。

【入力検出】

入力検出機能の有効 / 無効を設定します。

入力検出機能を有効にすると、電源を入れたときに入力信号がある入力を自動的に選択して投写を開始します。また、選択中の入力が無信号のときに〈AUTO SETUP〉 ボタンを押すと、入力信号がある入力に自動的に切り換わります。

1) ▲▼ ボタンで [入力検出] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オン】	入力検出機能を有効にします。
【オフ】	入力検出機能を無効にします。

【バックカラー】

信号が入力されていないときの投写画面の表示を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [バックカラー] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【ブルー】	投写画面全体に青色を表示します。
【ブラック】	投写画面全体に黒色を表示します。
【デフォルトロゴ】	投写画面に Panasonic ロゴを表示します。
【ユーザーロゴ】	投写画面にユーザーが登録した画像を表示します。

お知らせ

- [ユーザーロゴ] の画像作成・登録には、「ロゴ転送ソフトウェア」を使用します。ロゴ転送ソフトウェアの詳細やダウンロードについては、弊社 WEB サイト (<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>) をご覧ください。

【プレゼンテーションタイマー】

プレゼンテーションタイマー機能の設定と操作をします。

モードを設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [プレゼンテーションタイマー] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [プレゼンテーションタイマー] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [モード] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【カウントアップ】	カウントを開始したときからの経過時間を表示します。
【カウントダウン】	[タイマー] で設定した時間に対する残り時間を表示します。

カウントダウンタイマーを設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [プレゼンテーションタイマー] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [プレゼンテーションタイマー] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [タイマー] を選択する

4) ◀▶ ボタンで時間を設定する

- 1 分から 180 分の間で 1 分刻みで設定できます。
- 工場出荷時の値は 10 分です。

お知らせ

- [タイマー] は、[モード] を [カウントダウン] に設定している場合に設定できます。

プレゼンテーションタイマーを使用する場合**1) ▲▼ ボタンで [プレゼンテーションタイマー] を選択する****2) <ENTER> ボタンを押す**

- [プレゼンテーションタイマー] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで項目を選択し、<ENTER> ボタンを押す

【開始】	カウントを開始します。
【ストップ】	カウントを停止します。
【再スタート】	カウントを再開します。
【リセット】	カウントがリセットされます。
【終了】	プレゼンテーションタイマーを終了します。

- [開始] または [再スタート] を選択した場合、投写画面の右下に、経過時間または残り時間が表示されます。
- [ストップ] を選択した場合、投写画面の右下に、停止した時の経過時間または残り時間が表示されます。

お知らせ

- プレゼンテーションタイマーの操作は、リモコンの <P-TIMER> ボタンでも操作できます。(☞ 50 ページ)
- 経過時間または残り時間を表示中、[セキュリティ] メニュー → [テキスト設定] (☞ 89 ページ) で設定したセキュリティメッセージは表示されません。
- メニュー画面表示中は、経過時間または残り時間は表示されません。
- [モード] を [カウントアップ] に設定している場合、スタート時間は “000:00” になります。
- [モード] を [カウントダウン] に設定している場合、スタート時間は [タイマー] で設定した値になります。
- タイマーゲージは、[カウントアップ] のときは時計回りに、[カウントダウン] のときは反時計回りに回転します。

[その他の機能]

リモコンのボタン操作の代わりにメニュー操作でも同じ機能の操作ができます。

自動位置補正機能を使う

コンピューター信号のようなドット構成されたアナログ RGB 信号入力時の解像度、クロックフェーズ、映像位置を自動で調整できます。

1) ▲▼ ボタンで [その他の機能] を選択する**2) <ENTER> ボタンを押す**

- [その他の機能] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [自動位置補正] を選択する**4) <ENTER> ボタンを押す****静止機能を使う**

外部機器の再生に関係なく、一時的に投写映像を静止し、音声を消すことができます。

1) ▲▼ ボタンで [その他の機能] を選択する**2) <ENTER> ボタンを押す**

- [その他の機能] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [静止] を選択する**4) <ENTER> ボタンを押す**

- 映像が静止し、音声が消えます。

お知らせ

- 静止中にもう一度 [静止] を選択すると、映像の静止が解除され、音声がかかります。
- 静止中は、投写画面の左下に [静止] と表示されます。

シャッター機能を使う

シャッター機能を使用するかどうか（有効（シャッター：閉） / 無効（シャッター：開））を切り換えます。

- 1) ▲▼ ボタンで [その他の機能] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [その他の機能] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [シャッター] を選択する
- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 映像と音声が消えます。

お知らせ

- シャッター機能を使用中（シャッター：閉）でも、電源 〈ON/OFF〉 ボタン、入力切換（〈HDMI 1〉、〈HDMI 2〉、〈DIGITAL LINK〉、〈COMPUTER 1/2〉、〈VIDEO〉、〈NETWORK/USB〉）ボタン、〈INPUT SELECT〉 ボタンの操作ができます。

デジタルズーム機能を使う

（静止画系信号入力時のみ）

投写映像を拡大できます。

- 1) ▲▼ ボタンで [その他の機能] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [その他の機能] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [デジタルズーム] を選択する
- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 中央部分を 1.5 倍に拡大した映像が表示され、[デジタルズーム] 個別調整画面が表示されます。
- 5) ◀▶ ボタンで拡大倍率を調整する
 - 1.0 倍から 3.0 倍まで 0.1 単位で拡大倍率を調整できます。
- 6) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 画面の左下に操作ガイドが表示されます。
- 7) 拡大場所を移動する
 - 拡大倍率が 1.0 倍の場合は移動できません。

お知らせ

- 静止機能を使用中は、デジタルズーム機能を使用できません。
- 入力信号によってはデジタルズーム機能が動作しないことがあります。
- デジタルズーム中に入力信号の種類が変わると、デジタルズームの調整値が解除されます。

[プロジェクター設定] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから [プロジェクター設定] を選択し、サブメニューから項目を選択してください。

メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (54 ページ) をご覧ください。

[ステータス]

本機の状態を表示します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ステータス] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ステータス] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンを押してページを切り換える
 - ボタンを押すごとに、ページが切り換わります。

[信号]	[名前]	入力信号名を表示します。
	[周波数]	入力信号の周波数を表示します。
[使用時間]	[プロジェクター]	プロジェクターの稼働時間を表示します。
	[光源使用時間]	光源の使用時間を表示します。
	[連続点灯時間]	光源が点灯してからの経過時間が表示されます。 シャッター機能を使用するなど光源が一時的に消灯した場合には、経過時間がリセットされます。
[シリアル番号]	[プロジェクター]	本機のシリアル番号を表示します。
[VERSION]	[MAIN]	本機のメインマイコンのバージョンを表示します。
	[SUB]	本機のサブマイコンのバージョンを表示します。
	[LD]	本機的光源モジュールのドライバーバージョンを表示します。

お知らせ

- ネットワークの状態については、[ネットワーク] メニュー → [ネットワークステータス] (95 ページ) をご覧ください。

[COMPUTER2 入出力選択]

〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子の入出力を切り換えることができます。

- 1) ▲▼ ボタンで [COMPUTER2 入出力選択] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[COMPUTER2 IN]	〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子を COMPUTER2 入力として使用する場合に選択します。
[COMPUTER1 OUT]	〈COMPUTER 1 IN〉端子に入力された信号を 〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子から出力する場合に選択します。

お知らせ

- COMPUTER2 入力を選択中は、[COMPUTER2 入出力選択] は設定できません。
- [COMPUTER2 入出力選択] を [COMPUTER1 OUT] に設定している場合、COMPUTER2 入力で切り換えできません。
- [COMPUTER1 OUT] に設定した場合、選択している入力に関わらず、〈COMPUTER 1 IN〉端子に入力されている信号が 〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子から出力されます。

[プロジェクター ID]

本機には ID ナンバーの設定機能があり、本機を複数台並べて使用する場合、1 つのリモコンで同時制御や個別制御ができます。

- 1) ▲▼ ボタンで [プロジェクター ID] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [プロジェクター ID] 画面が表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでプロジェクター ID を選択する
 - [オール]、[1] ～ [64] の一覧から選択してください。

【オール】	ID ナンバーを設定しないで制御する場合に設定します。
【1】 ～ 【64】	ID ナンバーを指定して個別制御する場合に設定します。

4) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [プロジェクター ID] が設定されます。

お知らせ

- ID ナンバーを指定して個別制御する場合は、リモコンの ID ナンバーを本機の ID ナンバーに合わせる必要があります。
- ID ナンバーを【オール】に設定すると、リモコンまたはコンピューターで制御の際、ID ナンバーを何番に指定しても本機は動作します。本機を複数台並べて設置する場合、ID ナンバーを【オール】に設定していると、他の ID ナンバーを設定した本機と分けて制御できなくなります。
- リモコンの ID ナンバーを設定する方法は“リモコンの ID ナンバーを設定する”（ 52 ページ）をご覧ください。

【起動方法】

電源プラグをコンセントに接続して通電を開始したときの起動方法を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [起動方法] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【ラストメモリー】	電源プラグをコンセントから抜いたり、電源ブレーカーで電源を落としたりする前の状態で起動します。
【スタンバイ】	スタンバイ状態で起動します。
【オン】	すぐに投写を開始します。

【投写方式】

本機の設置状態に合わせて、投写方式を設定します。

画面表示が上下逆になったり、反転して映ったりしている場合は、投写方式を変更してください。

1) ▲▼ ボタンで [投写方式] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オート】	内蔵の角度センサーで本機の姿勢を自動的に検出し、[フロント / 床置き] または [フロント / 天つり] に切り換えます。フロント投写の場合、通常は【オート】に設定して使用してください。
【フロント / 床置き】	スクリーン前方にある机の上などに設置する場合
【フロント / 天つり】	スクリーン前方に、プロジェクター用天つり金具（別売品）を使用して設置する場合
【リア / 床置き】	スクリーン後方（透過式スクリーン使用）にある机の上などに設置する場合
【リア / 天つり】	スクリーン後方（透過式スクリーン使用）に、プロジェクター用天つり金具（別売品）を使用して設置する場合

お知らせ

- 本機内蔵の角度センサーで検出する設置姿勢の範囲について、詳しくは“角度センサーについて”（ 27 ページ）をご覧ください。

【ECO マネージメント】

消費電力を抑えたり光源寿命を向上させる [ECO マネージメント] を設定します。

【省エネ設定】を設定する場合

[環境照度連動]、[無信号連動] の 2 つの機能を有効にするかどうかを設定します。

1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [ECO マネージメント] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [省エネ設定] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オン】	省エネ設定を有効にします。
【オフ】	省エネ設定を無効にします。

- [オン] を選択した場合は、手順 5) に進みます。

5) ▲▼ ボタンで [環境照度連動]、[無信号連動] を選択する

【環境照度連動】	環境照度連動機能の設定をします。機能を有効にすると、設置場所の明るさにより、光源の電力を調整します。
【無信号連動】	無信号連動機能の設定をします。機能を有効にすると、無信号時に光源の電力を下げます。

6) ◀▶ ボタンで設定を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オン】	選択した機能を有効にします。
【オフ】	選択した機能を無効にします。

お知らせ

- [省エネ設定] が [オフ] の場合、[環境照度連動]、[無信号連動] の設定はできません。
- プロジェクターの天面にものなどを置くと照度センサーが陰に入り、明るさを正しく検出できないことがあります。この場合、[環境照度連動] を [オン] に設定していても適切に動作しないことがあります。

[光源電力] を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する

2) <ENTER> ボタンを押す

- [ECO マネージメント] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [光源電力] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【ノーマル】	高い輝度が必要なときに選択します。光源電力は 100 % で、使用時間の目安は約 20 000 時間*1 です。
【ECO】	輝度は【ノーマル】より低下しますが、光源の使用時間に対する輝度低下を抑えたいときに選択します。光源電力は 70 % で、使用時間の目安は約 24 000 時間*1 です。
【静音】	低騒音での運用を優先する場合に選択します。光源電力は 70 % で、使用時間の目安は約 20 000 時間*1 です。
【ユーザー】	お好みの画面の明るさに設定する場合に選択します。

*1 使用時間は、[光源電力] の設定を変更せずにプロジェクターを使用した場合の目安です。各製品または使用条件によって異なる場合があります。

- [ユーザー] を選択した場合は、手順 5) に進みます。

5) ▲▼ ボタンで [光出力] を選択する

6) ◀▶ ボタンで調整する

操作	変化内容		調整範囲
	明るさ使用時間（目安）	使用時間（目安）	
▶ ボタンを押す	画面が明るくなります。	使用時間が短くなります。	50 %*1 ~ 100 %
◀ ボタンを押す	画面が暗くなります。	使用時間が長くなります。	

*1 光出力を小さくするほど、画質が劣化する傾向があります。

お知らせ

- 光源それぞれの特性、使用条件、設置環境などの影響を受けて、使用時間の目安に達しないことがあります。
- 使用時間とは、プロジェクターを連続して使い続けた場合に光源の輝度が半減するまでの時間です。使用時間は目安であり、保証期間ではありません。
- 使用時間が 10 000 時間を超えた場合は、本機内部の部品交換が必要となることがあります。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

[パワーマネージメント] を設定する場合

入力信号がない状態が続くと、自動的に本機の電源をスタンバイ状態または待機状態にする機能です。スタンバイ状態または待機状態の選択と、パワーマネージメント機能が働くまでの時間を設定できます。

- 1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ECO マネージメント] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [パワーマネージメント] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[シャットダウン]	信号入力がない状態が 30 秒続くとカウントダウンタイマーが表示され、[タイマー] で設定した時間が経過すると、光源が消灯し、クーリングののちにスタンバイ状態になります。
[オフ]	パワーマネージメント機能を無効にします。
[待機]	信号入力がない状態が 30 秒続くとカウントダウンタイマーが表示され、[タイマー] で設定した時間が経過すると、光源が消灯し、クーリングののちに待機状態になります。 待機中に信号を入力すると、またはボタン操作をすると、光源が点灯して投写状態になります。

- [オフ] 以外を選択した場合は、手順 5) に進みます。

- 5) ▲▼ ボタンで [タイマー] を選択する
- 6) ◀▶ ボタンで設定時間を切り換える
 - ボタンを押すごとに、設定時間が切り換わります。
 - パワーマネージメント機能が働いて光源が消灯するまでの時間を 5 分から 120 分の間で 5 分刻みで設定できます。

お知らせ

- MEMORY VIEWER の入力でもパワーマネージメント機能が動作します。入力信号がない状態と判別する条件は次のとおりです。
 - 〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉 端子に USB メモリーが取り付けられていない
- NETWORK 入力でパワーマネージメント機能が動作しません。

[スタンバイモード] を設定する場合

スタンバイ時の電力と、[高速スタートアップ] の機能を有効にするかどうかを設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ECO マネージメント] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ECO マネージメント] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [スタンバイモード] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[ノーマル]	スタンバイ時にネットワーク機能を使用する場合に選択します。
[ECO]	スタンバイ時の消費電力を低く抑えたい場合に選択します。

- [ノーマル] を選択した場合は、手順 5) に進みます。

- 5) ▲▼ ボタンで [高速スタートアップ] を選択する
- 6) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	[高速スタートアップ] の機能を無効にします。
[オン]	スタンバイ状態になってから [有効期間] で設定した時間が経過するまでの間、[高速スタートアップ] の機能を有効にします。[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、電源を入れてから投写を開始するまでの時間が短縮されます。

- [オン] を選択した場合は、手順 7) に進みます。

7) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [高速スタートアップ] 画面が表示されます。

8) ◀▶ ボタンで [有効期間] を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[30 分]	スタンバイ状態になってから [高速スタートアップ] の機能を無効にするまでの時間を設定します。 お好みの有効期間を選択してください。
[60 分]	
[90 分]	

お知らせ

- [スタンバイモード] を [ノーマル] に設定した場合、スタンバイ時にネットワーク機能が使えます。
- [スタンバイモード] を [ノーマル] に設定している場合、本機がスタンバイ状態でも、〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子を使用して給電できます。[ECO] に設定している場合は、スタンバイ状態で給電できません。
- [スタンバイモード] を [ECO] に設定した場合、スタンバイ時にネットワーク機能と音声出力機能が使えません。また、RS-232C コマンドの一部が使えません。
- [スタンバイモード] を [ECO] に設定した場合、[ノーマル] 設定時と比べて、電源を入れてから投写を開始するまでに時間がかかります。
- [スタンバイモード] が [ECO] に設定されている場合、[高速スタートアップ] は設定できません。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、スタンバイ時の消費電力が高くなります。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、スタンバイ状態になってから [有効期間] で設定した時間が経過すると、[高速スタートアップ] の機能が無効になり、[高速スタートアップ] を [オフ] に設定した場合と同じ起動時間、同じ消費電力になります。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、スタンバイ時に電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が赤色点滅します。また、[音声設定] の [スタンバイ時動作] を [オフ] に設定している場合は、スタンバイ状態になってから [有効期間] で設定した時間が経過すると、電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉が赤色点灯に移行します。[音声設定] の [スタンバイ時動作] を [オン] に設定している場合は、[高速スタートアップ] を [オン] に設定していても電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉は赤色点灯に移行しません。
- [高速スタートアップ] を [オン] に設定している場合、[高速スタートアップ] の機能が有効になっている期間中は、スタンバイ状態であっても稼働中としてプロジェクター使用時間が加算されます。

[RS-232C]

〈SERIAL IN〉端子の通信条件を設定します。“〈SERIAL IN〉端子について” (135 ページ) をご覧ください。

〈SERIAL IN〉端子の通信条件を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [RS-232C] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [RS-232C] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [接続先選択] を選択する

4) ▶▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[プロジェクター]	プロジェクター本体の 〈SERIAL IN〉 端子で RS-232C 通信を行います。
[DIGITAL LINK]	別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器 (品番 : ET-YFB100、ET-YFB200) と 〈DIGITAL LINK/LAN〉 端子を経由して RS-232C 通信を行います。

5) ▲▼ ボタンで [通信速度] を選択する

6) ▶▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[9600]	適切な通信速度を選択してください。
[19200]	
[38400]	

7) ▲▼ ボタンで [パリティ] を選択する

8) ▶▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[なし]	パリティの条件を選択してください。
[偶数]	
[奇数]	

お知らせ

- [接続先選択] を [DIGITAL LINK] に設定した場合は、該当の機器（たとえば、別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200））を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続しているときのみ、そのシリアル端子を使用して通信できます。
- 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）経由でロゴ転送を行う場合は、通信が途絶えないよう DIGITAL LINK 出力対応機器側の「無信号休止」の設定を「オフ」にしておく必要があります。
- [接続先選択] を [DIGITAL LINK] に設定した場合は、入力の通信速度は 9 600 bps に固定されます。

既存のプロジェクターの制御コマンドを使用する場合

本機をコンピューターで制御する際に、以前に購入した弊社プロジェクターの制御コマンドを使用する場合に設定します。既存の弊社プロジェクター用制御ソフトウェア等を引き続き使用できます。

- 1) ▲▼ ボタンで [RS-232C] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [RS-232C] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [エミュレート] を選択する
- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [エミュレート] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで項目を選択する

[オフ]	既存のプロジェクターの制御コマンドを使用しません。
[D3500]	D3500 系
[D4000]	D4000 系
[D/W5k シリーズ]	D5700 系、DW5100 系、D5600 系、DW5000 系、D5500 系
[D/W/Z6k シリーズ]	DZ870 系、DW830 系、DX100 系、DZ780 系、DW750 系、DX820 系、DZ770 系、DW740 系、DX810 系、DZ680 系、DW640 系、DX610 系、DW730 系、DX800 系、DZ6710 系、DZ6700 系、DW6300 系、D6000 系、D5000 系、DZ570 系、DW530 系、DX500 系、RZ970 系、RW930 系、RX110 系、RZ770 系、RZ660 系、RW730 系、RW620 系、RZ670 系、RW630 系、RZ575 系、RZ570 系
[L730 シリーズ]	L730 系、L720 系、L520 系
[L780 シリーズ]	L780 系、L750 系
[L735 シリーズ]	L735 系
[L785 シリーズ]	L785 系
[F/W シリーズ]	FW430 系、FX400 系、FW300 系、F300 系、F200 系、FW100 系、F100 系
[LZ370]	LZ370 系
[LB/W シリーズ]	LB3 系、LB2 系、LB1 系、ST10 系、LB90 系、LW80NT 系、LB80 系、LB78 系、LB75 系
[VX500 シリーズ]	VW435N 系、VW440 系、VW430 系、VX505N 系、VX510 系、VX500 系、VW330 系、VX400NT 系、VX400 系、VX41 系
[EZ570 シリーズ]	EZ570 系、EW630 系、EW530 系、EX600 系、EX500 系
[VW431D]	VW431D 系

- 6) 〈ENTER〉 ボタンを押す

[ファンクションボタン]

リモコンの〈FUNCTION〉ボタンに現在割り当てられている機能を表示します。また、その割り当て設定を解除します。

〈FUNCTION〉ボタンへの割り当てを解除する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [ファンクションボタン] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [ファンクションボタン] 画面が表示されます。

3) 〈ENTER〉 ボタンを押す

4) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [はい] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- オンスクリーンメニューを表示させ、割り当てを解除したいメニュー項目（メインメニュー、サブメニュー、または詳細メニュー）を選択したうえで、〈FUNCTION〉 ボタンを 3 秒以上押し続けることでも解除できます。

[音声設定]

音声機能の詳細を設定します。

音量を調整する場合

1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [音声設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [音量] を選択する

4) ◀▶ ボタンでレベルを調整する

操作	変化内容	調整範囲
▶ ボタンを押す	音が大きくなります。	0 ~ 63
◀ ボタンを押す	音が小さくなります。	

消音状態に設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [音声設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [消音] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	音声を出力します。
[オン]	消音します。

スタンバイ状態での音声出力を設定する場合

1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [音声設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [スタンバイ時動作] を選択する

4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	スタンバイ時は音声を出力しません。
[オン]	スタンバイ時に音声を出力します。

お知らせ

- [プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] を [ECO] に設定しているときは、スタンバイ状態での音声出力はできません。
- [スタンバイ時動作] を [オン] に設定している場合、スタンバイ時にリモコンまたは本体操作部の 〈VOL+〉 ボタン / 〈VOL-〉 ボタンで音量を調整できます。
- [音声設定] の [スタンバイ時動作] を [オン] に設定している場合は、[高速スタートアップ] を [オン] に設定していても電源インジケータ 〈ON (G) /STANDBY (R)〉は赤色点灯に移行しません。

接続機器からの音声入力を設定する場合

- 1) ▲▼ ボタンで [音声設定] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [音声設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [音声入力選択] の設定したい項目を選択する

[COMPUTER1]	COMPUTER 1 入力時に出力する音声を設定します。
[COMPUTER2]	COMPUTER 2 入力時に出力する音声を設定します。
[VIDEO]	VIDEO 入力時に出力する音声を設定します。
[HDMI1]	HDMI 1 入力時に出力する音声を設定します。
[HDMI2]	HDMI 2 入力時に出力する音声を設定します。
[DIGITAL LINK]	DIGITAL LINK 入力時に出力する音声を設定します。
[MEMORY VIEWER]	MEMORY VIEWER 入力時に出力する音声を設定します。
[NETWORK]	NETWORK 入力時に出力する音声を設定します。

- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[AUDIO IN 1]	設定した入力端子からの映像投写時に、〈AUDIO IN 1〉端子に接続した音声を出力します。
[AUDIO IN 2]	設定した入力端子からの映像投写時に、〈AUDIO IN 2〉端子に接続した音声を出力します。
[AUDIO IN 3]	設定した入力端子からの映像投写時に、〈AUDIO IN 3〉端子に接続した音声を出力します。
[HDMI 1 AUDIO IN] *1	HDMI 1 の音声を出力します。
[HDMI 2 AUDIO IN] *2	HDMI 2 の音声を出力します。
[DIGITAL LINK AUDIO IN] *3	DIGITAL LINK の音声を出力します。
[NETWORK AUDIO IN] *4	NETWORK の音声を出力します。

*1 入力が HDMI 1 の場合のみ

*2 入力が HDMI 2 の場合のみ

*3 入力が DIGITAL LINK の場合のみ

*4 入力が NETWORK の場合のみ

[テストパターン]

本機内蔵のテストパターンを表示します。

[コントラスト] や [明るさ] などの [映像調整] メニューの設定内容は、テストパターンには反映されません。必ず入力信号を表示させた状態で各種調整を行ってください。

- 1) ▲▼ ボタンで [テストパターン] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 全白のテストパターンが表示されます。
- 3) ◀▶ ボタンでテストパターンを切り換える
 - ボタンを押すごとに、テストパターンが切り換わります。

全白	[パターン切換] の操作ガイドとともにテストパターンが表示されます。お好みのテストパターンを選択してください。
カラーバー (縦)	
カラーバー (横)	
十字	
十字 (反転)	
クロスハッチ	

お知らせ

- リモコンの 〈FUNCTION〉 ボタンに [テストパターン] を割り当てている場合、〈FUNCTION〉 ボタンを押すと全白のテストパターンが表示されます。

[フィルターカウンター]

フィルターの使用時間を確認したり、フィルターのお手入れ / 交換の周期を設定したりします。また、フィルターの使用時間をリセットできます。

- 1) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンター] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [フィルターカウンター] 画面が表示されます。

[フィルターカウンター]	フィルターの使用時間を表示します。
[タイマー]	フィルターのお手入れ / 交換の周期を設定します。
[フィルターカウンターリセット]	フィルターの使用時間をリセットします。

[タイマー] を設定する場合

定期的にフィルターのお手入れ / 交換を行いたい場合に、その周期を時間で設定します。フィルターの使用時間が設定した時間に到達すると、投写画面上にフィルターのお手入れ / 交換を促すメッセージ [フィルターカウンターが設定時間に到達しました] が表示されます。

- 1) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンター] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [フィルターカウンター] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [タイマー] を選択する
- 4) ◀▶ ボタンで項目を切り換える
 - ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	メッセージを表示しない場合に選択します。
[1000 時間] ~ [20000 時間]	メッセージを表示する場合に選択します。フィルターのお手入れ / 交換周期を設定できます。

[フィルターカウンター] をリセットする場合

フィルターの使用時間をリセットします。

- 1) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンター] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [フィルターカウンター] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンターリセット] を選択する
- 4) 〈ENTER〉 ボタンを押す
- 5) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [はい] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [フィルターカウンター] の表示が [0 時間] になります。

[全設定初期化]

各種設定値を工場出荷時の値に戻します。

- 1) ▲▼ ボタンで [全設定初期化] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
- 3) [全設定初期化] 画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [はい] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す
- 4) しばらくして電源切の確認画面が表示されたら、〈ENTER〉 ボタンを押す
 - 電源を切る操作以外は無効です。

お知らせ

- [セキュリティ] メニュー → [パスワード設定] を [オン] に設定している場合、[全設定初期化] を選択して 〈ENTER〉 ボタンを押すと、[パスワード設定] 画面が表示されます。本機に設定したセキュリティパスワードを入力してから操作を続けてください。
- [全設定初期化] を実行すると、設定値を反映させるためにプロジェクターはスタンバイ状態になります。

- [全設定初期化] を実行しても、次の設定値は初期化されません。
 - [スタンバイモード]
 - [RS-232C]
 - [フィルターカウンター]
 - [ネットワーク]
- [ネットワーク] の設定値を初期化する場合は、[ネットワーク] メニュー → [初期化] を実行してください。
- [全設定初期化] を実行した場合、次回投写開始時に **[初期設定]** 画面が表示されます。

[セキュリティ] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから [セキュリティ] を選択し、サブメニューから項目を選択してください。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法” (54 ページ) をご覧ください。

- 初めてご使用になる場合
初期パスワード：▲▼◀▶▲▼◀▶ ボタンの順に押し、〈ENTER〉ボタンを押してください。

お願い

- [セキュリティ] メニューを選択し、〈ENTER〉ボタンを押すと、パスワードの入力が求められます。設定したセキュリティパスワードを入力してから [セキュリティ] メニューの操作を続けてください。
- 以前にパスワードを変更した場合、変更後のパスワードを入力し、〈ENTER〉ボタンを押してください。

お知らせ

- 入力したパスワードは画面上では、* 印で表示されます。
- パスワードを間違えると、画面上にエラーメッセージが表示されます。再度正しいパスワードを入力してください。

[パスワード設定]

セキュリティパスワード入力を設定します。

セキュリティパスワード入力を有効にすると、次の場合に [パスワード設定] 画面を表示させ、セキュリティパスワードの入力を求めるようになります。

- 電源プラグをコンセントに接続して電源を入れたとき
- [プロジェクター設定] メニュー → [全設定初期化] を実行時
- [ネットワーク] メニュー → [初期化] を実行時

1) ▲▼ ボタンで [パスワード設定] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	セキュリティパスワード入力を無効にします。
[オン]	セキュリティパスワード入力を有効にします。

お知らせ

- 工場出荷時、または [プロジェクター設定] メニュー → [全設定初期化] を実行したあとの設定は、[オフ] になっています。必要に応じて [オン] に設定してください。
- 電源を入れたときのセキュリティパスワード入力は、[オン] に設定したあと、一度電源を切って電源プラグをコンセントに差し直すまで有効になりません。電源を入れたときのセキュリティパスワード入力を誤ると、電源 〈ON/OFF〉ボタンでの操作に限定されます。

[パスワード変更]

セキュリティパスワードを変更します。

1) ▲▼ ボタンで [パスワード変更] を選択する

2) 〈ENTER〉ボタンを押す

- [パスワード変更] 画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンや、数字 (〈0〉～〈9〉) ボタンでパスワードを設定する

- 最大 8 つのボタン操作を設定できます。

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

5) 確認のため、再度パスワードを入力する

6) 〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- 入力したパスワードは画面上では、* 印で表示されます。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものにしてください。
- セキュリティパスワードに数字を用いた場合、リモコンを紛失すると、セキュリティパスワードの初期化が必要になります。初期化方法については、販売店にご相談ください。

[テキスト設定]

投写中の映像に、セキュリティメッセージ（文字）を重ねて表示させます。

1) ▲▼ ボタンで [テキスト設定] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	セキュリティメッセージを表示しません。
[オン]	[セキュリティ] メニュー → [テキスト変更] で設定したテキストを表示します。

[テキスト変更]

[テキスト設定] で [オン] を選択したときに表示する文字を登録、変更します。

1) ▲▼ ボタンで [テキスト変更] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [テキスト変更] 画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押して入力する

4) ▲▼◀▶ ボタンで [確定] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

- テキストが変更されます。
- 最大 22 文字まで入力できます。

[メニューロック]

〈MENU〉 ボタンでメニューを表示し、メニュー操作できるかどうかを設定します。

1) ▲▼ ボタンで [メニューロック] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	メニュー操作を有効にします。
[オン]	メニュー操作を無効にします。

お知らせ

- 工場出荷時、または [プロジェクター設定] メニュー → [全設定初期化] を実行したあとの設定は、[オフ] になっています。必要に応じて [オン] に設定してください。
- [メニューロック] を [オン] に設定している場合、〈MENU〉 ボタンを押すと [メニューロックパスワード] 画面が表示されます。設定したメニューロックパスワードを入力すると、メニュー操作が有効になります。この場合、本機がスタンバイ状態になるまでメニュー操作有効の状態が維持されます。

[メニューロックパスワード]

メニューロックパスワードを変更します。

1) ▲▼ ボタンで [メニューロックパスワード] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [メニューロックパスワード] 画面が表示されます。

3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押して入力する

- 最大 16 文字まで入力できます。

4) ▲▼◀▶ ボタンで [確定] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

- 中止する場合は [キャンセル] を選択してください。

お願い

- 工場出荷時、または [プロジェクター設定] メニュー → [全設定初期化] を実行したあと、初期のパスワードは「AAAA」です。
- パスワードは定期的に変更し、推測されにくいものになしてください。
- パスワードを初期設定に戻す場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

[操作設定]

本体操作部とリモコンのボタン操作の有効 / 無効を設定します。

1) ▲▼ ボタンで [操作設定] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [操作設定] 画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで [本体操作部] または [リモコン] を選択する

[本体操作部]	本体操作部からの制御の制限を設定できます。
[リモコン]	リモコンからの制御の制限を設定できます。

4) ◀▶ ボタンで [有効] または [無効] を切り換える

- 本体操作部またはリモコンからの制御の制限を設定できます。

[有効]	すべてのボタン操作を有効にします。
[無効]	すべてのボタン操作を無効にします。

- [有効] から [無効] に切り換える場合は、手順 5) に進みます。

5) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [はい] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- [無効] に設定した側のボタンで操作すると、[パスワード設定] 画面が表示されます。
続けて操作する場合はセキュリティパスワードを入力してください。
- [パスワード設定] 画面は約 10 秒間何も操作しなければ消えます。
- [本体操作部] と [リモコン] の操作を両方とも [無効] にした場合、電源を切る（スタンバイ状態にする）ことができなくなります。
- リモコンのボタン操作を無効にしても、リモコンの 〈ID ALL〉 ボタンと 〈ID SET〉 ボタンの操作は有効です。

[ネットワーク] メニューについて

メニュー画面で、メインメニューから[ネットワーク]を選択し、サブメニューから項目を選択してください。メニュー画面の操作については、“メニュー画面の操作方法”（ 54 ページ）をご覧ください。

- 本機で無線 LAN 機能を使用するためには、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付ける必要があります。

[DIGITAL LINK モード]

本機の〈DIGITAL LINK/LAN〉端子の通信方式を切り換えます。

1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK モード] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オート】	通信方式が DIGITAL LINK、ロングリーチ、イーサネットのいずれかに自動的に切り換わります。
【DIGITAL LINK】	通信方式が DIGITAL LINK に固定されます。
【ロングリーチ】	通信方式がロングリーチに固定されます。
【イーサネット】	通信方式がイーサネットに固定されます。

通信可能なモードについて

✓：通信可能

—：通信不可

設定		通信可否			
		映像伝送 (100 m)	映像伝送 (150 m)	イーサネット	RS-232C
【オート】	DIGITAL LINK の場合	✓	—	✓	✓
	ロングリーチの場合	—	✓	✓	✓
	イーサネットの場合	—	—	✓ ^{*1}	—
【DIGITAL LINK】		✓	—	✓	✓
【ロングリーチ】		—	✓	✓	✓
【イーサネット】		—	—	✓ ^{*1}	—

*1 ツイストペアケーブル伝送器を経由しての通信はできません。本機を直接ネットワークに接続してください。

お知らせ

- 1 920 x 1 200 ドット以下の解像度の信号の場合、DIGITAL LINK の通信方式で接続した場合の最長伝送距離は 100 m です。
1 920 x 1 200 ドットを超える解像度の信号の場合、伝送可能距離は最長 50 m です。
- ロングリーチの通信方式で接続した場合の最長伝送距離は 150 m です。ただし、その場合に本機が受信できる信号は、1080/60p（1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz）までになります。
- ツイストペアケーブル伝送器側の通信方式がロングリーチに設定されている場合、[DIGITAL LINK モード] を [オート] に設定すると、ロングリーチの通信方式で接続します。別売品のデジタルリンクスイッチャー（品番：ET-YFB200）との間をロングリーチの通信方式で接続する場合は、[DIGITAL LINK モード] を [ロングリーチ] に設定してください。
- [DIGITAL LINK モード] を [ロングリーチ] に設定しても、ツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応していない場合は正常に接続できません。

[DIGITAL LINK ステータス]

DIGITAL LINK の接続環境を表示します。

1) ▲▼ ボタンで [DIGITAL LINK ステータス] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [DIGITAL LINK ステータス] 画面が表示されます。

【リンク状態】	表示内容は次のとおりです。 [DIGITAL LINK]：DIGITAL LINK の方式で通信しています [ロングリーチ]：ロングリーチの方式で通信しています [イーサネット]：イーサネットの方式で通信しています [NO LINK]：通信が確立していない場合
---------	--

[HDCP ステータス]	表示内容は次のとおりです。 [オン]：HDCP で保護されている場合 [オフ]：HDCP で保護されていない場合 [NO SIGNAL]：無信号の場合
[信号品質]	[信号品質] はエラー発生量を数値化したもので、その数値によって表示色が緑色 / 黄色 / 赤色に変わります。 ツイストペアケーブル伝送器からの信号を受信した状態で信号品質レベルを確認してください。 • [最大] / [最小]：エラー発生量の最大値 / 最小値 • 緑色（-12 dB 以下）→ 正常な信号品質レベルです。 • 黄色（-11 ~ -8 dB）→ 画面にノイズが出る可能性がある注意レベルです。 • 赤色（-7 dB 以上）→ 同期が乱れる、または受信不可能な異常レベルです。

[DIGITAL LINK メニュー]

別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器（品番：ET-YFB100、ET-YFB200）を〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続している場合、その DIGITAL LINK 出力対応機器のメインメニューが表示されます。詳しくは、DIGITAL LINK 出力対応機器の取扱説明書をご覧ください。

お知らせ

- [ネットワーク] メニュー → [ネットワークコントロール] → [EXTRON XTP] を [オン] に設定している場合、[DIGITAL LINK メニュー] は選択できません。

[有線 LAN]

有線 LAN を利用するための接続設定をします。

- 1) ▲▼ ボタンで [有線 LAN] を選択する
- 2) 〈ENTER〉 ボタンを押す
 - [有線 LAN 詳細設定] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼◀▶ ボタンで各項目を選択し、メニューの操作指示に従って設定を変更する

[DHCP]	[オン]	プロジェクターを接続するネットワークに DHCP サーバーが存在し、IP アドレスを自動的に取得する場合に選択します。
	[オフ]	プロジェクターを接続するネットワークに DHCP サーバーが存在しない場合など、IP アドレスを指定するときに選択します。
[IP アドレス]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合に IP アドレスを入力します。	
[サブネットマスク]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合にサブネットマスクを入力します。	
[デフォルトゲートウェイ]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合にデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。	
[DNS1]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合に優先 DNS サーバーのアドレスを入力します。	
[DNS2]	[DHCP] を [オフ] に設定した場合に代替 DNS サーバーのアドレスを入力します。	

- 4) 設定変更を完了後、[確定] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- 各項目の設定内容については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 〈LAN〉端子と〈DIGITAL LINK/LAN〉端子のネットワーク設定は共通です。
- 有線 LAN と無線 LAN を同一セグメントで使用することはできません。
- [DHCP] を [オン] に設定して使用する場合は、DHCP サーバーが立ち上がっていることを確認してください。

■ 工場出荷時の設定

- 工場出荷時、あらかじめ次のように設定されています。

[DHCP]	[オフ]
[IP アドレス]	192.168.10.100
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	192.168.10.1
[DNS1] / [DNS2]	(空白)

[プロジェクター名]

プロジェクター名を変更できます。DHCP サーバーを利用する場合などにプロジェクター名を変更してください。

- 1) ▲▼ ボタンで [プロジェクター名] を選択する

- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [プロジェクター名] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、〈ENTER〉ボタンを押して入力する
 - 最大 8 文字を入力できます。
- 4) プロジェクター名の入力を完了後、▲▼ ボタンで [確定] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

お知らせ

- プロジェクター名の工場出荷時の設定は、「Namexxxx」です。xxxx は、製品ごとに付与されている固定値です。

[ネットワークコントロール]

ネットワークのコントロール方法を設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [ネットワークコントロール] を選択する
- 2) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [ネットワークコントロール] 画面が表示されます。
- 3) ▲▼ ボタンで各項目を選択し、◀▶ ボタンで設定を変更する

[WEB 制御]	WEB 制御したい場合、[オン] に設定します。
[PJLink コントロール]	PJLink プロトコルで制御したい場合、[オン] に設定します。
[PJLink 通知]	PJLink の通知機能を使用する場合、[オン] に設定します。 • [オン] に設定して 〈ENTER〉ボタンを押すと、[PJLink 通知] 画面が表示されます。本機のステータスを通知するコンピューターの IP アドレスを [通知先 IP アドレス 1]、[通知先 IP アドレス 2] に設定してください。
[コマンドコントロール]	〈SERIAL IN〉端子の制御コマンド形式 (☞ 135 ページ) で制御したい場合、[オン] に設定します。 “LAN 経由の制御コマンドについて” (☞ 132 ページ) をご覧ください。
[コマンドポート]	コマンドコントロールで使用するポート番号を設定します。
[Crestron Connected (TM)]	Crestron 社の Crestron Connected で制御したい場合、[オン] に設定します。
[AMX D.D.]	AMX 社のコントローラーで制御したい場合、[オン] に設定します。 この機能を [オン] に設定すると、「AMX デバイスディスカバリー」による検知を有効にすることができます。詳細については、AMX 社の WEB サイトをご覧ください。 URL http://www.amx.com/
[EXTRON XTP]	Extron 社製の「XTP トランスミッター」を 〈DIGITAL LINK/LAN〉端子に接続する場合、[オン] に設定します。 別売品の DIGITAL LINK 出力対応機器 (品番: ET-YFB100、ET-YFB200) を接続する場合は、[EXTRON XTP] の設定を [オフ] にする必要があります。 「XTP トランスミッター」の詳細については、Extron 社の WEB サイトをご覧ください。 URL http://www.extron.co.jp/

- 4) ▲▼ ボタンで [確定] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す

[メモリービューワー]

メモリービューワーの動作について設定します。

お知らせ

- [メモリービューワー] メニューは、MEMORY VIEWER 入力を選択している場合のみに操作や設定ができます。
- メモリービューワー機能の使い方については、「MEMORY VIEWER 入力で表示する」 (☞ 97 ページ) をご覧ください。

[セットスライド]

スライドショーを開始します。スライドショーについて詳しくは、「スライドショーを実行する」 (☞ 98 ページ) をご覧ください。

[スライド効果]

スライドショーで画像が切り換わる時の画面切換効果を設定します。

- 1) ▲▼ ボタンで [スライド効果] を選択する
- 2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【右にスライド】	左から右に向けて画像が切り換わります。
【下にスライド】	上から下に向けて画像が切り換わります。

3) ▲▼ボタンで【適用】を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

【ソート順】

スライドショーで再生する画像の順序を設定します。

1) ▲▼ボタンで【ソート順】を選択する

2) ◀▶ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【名前順】	ファイルまたはフォルダーの名前の昇順で再生します。
【時間順】	ファイルまたはフォルダーの保存日時の古いものから順に再生します。
【サイズ順】	ファイルまたはフォルダーのデータサイズが大きいものから順に再生します。
【拡張子順】	ファイルの拡張子の種類ごとに名前の昇順で再生します。

3) ▲▼ボタンで【適用】を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

【回転】

画像の回転方向を設定します。

1) ▲▼ボタンで【回転】を選択する

2) ◀▶ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【回転なし】	画像を回転させません。
【90°】	画像を時計方向に 90° 回転させます。
【180°】	画像を時計方向に 180° 回転させます。
【270°】	画像を時計方向に 270°（反時計方向に 90°）

3) ▲▼ボタンで【適用】を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

【ベストフィット】

画像を投写画面に合わせて表示するかどうかを設定します。

1) ▲▼ボタンで【ベストフィット】を選択する

2) ◀▶ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

【オフ】	画像の画素数のままで表示します。
【オン】	【表示オプション】メニュー → 【スクリーン設定】で設定したスクリーンに合わせて画像を表示します。

3) ▲▼ボタンで【適用】を選択する

4) 〈ENTER〉ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

[リピート]

スライドショーで繰り返し再生するかどうかを設定します。

1) ▲▼ ボタンで [リピート] を選択する

2) ◀▶ ボタンで項目を切り換える

- ボタンを押すごとに、項目が切り換わります。

[オフ]	最後のファイルを再生後、スライドショーを終了してサムネイル表示に戻ります。
[オン]	最後のファイルを再生後、先頭のファイルに戻って再生を繰り返します。

3) ▲▼ ボタンで [適用] を選択する

4) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- 設定内容が反映されます。

[ネットワークステータス]

本機のネットワーク状態を表示します。

1) ▲▼ ボタンで [ステータス] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

- [ネットワークステータス] 画面が表示されます。
- ▲▼ ボタンを押すごとに、表示画面（1/2 [有線 LAN] → 2/2 [無線 LAN] / [Presenter Light]）が切り換わります。

[有線 LAN]	[DHCP]	DHCP サーバーの利用状態を表示します。
	[IP アドレス]	IP アドレスを表示します。
	[サブネットマスク]	サブネットマスクを表示します。
	[デフォルトゲートウェイ]	デフォルトゲートウェイを表示します。
	[DNS1]	優先 DNS サーバーのアドレスを表示します。
	[DNS2]	代替 DNS サーバーのアドレスを表示します。
[無線 LAN]	[MAC アドレス]	MAC アドレスを表示します。
	[SSID] *1	SSID の文字列を表示します。
	[IP アドレス] *1	IP アドレスを表示します。
[Presenter Light]	[LOGIN PASSWORD]	Presenter Light で使用するログインパスワードを表示します。

*1 [無線 LAN] の [SSID] / [IP アドレス] は、本機に別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を装着している場合に 표시됩니다。

お知らせ

- 〈LAN〉端子と〈DIGITAL LINK/LAN〉端子のネットワーク設定は共通です。
- 本機のオンスクリーンメニュー（メニュー画面）には、無線 LAN のネットワーク設定をする項目はありません。本機に別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を装着したうえで、コンピューターから本機にアクセスして無線 LAN の設定をしてください。詳しくは、“WEB 制御機能について” → “[LAN 設定] ページ” → “無線 LAN 接続の場合”（ 111 ページ）をご覧ください。

[初期化]

[ネットワーク] の各種設定値を工場出荷時の値に戻します。

1) ▲▼ ボタンで [初期化] を選択する

2) 〈ENTER〉 ボタンを押す

3) [初期化] 画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [はい] を選択し、〈ENTER〉 ボタンを押す

お知らせ

- [セキュリティ] メニュー → [パスワード設定] を [オン] に設定している場合、[初期化] を選択して 〈ENTER〉 ボタンを押すと、[パスワード設定] 画面が表示されます。本機に設定したセキュリティパスワードを入力してから操作を続けてください。

第 5 章 機能の操作

各種機能の使い方について説明しています。

MEMORY VIEWER 入力で表示する

メモリービューワーは、USB メモリーに記録されている静止画を投写映像として表示する機能です。

メモリービューワー機能で投写できる画像

本機のメモリービューワー機能では、以下の画像ファイルを再生できます。

	拡張子	フォーマット	説明
静止画	jpg / jpeg	Baseline coding 24 bits プログレッシブ RGB 24 bits	解像度：8 x 8 ~ 10 000 x 10 000 解像度：8 x 8 ~ 1 920 x 1 200
	bmp	Palette-based 1, 4, 8 bits RGB 24, 32 bits	最大解像度：1 920 x 1 200
	png	True color 24 bits/48 bits	最大解像度：1 920 x 1 200
	gif	Palette-based 1, 4, 8 bits	Palette - 24 bits color spaces 最大解像度：1 920 x 1 200
	tif / tiff	—	最大解像度：1 920 x 1 200

お知らせ

- 再生できるファイルのサイズは最大 2 GB です。
- 本機で認識できるフォルダー / ファイルの数は、合計 1 000 までです。
- DRM (Digital Rights Management、デジタル著作権管理) で保護されたファイルは再生できません。
- 対応フォーマットのファイルでも再生できない場合があります。

USB メモリー使用上のお願い

次のことをお守りください。

- USB メモリーを幼い子供の手が届く場所に保管しないでください。誤って口に入れると窒息するおそれがあります。
- 発煙や異臭を察知した場合は、本機から取り外して、製造元に連絡してください。
- USB メモリーに水、薬品、石油製品などをこぼさないでください。短絡または火災の原因になります。
- USB 端子部分に異物や金属品を入れないでください。保存データの損失または破壊の原因になります。
- USB メモリーからデータを読み出している間は、本機から無理に取り外さないでください。データの損失または破壊の原因になります。
- 湿度の高い所、ほこりの多い所に置かないでください。
- 静電気や電磁波が発生する所に置かないでください。

お知らせ

- 市販の USB メモリーに対応しています。
- FAT16 または FAT32 でフォーマットしたもの以外は使用できません。

USB メモリーを取り付ける

1) 〈USB(VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に USB メモリーをしっかりと奥まで挿す

お願い

- USB メモリーを挿す際は、端子の向きに注意して傷めないようにしてください。
- USB 延長ケーブルや USB ハブを使用せずに、USB メモリーを本機の〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT) 〉端子に直接挿してください。

USB メモリーを取り外す

1) USB メモリー上のインジケーターが点滅していないことを確認して取り外す

お願い

- USB メモリーを取り外すときは以下の点に注意してください。
 - 装着した USB メモリーのインジケーターが点滅しているときは、本機がデータを読み出していること示します。点滅中は USB メモリーを取り外さないでください。
 - インジケーターなどのモニター機能を備えていない USB メモリーを使用している場合、データの読み出し状況が把握できません。そのため、メモリービューワーを終了する、または本機の電源を切ってから、取り外してください。
 - USB メモリーの取り付けと取り外しを短時間で行わないでください。取り付けてから少なくとも 5 秒待ってから取り外し、再び取り付ける場合は、取り外してから少なくとも 5 秒待ってください。本機が USB メモリーの取り付け有無を認識するには約 5 秒を要します。

メモリービューワー画面を表示する

- 1) リモコンの〈NETWORK/USB〉ボタンを押して、入力を MEMORY VIEWER に切り換える
 - 本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押して入力選択メニューから選択することもできます。
- 2) 〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に USB メモリーをしっかりと挿入する
 - 待機画面「please press ENTER」が表示され、画面左下に USB メモリーのアイコンが表示されます。
- 3) リモコンの〈ENTER〉ボタンを押す
 - 画面に USB メモリーのルートディレクトリーがサムネイル表示されます。

静止画を再生する

- 1) リモコンの▲▼◀▶ボタンでメモリービューワー画面上の再生したいファイルを選択する
- 2) リモコンの〈ENTER〉ボタンを押す
 - 全画面に静止画が表示されます。
- 3) ▶ボタンで次の画像、◀ボタンで前の画像に切り換える
- 4) リモコンの〈ENTER〉ボタンを押す
 - サムネイル表示に戻ります。

お知らせ

- 記録画素数が最大表示ドット数^{*1}よりも小さい場合は、アスペクト比を維持したまま拡大表示されます。
- 記録画素数が最大表示ドット数^{*1}よりも大きい場合は、アスペクト比を維持したまま縮小表示されます。
- 記録画素数が最大表示ドット数^{*1}と同じである場合、拡大表示または縮小表示されないため、画質の劣化を低減できます。

^{*1} 各製品の最大表示ドット数は次のとおりです。
 PT-VMZ60J / PT-VMZ50J : 1 920 x 1 200
 PT-VMW50J : 1 280 x 800

スライドショーを実行する

同一フォルダー内のすべての静止画を、[メモリービューワー] メニューの[スライド効果]、[ソート順]などで設定された仕様で連続投写されます。

- 1) リモコンの▲▼◀▶ボタンで投写したいファイルを選択する
- 2) 〈MENU〉ボタンで[メモリービューワー] → [セットスライド]を選択する
- 3) リモコンの〈ENTER〉ボタンを押す
 - スライドショーが開始されます。
 - 再生中に〈ENTER〉ボタンを押すと、サムネイル表示に戻ります。

お知らせ

- スライドショー再生中に〈MENU〉ボタンを押すと、再生を終了し、メニューが表示されます。メニュー表示が消えると続けて再生されます。

メモリービューワーを終了する

- 1) リモコンの▲▼◀▶ボタンでサムネイル表示左上のを選択する
- 2) リモコンの〈ENTER〉ボタンを押す
 - 待機画面「please press ENTER」に戻ります。
 再生している画像ファイルが保存されているフォルダーの階層によっては、待機画面に戻るまで手順 1) と 2) の操作を繰り返す必要があります。

お知らせ

- MEMORY VIEWER 以外の入力に切り換えることでも、メモリービューワーを終了できます。

NETWORK 入力で表示する

当社のアプリケーションソフトを使用して、LAN 接続した端末から送信された画像を投写映像として表示することができます。

無線 LAN で接続する場合は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）が必要です。

使用できるアプリケーションソフト

NETWORK 入力で使用する画像転送用アプリケーションソフトは次のとおりです。

- Presenter Light ソフトウェア (Windows コンピューター対応)
- ワイヤレスプロジェクター for iOS、ワイヤレスプロジェクター for Android

お知らせ

- 画像転送用のアプリケーションソフト「Presenter Light ソフトウェア」、「ワイヤレスプロジェクター」については、次の URL を参照してください。
<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>

端末を接続する

1) 〈NETWORK/USB〉ボタンを押し、NETWORK に入力を切り換える

- 〈NETWORK/USB〉ボタンを押すごとに、MEMORY VIEWER 入力と NETWORK 入力が切り換わります。
- 入力が NETWORK に切り換わると、待ち受け画面が表示されます。

2) 画像転送用アプリケーションソフトを起動した端末で本機に接続する

- 端末側の操作で本機に送信された画像が投写映像として表示されます。

お知らせ

- アプリケーションソフトを使用した本機への接続方法については、各アプリケーションソフトの説明書などをご覧ください。
- 待ち受け画面の説明について、“無線 LAN で接続する場合”（ 102 ページ）を参照してください。

端末との接続を終了する

1) 端末側で切断処理をする

- 接続終了後は待ち受け画面が表示されます。

お知らせ

- 端末の電源を切るなど、適切な切断処理を行わずに強制的に接続を終了した場合、待ち受け画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。

ネットワーク接続について

本機はネットワーク機能を備えており、コンピューターと接続することにより次のようなことができます。

- **WEB 制御**

コンピューターから本機にアクセスすることで、本機の設定や調整、状態表示などができます。詳しくは、“WEB 制御機能について”（👁 105 ページ）をご覧ください。

- **複数台監視制御ソフトウェア**

イントラネットに接続された複数台のディスプレイ（プロジェクターやフラットパネルディスプレイ）を監視・制御するソフトウェア「複数台監視制御ソフトウェア」を使用できます。

また、イントラネット内にあるディスプレイやその周辺機器の状態を監視し、これらの機器の異常の通知や異常発生の予兆を検知するプラグインソフト「予兆監視ソフトウェア」の機能も使用できます。

詳しくは、弊社 WEB サイト（<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>）をご覧ください。

- **画像転送用アプリケーションソフト**

当社の画像転送用アプリケーションソフトを使用して、端末から送信された画像を投写映像として表示することができます。

Windows コンピューターに対応した画像転送用のアプリケーションソフト「Presenter Light ソフトウェア」の使用方法については、「Presenter Light ソフトウェア」の取扱説明書をご覧ください。「Presenter Light ソフトウェア」のアプリケーションソフトは、WEB ブラウザーを用いて本機にアクセスすることで入手できます。入手方法については、“「Presenter Light ソフトウェア」について”（👁 104 ページ）をご覧ください。「Presenter Light ソフトウェア」の取扱説明書とアプリケーションソフトは、弊社 WEB サイト（<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>）からダウンロードすることができます。

iPad/iPhone/iPod touch、Android 端末に対応した画像転送用アプリケーションソフト「ワイヤレスプロジェクター」については、弊社 WEB サイト（<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>）をご覧ください。

- **PJLink**

PJLink プロトコルを使用して、コンピューターから本機に対する操作や状態の問い合わせができます。詳しくは、“PJLink プロトコルを使用する”（👁 130 ページ）をご覧ください。

- **コマンドコントロール**

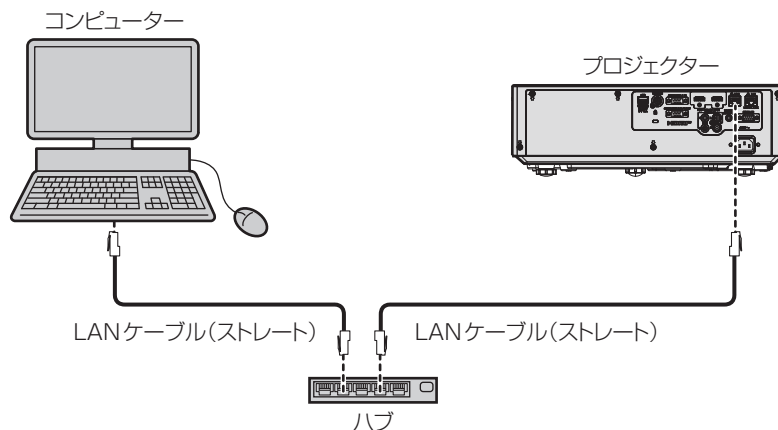
制御コマンドを使用して、コンピューターから本機に対する操作や状態の問い合わせができます。

詳しくは、“LAN 経由の制御コマンドについて”（👁 132 ページ）をご覧ください。

有線 LAN で接続する

本機は、ツイストペアケーブル伝送器からのイーサネット信号を、映像・音声・シリアル制御信号とともに LAN ケーブルを介して受信できます。

通常のネットワーク接続例



お願い

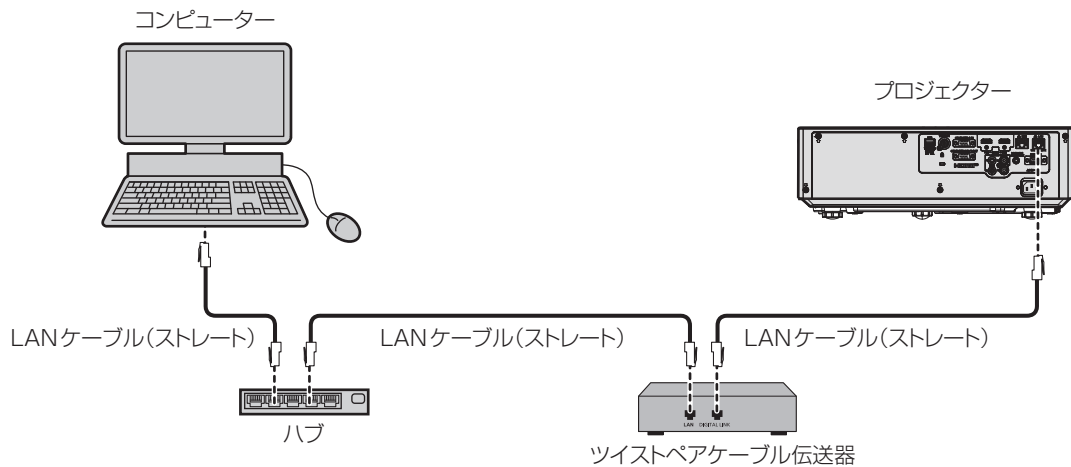
- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。

お知らせ

- 有線 LAN 接続でネットワーク機能を使用する場合は、LAN ケーブルが必要です。

- LAN ケーブルはストレートまたはクロス結線で、CAT5 以上対応のものをご使用ください。システムの構成によってストレート / クロスのいずれか、または両方のケーブルを使用可能かが異なりますので、ネットワーク管理者にご確認ください。本機については、ケーブルの種類（ストレート / クロス）を自動的に判別します。
- LAN ケーブル長は 100 m 以下のものをご使用ください。

ツイストペアケーブル伝送器経由のネットワーク接続例



お願い

- プロジェクターに直接接続する LAN ケーブルは、屋内だけで配線してください。

お知らせ

- ツイストペアケーブル伝送器と本機間の LAN ケーブルは、次の条件に適合したケーブルをお使いください。
 - CAT5e 以上の規格に適合
 - シールドタイプ（コネクタを含む）
 - ストレート結線
 - 単線
 - 芯線の直径が AWG24 以上の太さ（AWG24、AWG23 など）
- 1 920 x 1 200 ドット以下の解像度の信号の場合、ツイストペアケーブル伝送器と本機間の伝送可能距離は、通常は最長 100 m です。1 920 x 1 200 ドットを超える解像度の信号の場合、伝送可能距離は最長 50 m です。またツイストペアケーブル伝送器がロングリーチの通信方式に対応している場合は、最長 150 m まで伝送できます。ただし、ロングリーチの通信方式の場合に本機が受像できる信号は、1080/60p（1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz）までになります。これらを上回ると映像が途切れたり、LAN 通信で誤動作したりすることがあります。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブル敷設時には、ケーブルテスターやケーブルアナライザーなどを使用して、ケーブルの特性が CAT5e 以上の特性を満たしていることをご確認ください。途中で中継コネクタを介している場合は、それも含めて測定してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間にハブを使用しないでください。
- ケーブルを強い力で引っ張らないでください。また、無理に曲げたり折り畳んだりしないようにしてください。
- ノイズの影響を少なくするため、ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルはできるだけ巻かず引き伸ばした状態で、設置・使用してください。
- ツイストペアケーブル伝送器と本機間のケーブルは、他のケーブル、特に電源ケーブルからは離して敷設してください。
- 複数のケーブルを敷設するときは、束ねないで並走する距離をできるだけ短くしてください。
- ケーブル敷設後に [ネットワーク] メニュー → [DIGITAL LINK ステータス] で [信号品質] の数値が、正常な品質を示す緑色で表示されることを確認してください。
- 本機で動作確認済みの他社製ツイストペアケーブル伝送器については、弊社 WEB サイト (<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>) をご覧ください。他社製機器の動作確認は、弊社確認項目について実施したものであり、すべての動作を保証するものではありません。他社製機器に起因する操作や性能上の不具合などについては、各メーカーにお問い合わせください。

本機の設定

- 1) 本機とコンピューターを LAN ケーブルで接続する
- 2) 本機の電源を入れる
- 3) メインメニューから [ネットワーク] メニュー → [有線 LAN] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 4) [有線 LAN] の設定を行う
 - 詳細については [有線 LAN] (92 ページ) をご覧ください。

お知らせ

- 既存のネットワークに接続する場合は、ネットワーク管理者に確認してから行ってください。

■ 工場出荷時の設定

- 工場出荷時、あらかじめ次のように設定されています。

[DHCP]	[オフ]
[IP アドレス]	192.168.10.100
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	192.168.10.1
[DNS1] / [DNS2]	(空白)

コンピューターの操作

1) コンピューターの電源を入れる

2) ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行う

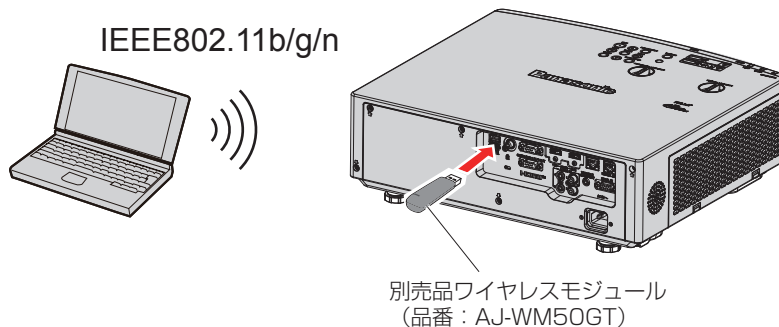
- 本機の設定が工場出荷の状態であれば、コンピューター側のネットワーク設定を次のようにすると、そのまま使いになれます。

[IP アドレス]	192.168.10.101
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	192.168.10.1

無線 LAN で接続する場合

無線 LAN でネットワーク機能を使用する場合は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）が必要です。

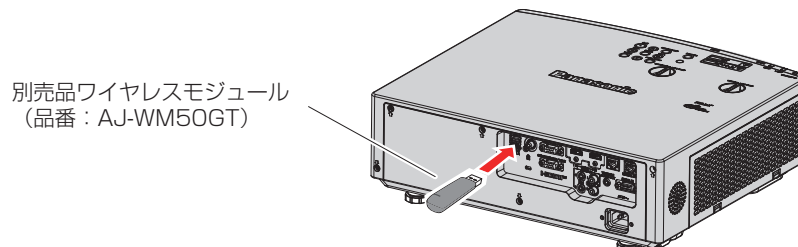
接続例



本機の準備と確認

1) 本機の電源を入れる

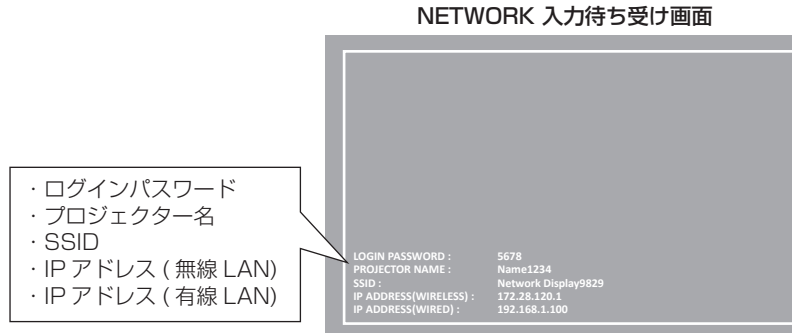
2) 別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子にしっかりと奥まで挿す



3) リモコンの〈NETWORK/USB〉ボタンを押して NETWORK に入力を切り換える

- NETWORK 入力の待ち受け画面が表示されます。待ち受け画面には、ログインパスワード（自動生成される 4 桁の数字）、プロジェクター名、SSID、IP アドレス（無線 LAN）、IP アドレス（有線 LAN）が表示されます。

- 本体操作部の〈INPUT SELECT〉ボタンを押して入力ガイドを表示したうえで、▲▼◀▶ ボタンで NETWORK に切り換えることもできます。



お願い

- ワイヤレスモジュールを装着した状態で本機を移動したり運搬したりしないでください。ワイヤレスモジュールが破損するおそれがあります。
- ワイヤレスモジュールのインジケータは、本機がスタンバイ状態では消灯し、電源オン時は青色点灯し、無線通信中は青色点滅します。インジケータが点滅中は取り外さないでください。
- 本機の電源を入れてもワイヤレスモジュールのインジケータが点灯 / 点滅しない場合は、一度ワイヤレスモジュールを取り外し、再びワイヤレスモジュールを〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子に挿入してください。
- 本機の電源を入れたあと、待ち受け画面に IP アドレス（無線 LAN）が表示されてから、本機にネットワーク接続してください。

お知らせ

- 無線 LAN と有線 LAN を同一セグメントで使用することはできません。
- ワイヤレスモジュールは、次の設定がされています。[SSID]、[チャンネル]、[暗号化]、[キー] の設定は WEB ブラウザーから本機にアクセスして実行してください。

[SSID]	Network Displayxxxx (xxxx は、製品ごとに付与されている固定値です。)
[チャンネル]	1
[IP アドレス]	172.28.120.1
[サブネットマスク]	255.255.255.0
[デフォルトゲートウェイ]	0.0.0.0
[暗号化]	WPA2-PSK(AES)
[キー]	panasonic

コンピューターの設定

- 1) コンピューターの電源を入れる
- 2) ネットワーク管理者の指示に従い、ネットワークの設定を行う
 - ネットワーク管理者の指示に従って、コンピューターと本機の各ネットワーク項目の設定を行ってください。
- 3) 本機に設定されているネットワークに接続する
 - Windows コンピューターの場合、タスクトレイ（コンピューター画面の右下）の  をクリックして、本機に設定されている [SSID] と同じ名前を選択し、ワイヤレス接続用のパスワードを入力します。
 - 工場出荷時のワイヤレス接続用パスワードは「panasonic」です。

お知らせ

- OS 標準の無線 LAN 接続ユーティリティを使用する場合は、使用するユーティリティの操作手順に従って接続してください。

「Presenter Light ソフトウェア」について

（無線 LAN で接続する場合は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）が必要です。）
Windows コンピューターに対応した画像転送用のアプリケーションソフト「Presenter Light ソフトウェア」を用いて、有線 LAN/ 無線 LAN を介して本機に画像・音声を転送できます*1。

*1 画像・音声転送時に音が途切れたり、雑音が入ったりすることがあります。そのような場合には、アプリケーションソフト側の音声設定で音声出力を[しない]に設定してください。

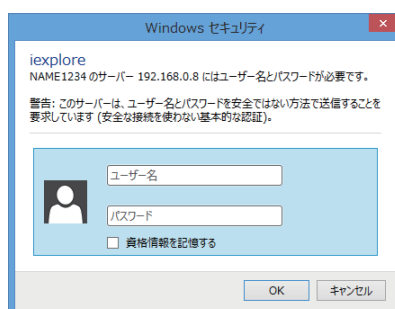
「Presenter Light」をコンピューターにダウンロードする

1) コンピューターの WEB ブラウザーを起動する

2) WEB ブラウザーの URL 入力欄に本機で設定した IP アドレスを入力する

3) ユーザー名とパスワードを入力する

- 工場出荷時の設定は、ユーザー名：dispuser（ユーザー権限）/dispadmin（管理者権限）、パスワード：@Panasonic です。
- ユーザー名とパスワードを変更する方法について、詳しくは“WEB ブラウザーからのアクセスのしかた”（🔗 105 ページ）をご覧ください。

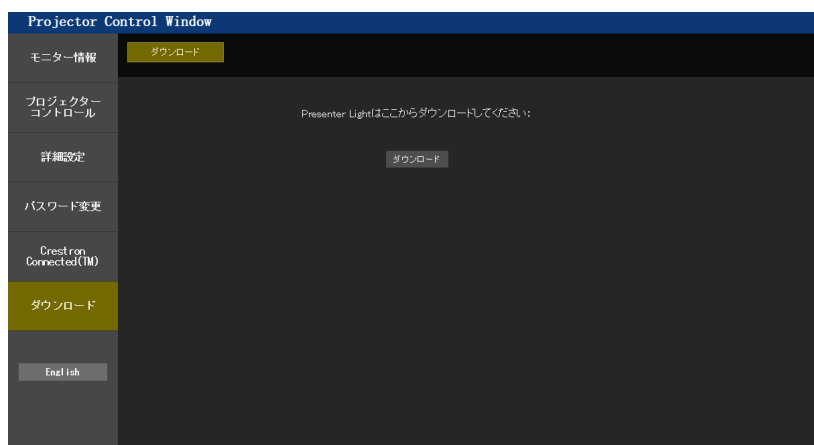


4) OK をクリックする

- WEB 制御画面が表示されます。

5) 「ダウンロード」をクリックする

- 「Presenter Light」のダウンロード画面が表示されます。



6) 「ダウンロード」をクリックする

- 圧縮ファイル「Presenter Light.zip」のダウンロード確認画面が表示されます。

7) 「Presenter Light.zip」を保存して解凍する

- 解凍すると「Presenter Light」フォルダーが生成され、その下に実行ファイル「Presenter Light.exe」と、Presenter Light ソフトウェアが使用しているオープンソースソフトウェアのライセンスを収録した「License」フォルダーが展開されます。
- Presenter Light ソフトウェアを使用の際は直接「Presenter Light.exe」を実行するので、起動に便利な所に保存したり、ショートカットを作成したりしてください。コンピューターへのインストールは不要です。

お知らせ

- Presenter Light ソフトウェアの使用法と最新バージョンのダウンロードについては、弊社 WEB サイト（<https://biz.panasonic.com/jp-ja/products-services/projector>）をご覧ください。

WEB 制御機能について

(無線 LAN で接続する場合は、別売品のワイヤレスモジュール (品番: AJ-WM50GT) が必要です。)
WEB 制御機能を使用して、コンピュータから下記のような操作ができます。

- プロジェクターの設定と調整
- プロジェクターの状態表示
- プロジェクターが異常時に E メールメッセージを送信

また、本機は「Crestron Connected」に対応しており、Crestron Electronics, Inc. の以下のアプリケーションソフトを使用できます。

- RoomView Express
- Crestron Fusion

お知らせ

- E メール機能をご使用になる場合は、E メールサーバーと通信する必要があります。あらかじめ E メールが利用できることを確認してください。
- 「Crestron Connected」はネットワークに接続された複数のシステムの様々な機器を、コンピュータで一括して管理・制御する Crestron Electronics, Inc. 製のシステムです。
- 「Crestron Connected」の詳細については、Crestron Electronics, Inc. の WEB サイトをご覧ください。(英語表示のみとなります。)
URL <https://www.crestron.com>
また、「RoomView Express」は、Crestron Electronics, Inc. の WEB サイトよりダウンロードしてください。(英語表示のみとなります。)
URL <https://www.crestron.com/en-US/resources/get-roomview>

設定に使用できるコンピューター

WEB 制御機能を使用するには、WEB ブラウザーが必要です。あらかじめ WEB ブラウザーが使用できることを確認してください。

OS	対応ブラウザ
Windows	Internet Explorer 11.0 Microsoft Edge
Mac OS	Safari 8.0/9.0/10.0/11.0
iOS	Safari (iOS 9、iOS 10、iOS 11、iOS 12 搭載版)
Android	Google Chrome (Android 4.4/5.0/5.1/6.0/7.0/8.0/9.0 搭載版)

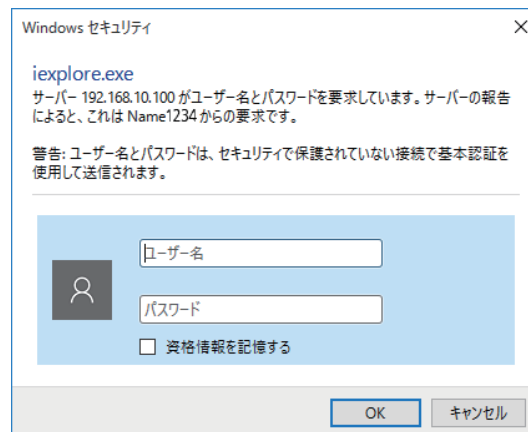
WEB ブラウザーからのアクセスのしかた

1) コンピューターの WEB ブラウザーを起動する

2) WEB ブラウザーの URL 入力欄に本機で設定した IP アドレスを入力する

3) ユーザー名とパスワードを入力する

- 工場出荷時の設定は、ユーザー名: dispuser (ユーザー権限) / dispadmin (管理者権限)、パスワード: @Panasonic です。
- はじめて WEB 制御機能を使用する場合は、パスワードの変更を求められます。手順 4) に進んでください。すでに WEB 制御機能を使用したことがある場合は、手順 7) に進んでください。



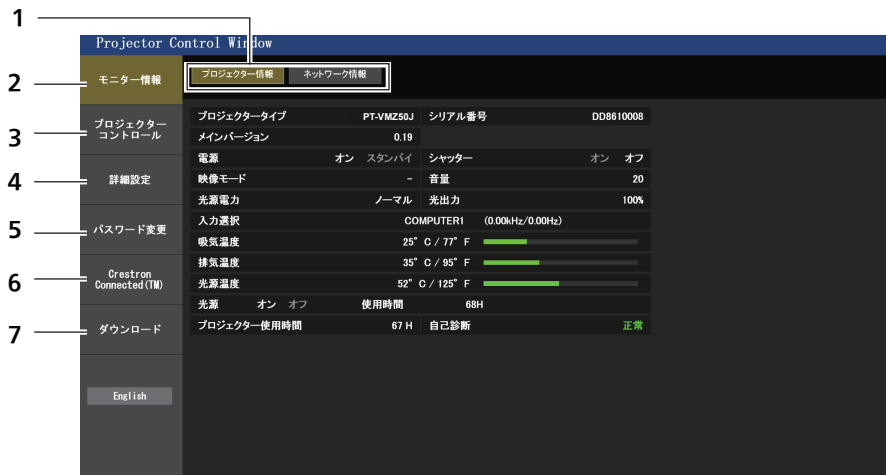
アカウントごとの権限

管理者権限は、全機能を使用できます。ユーザー権限は、使用できる権限に制限があります。目的に応じて、権限を選択してください。

- ✓：操作可能
—：操作不可

項目	機能	管理者権限	ユーザー権限	ページ
【モニター情報】	【プロジェクター情報】	✓	✓	108
	エラー情報ページ	✓	✓	108
	【ネットワーク情報】	✓	✓	109
【プロジェクターコントロール】	【基本制御】	✓	✓	109
	【詳細制御】	✓	✓	110
【詳細設定】	【LAN 設定】	✓	—	110
	【接続テスト】	✓	—	112
	【ECO マネージメント設定】	✓	—	112
	【E メール設定】	✓	—	113
	【認証サーバー設定】	✓	—	114
	【ポート設定】	✓	—	116
【パスワード変更】	【Administrator】のユーザー名	✓	—	116
	【User】のユーザー名	✓	—	117
	【Administrator】のパスワード	✓	—	116
	【User】のパスワード	✓	✓	117
【Crestron Connected(TM)]	操作ページ	✓	—	118
	【Tools】	✓	—	118
	【Info】	✓	—	119
	【Help】	✓	—	119
【ダウンロード】	Presenter Light のダウンロード	✓	✓	104

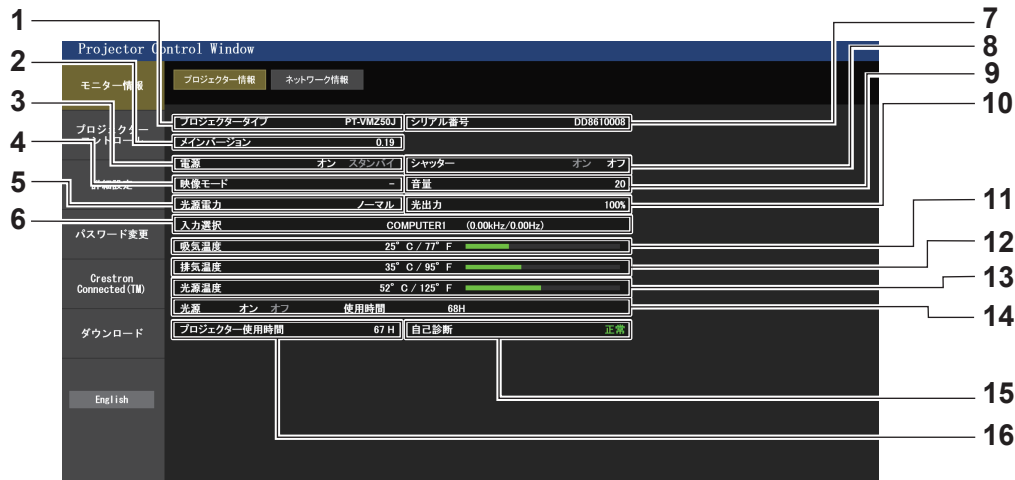
各項目の説明



- ページ切り換えタブ**
クリックすると、ページが切り換わります。
- 【モニター情報】**
この項目をクリックすると、プロジェクターの状態が表示されます。
- 【プロジェクターコントロール】**
この項目をクリックすると、【プロジェクターコントロール】ページが表示されます。
- 【詳細設定】**
この項目をクリックすると、【詳細設定】ページが表示されます。
- 【パスワード変更】**
この項目をクリックすると、【パスワード変更】ページが表示されます。
- 【Crestron Connected(TM)]**
この項目をクリックすると、Crestron Connected の操作ページが表示されます。
- 【ダウンロード】**
この項目をクリックすると、Presenter Light ソフトウェアのダウンロードページが表示されます。(104 ページ)

【プロジェクター情報】 ページ

[モニター情報] → [プロジェクター情報] をクリックします。
 以下の項目における本機の状態を表示します。

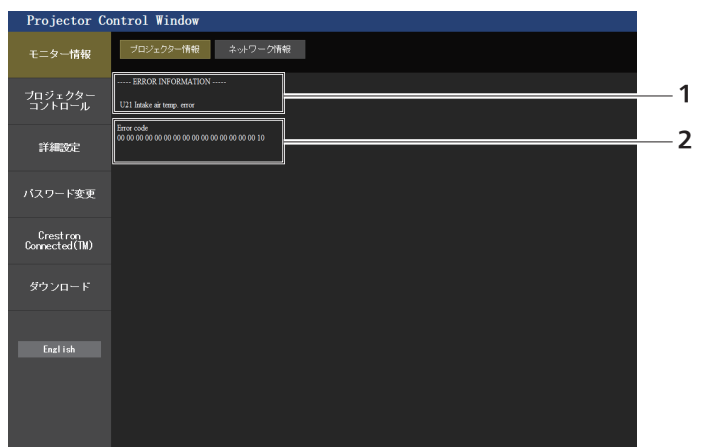
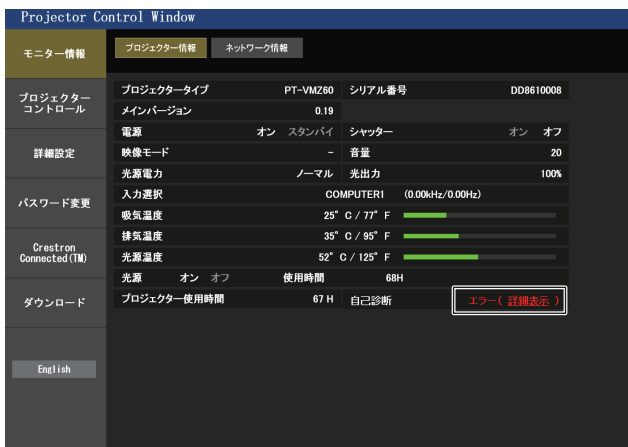


- | | |
|--|---|
| <p>1 【プロジェクタータイプ】
本機の種類を表示します。</p> <p>2 【メインバージョン】
本機のファームウェアバージョンを表示します。</p> <p>3 【電源】
電源の状態を表示します。</p> <p>4 【映像モード】
[映像モード] の設定状態を表示します。</p> <p>5 【光源電力】
[光源電力] の設定状態を表示します。</p> <p>6 【入力選択】
選択している入力の状態を表示します。</p> <p>7 【シリアル番号】
本機のシリアル番号を表示します。</p> <p>8 【シャッター】
シャッター機能の状態（[オン]:有効（閉）、[オフ]:無効（開））を表示します。</p> | <p>9 【音量】
音量の状態を表示します。</p> <p>10 【光出力】
[光出力] の設定状態を表示します。</p> <p>11 【吸気温度】
本機の吸気温度状態を表示します。</p> <p>12 【排気温度】
本機の排気温度状態を表示します。</p> <p>13 【光源温度】
光源の温度状態を表示します。</p> <p>14 【光源】
光源の点灯状態、使用時間を表示します。</p> <p>15 【自己診断】
自己診断情報を表示します。</p> <p>16 【プロジェクター使用時間】
プロジェクターの稼働時間を表示します。</p> |
|--|---|

エラー情報ページ

[プロジェクター情報] 画面の [自己診断] 情報表示欄に [エラー（詳細表示）] または [警告（詳細表示）] が表示されたとき、その部分をクリックするとエラー / 警告内容が表示されます。

- エラーの内容によっては、プロジェクター保護のためスタンバイ状態になります。



- | | |
|--|-----------------|
| <p>1 エラー情報の表示
発生しているエラー / 警告の記号と、その内容が表示されます。
表示内容の詳細については、「[自己診断] の表示について」（P.128 ページ）をご覧ください。</p> | <p>2 エラーコード</p> |
|--|-----------------|

【ネットワーク情報】 ページ

〔モニター情報〕 → 〔ネットワーク情報〕 をクリックします。
現在のネットワークの設定情報が表示されます。



1 【無線 LAN】

別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付けている場合は、無線 LAN の設定内容を表示します。

2 【有線 LAN】

有線 LAN の設定内容を表示します。

【基本制御】 ページ

〔プロジェクターコントロール〕 → 〔基本制御〕 をクリックします。



1 【入力切換】

投写する映像の入力を切り換えます。

2 【音量】

音量を調整します。

3 【映像モード】

映像モードを切り換えます。

4 【シャッター】

シャッター機能を使用するかどうか（有効（シャッター：閉）／無効（シャッター：開））を切り換えます。

5 【電源】

電源の切／入を行います。

6 【クローズドキャプション】

クローズドキャプションのモードを切り換えます。

【詳細制御】 ページ

【プロジェクターコントロール】 → 【詳細制御】 をクリックします。



1 【画角調整】

画角に関する項目を操作します。

2 【画質調整】

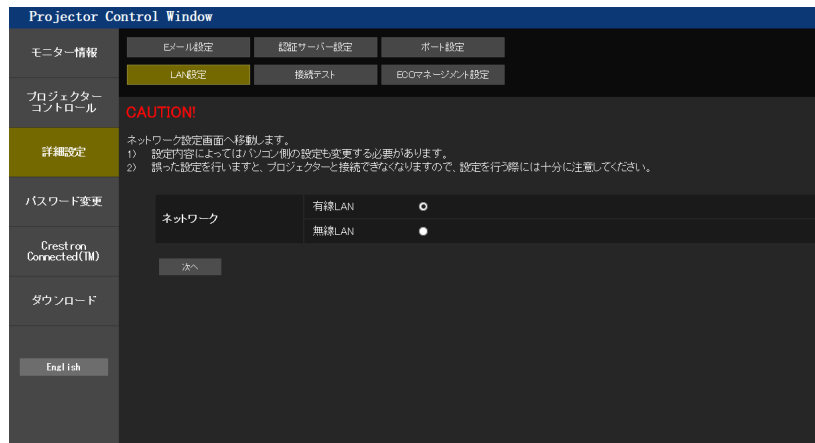
画質に関する項目を操作します。

【LAN 設定】 ページ

【詳細設定】 → 【LAN 設定】 をクリックします。

1) 【LAN 設定】 をクリックする

- 【LAN 設定】 をクリックすると、【CAUTION!】 画面が表示されます。



2) 設定を変更したい項目にチェックを入れる

- 【無線 LAN】 の設定は、別売品のワイヤレスモジュール (品番: AJ-WM50GT) を取り付けられている場合のみ、選択できます。

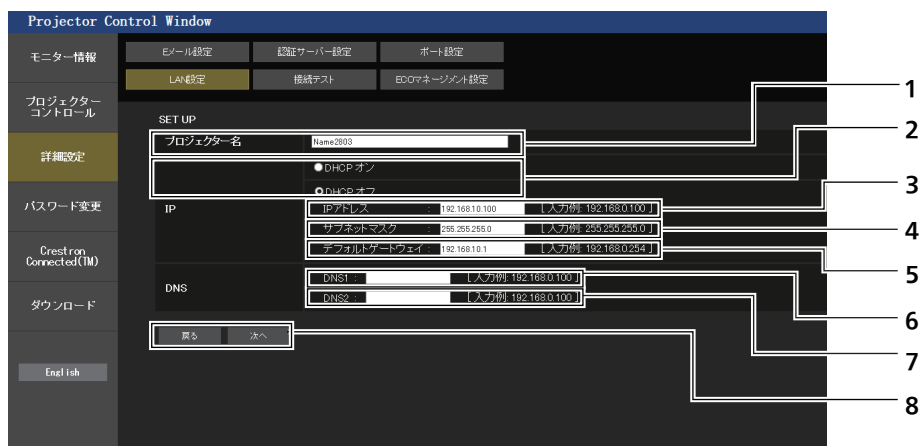
3) 【次へ】 ボタンをクリックする

- 現在の設定内容が表示されます。

4) 【変更】 ボタンをクリックする

- 設定変更画面が表示されます。

有線 LAN 接続の場合



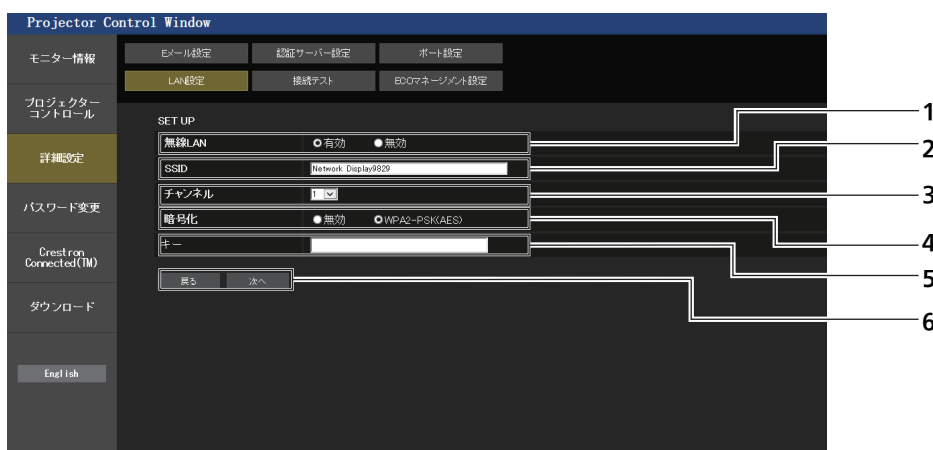
- 1 **【プロジェクター名】**
プロジェクターの名前を入力します。DHCP サーバーを利用する場合などにホスト名が必要であれば入力してください。
- 2 **【DHCP オン】 / 【DHCP オフ】**
DHCP クライアント機能を有効にする場合は [DHCP オン] にします。
- 3 **【IP アドレス】**
DHCP サーバーを利用しない場合は IP アドレスを入力します。
- 4 **【サブネットマスク】**
DHCP サーバーを利用しない場合はサブネットマスクを入力します。
- 5 **【デフォルトゲートウェイ】**
DHCP サーバーを利用しない場合はデフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
- 6 **【DNS1】**
DHCP サーバーを利用しない場合は優先 DNS サーバーアドレスを入力します。
入力使用可能文字：数字 (0 ～ 9)、ピリオド (.)
(例：192.168.0.253)
- 7 **【DNS2】**
DHCP サーバーを利用しない場合は代替 DNS サーバーアドレスを入力します。
入力使用可能文字：数字 (0 ～ 9)、ピリオド (.)
(例：192.168.0.254)
- 8 **【戻る】 / 【次へ】**
[戻る] ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。[次へ] ボタンをクリックすると、設定内容を確認する画面が表示されます。[送信] ボタンをクリックして設定を更新します。

お知らせ

- ブラウザーの「戻る」または「進む」機能を使用した場合、「ページの有効期限切れ」という警告画面が表示されることがあります。その場合、以降の動作は保証されませんので、再度 [LAN 設定] をクリックしてください。
- LAN で接続中に LAN 設定を変更すると、接続が途切れる場合があります。

無線 LAN 接続の場合

(本機にワイヤレスモジュールを取り付けている場合のみ)



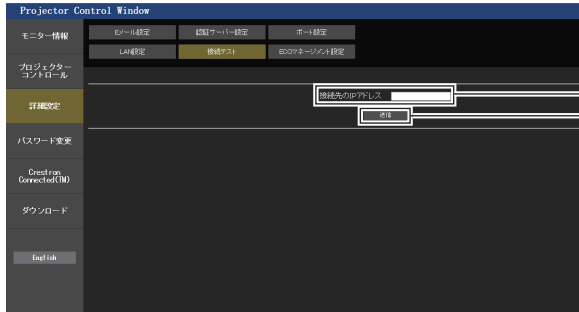
- 1 **【無線 LAN】**
無線 LAN 機能を使用する場合は [有効] を選択してください。
- 2 **【SSID】**
使用する SSID を設定します。
- 3 **【チャンネル】**
使用するチャンネルを設定します。
- 4 **【暗号化】**
通信の暗号化を行う場合は [WPA2-PSK(AES)] を選択してください。
- 5 **【キー】**
暗号化した通信を行う場合に使用するキーを設定します。
8 ～ 15 文字の英数字で入力します。
- 6 **【戻る】 / 【変更】**
[戻る] ボタンをクリックすると、元の画面に戻ります。[変更] ボタンをクリックすると、設定内容を確認する画面が表示されます。[送信] ボタンをクリックして設定を更新します。

お知らせ

- LAN で接続中に LAN 設定を変更すると、接続が途切れる場合があります。
- [LAN 設定] ページは、[ネットワーク] メニュー → [初期化] (🔍 95 ページ) を実行すると、工場出荷時の設定に戻ります。

[接続テスト] ページ

メールサーバー、POP サーバー、DNS サーバーなどとネットワークが接続しているかを確認できます。
[詳細設定] → [接続テスト] をクリックします。



```
PING 127.28.120.1 (127.28.120.1): 56 data bytes
64 bytes from 127.28.120.1: seq=0 ttl=64 time=0.970 ms
64 bytes from 127.28.120.1: seq=1 ttl=64 time=1.276 ms
64 bytes from 127.28.120.1: seq=2 ttl=64 time=0.724 ms
64 bytes from 127.28.120.1: seq=3 ttl=64 time=0.733 ms

--- 127.28.120.1 ping statistics ---
4 packets transmitted, 4 packets received, 0% packet loss
round-trip min/avg/max = 0.724/0.925/1.276 ms
```

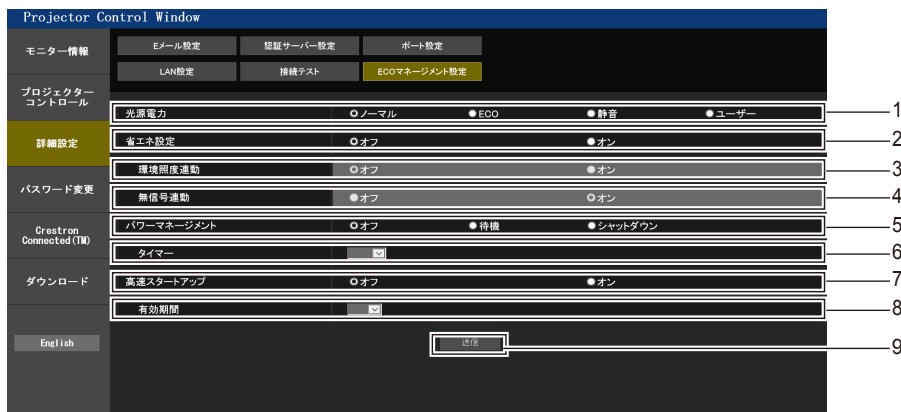
```
PING 128.28.121.1 (128.28.121.1): 56 data bytes

--- 128.28.121.1 ping statistics ---
4 packets transmitted, 0 packets received, 100% packet loss
```

- [接続先の IP アドレス]**
テストするサーバーの IP アドレスを入力します。
- [送信]**
接続テストを実行します。
- 接続できた場合の表示例**
- 接続できなかった場合の表示例**

[ECO マネージメント設定] ページ

プロジェクターの ECO マネージメント機能に関する設定を行うことができます。
[詳細設定] → [ECO マネージメント設定] をクリックします。



- [光源電力]**
[光源電力] の設定を選択します。
- [省エネ設定]**
[環境照度連動]、[無信号連動] の設定を行う場合は [オン] にします。
- [環境照度連動]**
環境照度連動機能の有効 ([オン]) / 無効 ([オフ]) を選択します。
- [無信号連動]**
無信号連動機能の有効 ([オン]) / 無効 ([オフ]) を選択します。
- [パワーマネージメント]**
[パワーマネージメント] の設定を選択します。
- [タイマー]**
パワーマネージメント機能を使用する場合、ランプを消すまでの時間を選択します。
- [高速スタートアップ]**
[高速スタートアップ] の設定を選択します。
- [有効期間]**
スタンバイ状態になってから、[高速スタートアップ] の機能が無効になるまでの有効期間を選択します。
- [送信]**
設定を更新します。

お知らせ

- [ECO マネージメント設定] ページの各種設定など詳細については、[プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] (🔍 79 ページ) をご覧ください。

[E メール設定] ページ

異常時や光源の使用時間が設定値になったとき、あらかじめ設定しておいた E メールアドレス（最大2か所）にメールを送信できます。

[詳細設定] → [E メール設定] をクリックします。

- 1 **【許可】**
E メール機能を使用する場合は「有効」を選択してください。
- 2 **【SMTP サーバー名】**
E メールサーバー（SMTP）の IP アドレスかサーバー名を入力してください。サーバー名を入力する場合は、DNS サーバーの設定が必要です。
- 3 **【送信者メールアドレス】**
プロジェクターの E メールアドレスを入力してください。（半角で 63 文字まで）
- 4 **【メモ】**
E メールの発信元がわかりやすいように、プロジェクターの設置場所などを入力できます。（半角で 63 文字まで）
- 5 **【最短送信間隔】**
温度警告メールの最短時間間隔を変更できます。初期値は 60 分です。この場合、温度警告メールを送信後 60 分間は、再び警告温度になってもメールを送信できません。
- 6 **【吸気温度】**
温度警告メール用の設定温度を変更できます。この値を超えた場合、温度警告メールを送信します。

- 7 **【E メールアドレス 1】、【E メールアドレス 2】**
送信する宛先の E メールアドレスを入力してください。2つの E メールアドレスを使わない場合は、「E メールアドレス 2」を未記入にします。
- 8 **E メールを送信する条件の設定**
E メールを送信する条件を選択します。
【メール内容】：
[通常] か [簡易] を選択します。
【エラー発生時】：
自己診断でエラーが発生した場合に送信します。
【吸気温度】：
吸気温度が上欄に設定された値になった場合に送信します。
- 9 **【送信】**
設定を更新します。

【認証サーバー設定】 ページ

メール送信に POP 認証または SMTP 認証が必要な場合は認証項目を設定します。
 [詳細設定] → [認証サーバー設定] をクリックします。

- 1 **【認証】**
インターネットプロバイダー側が指示する認証方式を選択します。
- 2 **【SMTP 認証】**
SMTP 認証を選択した場合に設定します。
- 3 **【POP サーバー名】**
POP サーバー名を入力します。
使用可能文字：
英数字（A ～ Z、a ～ z、0 ～ 9）
マイナス記号（-）ピリオド（.）
- 4 **【ユーザー名】**
POP サーバーまたは SMTP サーバーのユーザー名を入力します。
- 5 **【パスワード】**
POP サーバーまたは SMTP サーバーのパスワードを入力します。
- 6 **【SMTP サーバー ポート番号】**
SMTP サーバーのポート番号を入力します。
（通常は 25 番です）
- 7 **【POP サーバー ポート番号】**
POP サーバーのポート番号を入力します。
（通常は 110 番です）
- 8 **【送信】**
設定を更新します。

送信するメール内容

E メール設定時のメール送信例

E メール設定を行ったときはこのようなメールを発信します。

```

=== Panasonic projector report(CONFIGURE) ===
Projector Type       : PT-VMZ50J
Serial No           : 000000000

----- E-mail setup data -----
TEMPERATURE WARNING SETUP
MINIMUM TIME         at [ 30] minutes interval
INTAKE AIR TEMPERATURE Over [ 32 degC / 89 degF ]

ERROR                [ OFF ]
INTAKE AIR TEMPERATURE [ OFF ]

----- Error information -----

Error Code
 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00

Intake air temperature : 27 degC / 80 degF
Exhaust air temperature : 30 degC / 86 degF
Light temperature      : 64 degC / 147 degF
PROJECTOR RUNTIME      21 H
LIGHT RUNTIME          21 H

----- Current status -----
MAIN VERSION          0.25
SUB VERSION           0.90
LIGHT STATUS          LIGHT=ON
INPUT                 NETWORK

----- Wired Network configuration -----
DHCP Client   ON
IP address    192.168.0.105
MAC address   00:38:37:80:33:44

----- Memo -----

```

エラー時のメール送信例

エラーになったときはこのようなメールを発信します。

```

=== Panasonic projector report(ERROR) ===
Projector Type       : PT-VMZ50J
Serial No           : 000000000

----- Error information -----
FE6 Power fan error

Error Code
 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 80 00 00 00 00 00

Intake air temperature : 27 degC / 80 degF
Exhaust air temperature : 30 degC / 86 degF
Light temperature      : 64 degC / 147 degF
PROJECTOR RUNTIME      21 H
LIGHT RUNTIME          21 H

----- Current status -----
MAIN VERSION          0.25
SUB VERSION           0.90
LIGHT STATUS          LIGHT=ON
INPUT                 NETWORK

----- Wired Network configuration -----
DHCP Client   ON
IP address    192.168.0.105
MAC address   00:38:37:80:33:44

----- Memo -----

```

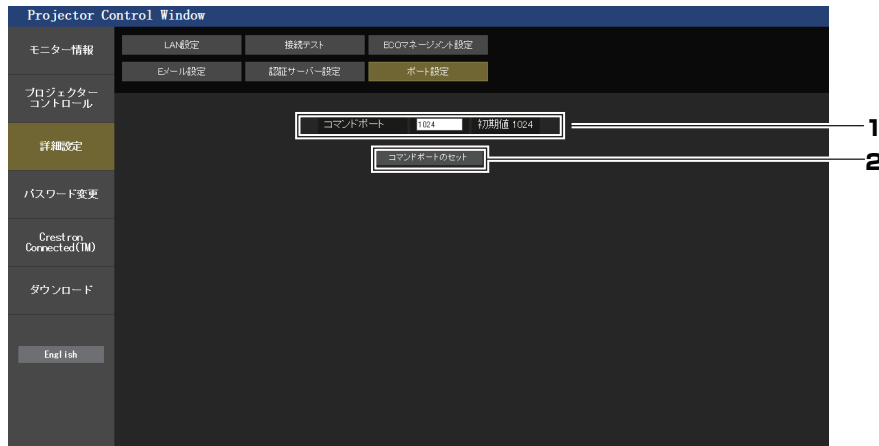
お知らせ

- 無線 LAN の情報は、別売品のワイヤレスモジュール（品番：AJ-WM50GT）を取り付けている場合にのみ表示されます。

【ポート設定】 ページ

コマンドコントロールで使用するポート番号を設定してください。

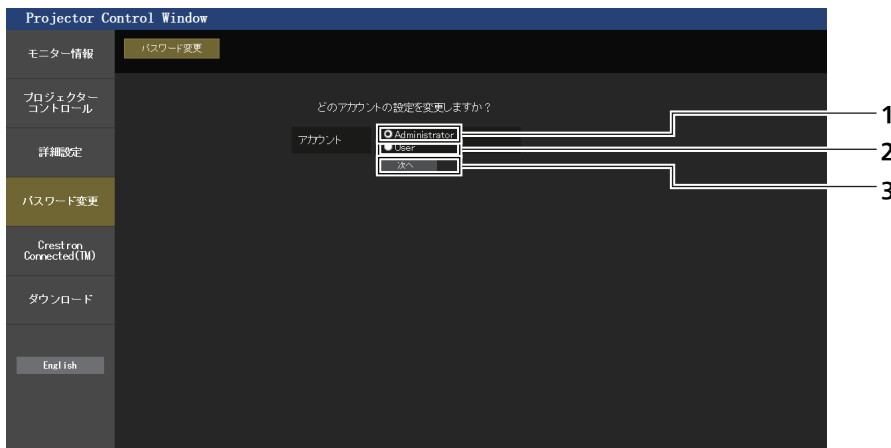
【詳細設定】 → 【コマンドポート設定】 をクリックします。



- 1 【コマンドポート】
コマンド制御で使用するポート番号を入力します。
- 2 【送信】
設定を更新します。

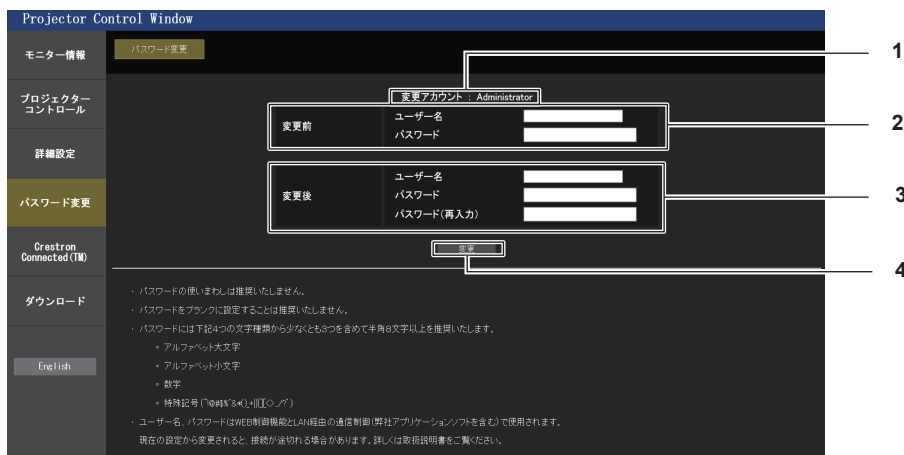
【パスワード変更】 ページ

【パスワード変更】 をクリックします。



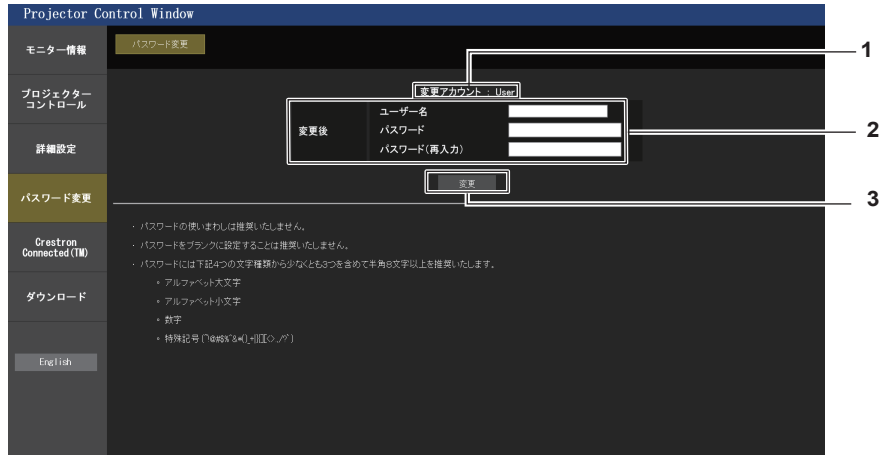
- 1 【Administrator】
【Administrator】（管理者）の設定を変更する場合に選択します。
- 2 【User】
【User】（ユーザー）の設定を変更する場合に選択します。
- 3 【次へ】
パスワードの設定を変更する画面を表示します。

【Administrator】（管理者）について



- 1 **【変更アカウント】**
変更するアカウントが表示されます。
- 2 **【変更前】**
【ユーザー名】
変更前のユーザー名を入力します。
【パスワード】
変更前のパスワードを入力します。
- 3 **【変更後】**
【ユーザー名】：
変更後のユーザー名を入力します。（半角で 16 文字まで）
【パスワード】：
変更後のパスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）
【パスワード（再入力）】：
変更後のパスワードを再度入力します。
- 4 **【変更】**
パスワードの変更を確認します。

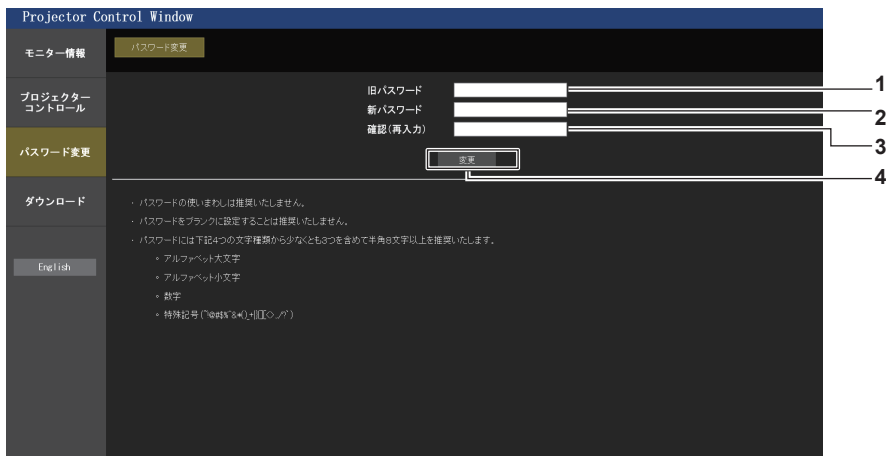
【User】（ユーザー）について



- 1 **【変更アカウント】**
変更するアカウントが表示されます。
- 2 **【変更後】**
【ユーザー名】：
変更後のユーザー名を入力します。（半角で 16 文字まで）
【パスワード】：
変更後のパスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）
【パスワード（再入力）】：
変更後のパスワードを再度入力します。
- 3 **【変更】**
パスワードの変更を確認します。

【パスワード変更】（ユーザー権限でアクセスした場合）

ユーザー権限時はパスワードの変更のみ有効です。



- 1 **【旧パスワード】**
変更前のパスワードを入力します。
- 2 **【新パスワード】**
変更後のパスワードを入力します。（半角で 16 文字まで）
- 3 **【確認（再入力）】**
変更後のパスワードを再度入力します。
- 4 **【変更】**
パスワードの変更を確認します。

お知らせ

- 管理者のアカウントを変更する場合は、【変更前】の【ユーザー名】と【パスワード】の入力が必要です。

【Crestron Connected(TM)】 ページ

Crestron Connected でプロジェクターの監視 / 制御を行うことができます。

WEB 制御画面から Crestron Connected の操作ページを起動するには、管理者権限でアクセスする必要があります。（ユーザー権限では、WEB 制御画面に【Crestron Connected(TM)】 ボタンが表示されません。）

【Crestron Connected(TM)】 をクリックすると、Crestron Connected の操作ページが表示されます。ご使用のコンピューターに Adobe® Flash® Player がインストールされていない場合、もしくは Flash に対応していないブラウザでは表示されません。その場合、操作ページの【Back】をクリックして前のページに戻ってください。

お知らせ

- WEB ブラウザーに Microsoft Edge を使用する場合、そのバージョンによっては【Crestron Connected (TM)】 ページの操作ができないことがあります。【Crestron Connected (TM)】 ボタンをクリックしたときに WEB ブラウザーがフリーズした場合は、Windows Update を使用して更新プログラムをインストールしてください。

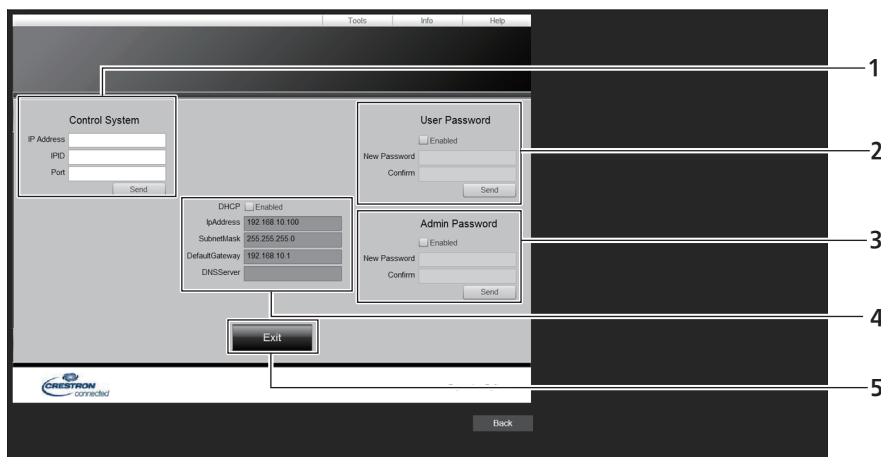
操作ページ



- | | |
|--|---|
| <p>1 【Tools】 【Info】 【Help】
プロジェクターの設定 / 情報 / ヘルプページに切り換えるタブです。</p> <p>2 【POWER】
電源の切 / 入を行います。</p> <p>3 【VOL DOWN】 【VOL UP】
音量を調整します。
【AV MUTE】
シャッター機能を使用するかどうか（有効（シャッター：閉） / 無効（シャッター：開）を切り換えます。</p> | <p>4 【Input Select】
入力切り換えの操作をします。
プロジェクターの電源が切れている場合、操作はできません。</p> <p>5 メニュー画面の操作ボタン
メニュー画面の操作をします。</p> <p>6 フリーズ / 画質調整 / デジタルズーム
フリーズ / 画質 / デジタルズームに関する項目の操作をします。</p> <p>7 【Back】
前のページへ戻る操作をします。</p> |
|--|---|

【Tools】 ページ

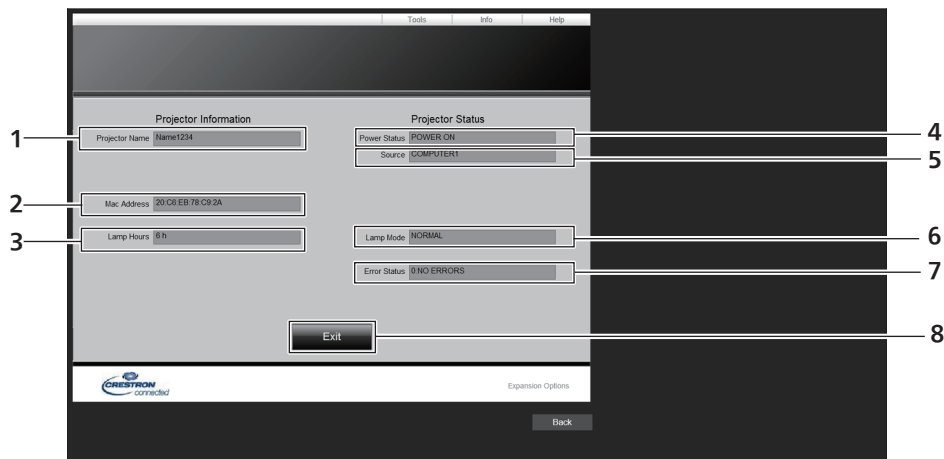
操作ページで【Tools】 をクリックします。



- 1 **[Control System]**
プロジェクターに接続するコントローラーとの通信に必要な情報を設定します。
- 2 **[User Password]**
Crestron Connected の操作ページ内でのユーザー権限パスワードを設定します。
- 3 **[Admin Password]**
Crestron Connected の操作ページ内での管理者権限パスワードを設定します。
- 4 **ネットワークステータス**
有線 LAN の設定内容を表示します。
[DHCP]
現在設定している値を表示します。
[Ip Address]
現在設定している値を表示します。
[Subnet Mask]
現在設定している値を表示します。
[Default Gateway]
現在設定している値を表示します。
[DNS Server]
現在設定している値を表示します。
- 5 **[Exit]**
操作ページに戻ります。

[Info] ページ

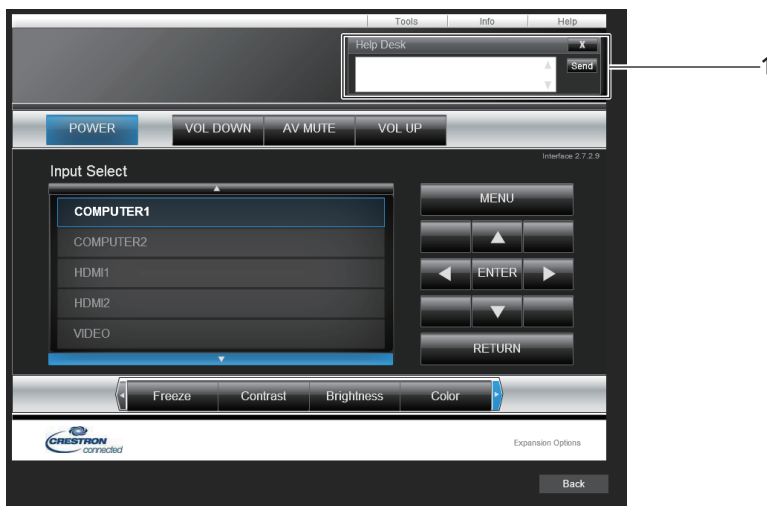
操作ページで [Info] をクリックします。



- 1 **[Projector Name]**
プロジェクター名を表示します。
- 2 **[Mac Address]**
MAC アドレスを表示します。
- 3 **[Lamp Hours]**
光源の使用時間を表示します。
- 4 **[Power Status]**
電源の状態を表示します。
- 5 **[Source]**
選択している入力を表示します。
- 6 **[Lamp Mode]**
[光源電力] の設定状態を表示します。
- 7 **[Error Status]**
エラーの状態を表示します。
- 8 **[Exit]**
操作ページに戻ります。

[Help] ページ

操作ページで [Help] をクリックします。
[Help Desk] ウィンドウが表示されます。



- 1 **[Help Desk]**
Crestron Connecte を利用する管理者とのメッセージの送受信ができます。

第 6 章 点検とお手入れ

異常時の点検方法とお手入れ / 部品交換の方法について説明しています。

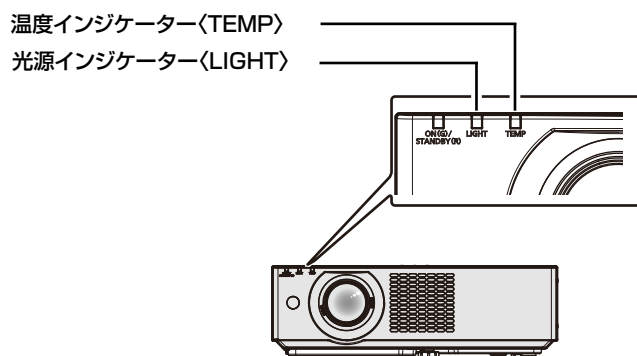
光源 / 温度インジケーター

インジケーターが点灯したら

本機内部に異常が発生すると、光源インジケーター〈LIGHT〉・温度インジケーター〈TEMP〉が点灯や点滅でお知らせします。インジケーターの状態を調べて、次の処置を行ってください。

お願い

- 処置を行う際に電源を切るときは、“電源を切る”（☞ 42 ページ）の手順を必ずお守りください。



光源インジケーター〈LIGHT〉

点灯状況	赤色点灯	赤色点滅 (2 回)	赤色点滅 (3 回)
状態	光源の一部の素子が故障して、光出力が低下している		
処置方法	光源が点灯しない、または使用している途中で光源が消灯した		
	電源プラグをコンセントから抜いて、もう一度電源を入れてください。光源インジケータ ー〈LIGHT〉が点灯や点滅をしなくなる可能性があります。		

お知らせ

- 処置をしても光源インジケーター〈LIGHT〉が点灯や点滅する場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご相談ください。

温度インジケーター〈TEMP〉

点灯状況	赤色点灯	赤色点滅	赤色点滅（ゆっくり）
状態	フィルターが目づまりしている あるいは、内部が高温になっている（警告）	フィルターが目づまりしている あるいは、内部が高温になっている（スタンバイ状態）	本機が異常を検出し、電源を入れることができません。
お調べください	- 吸気口 / 排気口がふさがれていませんか。 - 気温の高い所で使用していませんか。 - エアフィルターユニット、または吸気口が汚れていませんか。		—
処置方法	- 吸気口 / 排気口をふさいでいるものを取り除いてください。 - 適切な使用環境温度下^{*1}でご使用ください。 - 海拔 2 700 m 以上の場所では使用しないでください。 - エアフィルターユニットのお手入れ、または交換をしてください。（☞ 125 ページ） - 吸気口のお手入れをしてください。（☞ 122 ページ）		電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご相談ください。

*1 本機の使用環境温度について、詳しくは“使用環境温度”（☞ 141 ページ）をご覧ください。

お知らせ

- 処置をしても温度インジケーター〈TEMP〉が点灯や点滅する場合は、販売店に修理をご依頼ください。

お手入れ / 部品交換

お手入れ / 部品交換の前に

- お手入れや部品交換を行うときは、必ず電源を切ってください。
- 電源を切るときは、“電源を切る” (☞ 42 ページ) の手順を必ずお守りください。

お手入れ

外装ケース

汚れやほこりはやわらかい乾いた布でふき取ってください。

- 汚れがひどいときは水にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- お手入れの際は、ベンジン、シンナー、アルコールなどの溶剤、または台所用洗剤を使用しないでください。使用すると外装ケースが変質するおそれがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

レンズの前面

レンズの前面に付着したごみやほこりは、清潔なやわらかい乾いた布でふき取ってください。

- 毛羽立った布、油分・水分を含んだ布、ほこりの付いた布でふかないでください。
- レンズは傷つきやすいため、強くこすらないでください。

お願い

- レンズに堅いものを当てたり、レンズの前面を強くふいたりすると傷つくおそれがあります。取り扱いにはご注意ください。

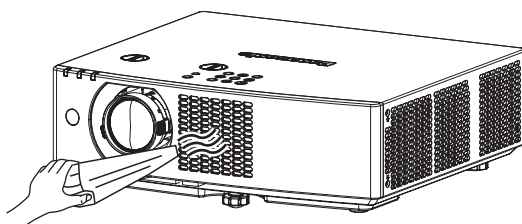


投写中にレンズをふかない

投写中にレンズの前面をふくと、レンズに異物が固着したり、レンズの表面を傷つけたりすることがあります。

吸気口

吸気口に付着した埃をハケ、またはハンディクリーナーで取り除いてください。



エアフィルターユニット

本機に標準で取り付けられているエアフィルターユニットのお手入れのしかたです。

このエアフィルターユニットは、別売品の交換用フィルターユニット（品番：ET-RFV500）と同じものです。次の場合は、エアフィルターユニットを取り外して、エアフィルターの目づまり状態を確認してください。エアフィルターが目づまりしている場合は、エアフィルターユニットのお手入れを行ってください。

- 投写画面上に「エアフィルター クリーニング」というメッセージが表示された場合
- 投写状態で温度インジケーター〈TEMP〉が赤色点灯している場合
- スタンバイ状態で温度インジケーター〈TEMP〉が赤色点滅している場合
- 投写画面上にフィルターのお手入れを促すメッセージ［フィルターカウンターが設定時間に到達しました］が表示された場合

お願い

- フィルターのお手入れを行う前に、必ず電源を切ってください。(☞ 37、42 ページ)
- プロジェクター本体の安定を確保して、エアフィルターユニットなどが落下しても安全な場所で実施してください。

- エアフィルターユニットの短辺側の端面にあるスポンジ (図 1) が外れないようにご注意ください。

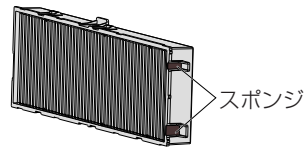


図 1

お知らせ

- フィルターの使用時間は、[プロジェクター設定] メニュー → [フィルターカウンター] (☞ 86 ページ) で確認できます。
- 洗浄によるリサイクルは 2 回を目安に新品と交換することをお勧めします。
- 洗浄後のフィルターの性能は、初期に比べて低下することがあります。
- エアフィルターユニットが目づまりするまでの時間は、使用環境によって大きく異なります。

エアフィルターユニットを取り外す

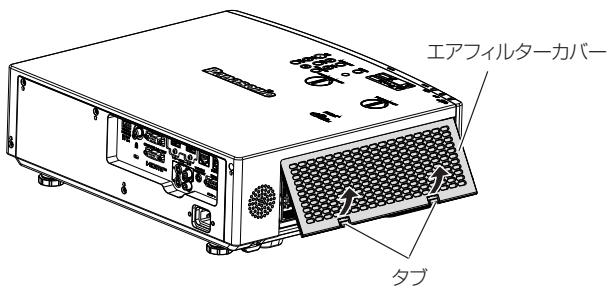


図 1

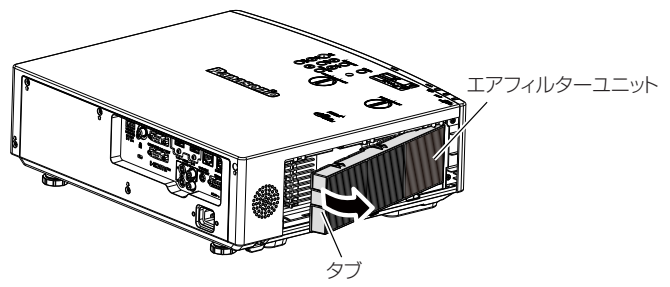


図 2

1) プロジェクターの電源を切る

- 電源を切るときは、“電源を切る” (☞ 42 ページ) の手順を必ずお守りください。

2) エアフィルターカバーを取り外す (図 1)

- エアフィルターカバーのタブを図の上方向に押しながら本体のフックから外し、図の矢印方向に開けます。

3) エアフィルターユニットを取り出す (図 2)

- エアフィルターユニットの左側のタブに指をかけて、図の矢印の方向に開け、取り出します。
- エアフィルターユニットを取り出したあと、本体側エアフィルターユニット収納部にゴミやほこりがある場合は取り除いてください。
- エアフィルターユニットを取り外したら、次の“エアフィルターユニットをお手入れする” (☞ 123 ページ) に進んでください。

お知らせ

- プロジェクターを使用するときは、必ずエアフィルターユニットを取り付けてください。取り付けずに使用すると、ゴミやほこりを吸い込み、故障の原因になります。

エアフィルターユニットをお手入れする

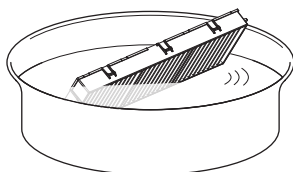


図 1

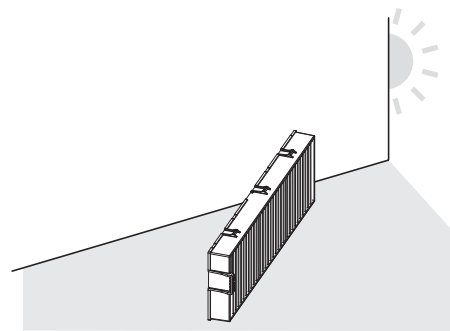


図 2

1) エアフィルターユニットを洗浄する (図 1)

- i) エアフィルターユニットを、水またはぬるま湯につけ、軽くゆすぎます。
 - ブラシなどの洗浄器具は使用しないでください。
 - ゆすぐ際は、エアフィルターユニットの枠を持ち、フィルター部に強い力をかけないようにしてください。
- ii) 2 ～ 3 回、新しい水ですすぎ洗いをします。
 - すすぎが不十分だとにおいの原因になります。

2) エアフィルターユニットを乾燥させる (図 2)

- ほこりが少なく、直射日光の当たらない風通しの良い所で自然乾燥させます。
- ドライヤーなどの乾燥器具を用いて乾燥させないでください。
- エアフィルターユニットが乾燥したら、次の“エアフィルターユニットを取り付ける” (124 ページ) に進んでください。

お願い

- エアフィルターユニットを洗浄した際は、十分に乾燥させてから本体に取り付けてください。ぬれたまま取り付けると、感電や故障の原因になります。
- エアフィルターユニットを分解しないでください。

お知らせ

- エアフィルターユニットが破損した場合や洗っても汚れが目立つ場合は、別売品の新しい交換用フィルターユニット (品番：ET-RFV500) に交換してください。

エアフィルターユニットを取り付ける

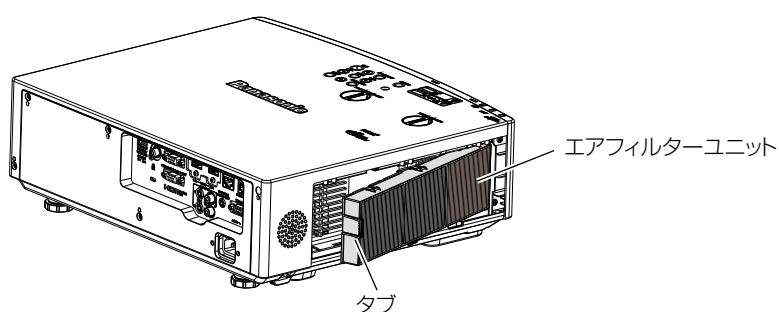


図 1

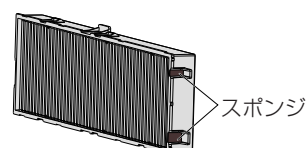


図 2

1) エアフィルターユニットをプロジェクター本体に取り付ける (図 1)

- エアフィルターユニットのタブを図の左側になるように持ち、図の右側から先に入れた後、タブをカチッと音がするまで押し込みます。
- プロジェクター本体への取り付けの際に、エアフィルターユニットの短辺側の端面にあるスポンジ (図 2) が外れないようにご注意ください。
- 押し込む際は、フィルターのプリーツ (ひだ) を押さないようご注意ください。

2) エアフィルターカバーを取り付ける

- “エアフィルターユニットを取り外す” (123 ページ) の手順 2) と逆の手順でエアフィルターカバーを閉じます。カチッと音がするまでしっかりと押し込んでください。
- エアフィルターユニットをプロジェクター本体に取り付けたら、次の“フィルターカウンターをリセットする” (124 ページ) に進んでください。

お知らせ

- プロジェクターを使用するときは、必ずエアフィルターユニットを取り付けてください。取り付けずに使用すると、ごみやほこりを吸い込み、故障の原因になります。

フィルターカウンターをリセットする

1) プロジェクターの電源を入れる

2) リモコンまたは本体操作部の〈MENU〉ボタンを押す

- メインメニュー画面が表示されます。

3) ▲▼ ボタンで【プロジェクター設定】を選択する

- 4) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [プロジェクター設定] 画面が表示されます。
- 5) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンター] を選択する
- 6) 〈ENTER〉ボタンを押す
 - [フィルターカウンター] 画面が表示されます。
- 7) ▲▼ ボタンで [フィルターカウンターリセット] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
- 8) 確認画面が表示されるので、◀▶ ボタンで [はい] を選択し、〈ENTER〉ボタンを押す
 - [プロジェクター設定] メニュー → [フィルターカウンター] → [フィルターカウンター] の表示が [0 時間] になります。

お知らせ

- フィルターカウンターをリセットせずに使用すると、実際のフィルター使用時間（カウンター数値）が確認できなくなります。

部品交換

エアフィルターユニット

エアフィルターユニットのお手入れをしても、汚れが目立つようになったら交換時期です。
交換用フィルターユニット（品番：ET-RFV500）は別売品です。ご購入の際は、販売店にご相談ください。

お願い

- フィルターの交換を行う前に、必ず電源を切ってください。（☞ 42 ページ）
- プロジェクター本体の安定を確保して、エアフィルターユニットなどが落下しても安全な場所で行ってください。

お知らせ

- エアフィルターユニットの交換サイクルは、使用環境によって大きく異なります。

エアフィルターユニットの交換手順

- 1) エアフィルターユニットを取り外す
 - “エアフィルターユニットを取り外す”（☞ 123 ページ）をご覧ください。
- 2) 別売品の交換用フィルターユニット（品番：ET-RFV500）をプロジェクター本体に取り付ける
 - “エアフィルターユニットを取り付ける”（☞ 124 ページ）をご覧ください。
- 3) フィルターカウンターをリセットする
 - “フィルターカウンターをリセットする”（☞ 124 ページ）をご覧ください。

お願い

- プロジェクターの電源を入れるときは、必ずエアフィルターユニットを取り付けて使用してください。取り付けずに使用すると、ごみやほこりを吸い込み、故障の原因になります。
- フィルターカウンターをリセットせずに使用すると、実際のフィルター使用時間（カウンター数値）が確認できなくなります。

故障かな！？

もう一度次の点をお調べください。詳しくは、対応するページをご覧ください。

症状	ここをお調べください	ページ
電源が入らない	● 電源プラグがコンセントにしっかり差し込まれていますか。	—
	● 電源プラグを差し込んでいるコンセントは通電していますか。	—
	● ブレーカーが落ちていませんか。	—
	● 光源インジケーター〈LIGHT〉、温度インジケーター〈TEMP〉が点灯または点滅していませんか。	121
映像がでない	● 外部機器との接続は正しく行われていますか。	31
	● 映像入力は正しく選択されていますか。	43
	● [明るさ] の調整が最小になっていませんか。	58
	● 本機に接続している外部機器は、正常に動作していますか。	—
	● シャッター機能を使用していませんか。	47、77
映像がボヤけている	● レンズキャップが取り付けられたままではありませんか。	19
	● レンズのフォーカスは合っていますか。	45
	● 投写距離は適切ですか。	28
	● レンズが汚れていませんか。	17
	● 本機がスクリーンに対して垂直に設置されていますか。	—
色が薄い / 色あいが悪い	● [色の濃さ] または [色あい] は正しく調整されていますか。	59
	● 本機に接続している外部機器は正しく調整されていますか。	—
	● コンピューターケーブルが切れていませんか。	—
音声ででない	● 音声入力端子に外部機器が正しく接続されていますか。	32、33
	● 音量が最小になっていませんか。	48、84
	● シャッター機能を使用していませんか。	47、77
	● 消音機能を使用していませんか。	47、84
	● [音声設定] の音声入力選択は正しく設定されていますか。	85
	● 〈VARIABLE AUDIO OUT〉端子にケーブルを接続していませんか。ケーブルを接続していると、内蔵スピーカーから音声はでません。	32、85
リモコンがはたらかない	● 乾電池が消耗していませんか。	—
	● 乾電池の極性は正しくセットされていますか。	24
	● リモコンと本体のリモコン受信部の間に障害物はありませんか。	21
	● リモコン操作有効範囲を超えた場所でリモコンを操作していませんか。	21
	● 蛍光灯などの影響を受けていませんか。	21
	● [操作設定] の [リモコン] の設定が [無効] になっていませんか。	90
	● ID ナンバーの設定の操作を間違えていませんか。	52
本体操作部のボタンがはたらかない	● [操作設定] の [本体操作部] の設定が [無効] になっていませんか。	90
正常な映像が映らない	● ビデオテープなど、映像を出力する外部機器側に異常はありませんか。	—
	● 本機が対応できない信号を入力していませんか。	32
コンピューターからの映像がでない	● ケーブルが長くありませんか。(D-Sub ケーブルの場合は 10 m 以下にしてください。)	—
	● ノート型コンピューターの外部映像出力が、正しく設定されていますか。(例: [Fn] + [F3] あるいは [Fn] + [F10] キーを同時に押すと、外部出力設定が切り換わることがあります。コンピューターのモデルによって異なりますので、コンピューター付属の説明書をご覧ください。)	43
HDMI 対応機器の映像がでない、乱れる	● HDMI ケーブルが確実に接続されていますか。	31
	● 本機の電源および外部機器の電源を切 / 入してください。	—
	● 本機が対応できない信号を入力していませんか。	138
HDMI 対応機器の音声ででない	● 接続機器の音声をリニア PCM に設定してください。	—

第 6 章 点検とお手入れ — 故障かな！？

症状	ここをお調べください	ページ
DIGITAL LINK 入力の映像 または音声がない	● 本機の条件に適合したケーブルを使用していますか。	34
	● ツイストペアケーブル伝送器と外部機器、ツイストペアケーブル伝送器とプロジェクターとの接続は正しく行われていますか。	—
	● [DIGITAL LINK モード] が [オート]、[DIGITAL LINK]、[ロングリーチ] になっていますか。[イーサネット] になっていませんか。	91
	● ツイストペアケーブル伝送器が対応していない信号を入力していませんか。	—
給電できない	● [ECO マネージメント] の [スタンバイモード] が [ECO] になっていませんか。	81
	● <USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)> 端子に定格 (DC5 V、最大 2 A) を超える外部機器を接続していませんか。	23

お願い

- 表の内容を確認後、正常に動作しない場合は販売店にご相談ください。

[自己診断] の表示について

[自己診断] は、WEB 制御機能の [モニター情報] → [プロジェクター情報] 画面で確認できます。エラーや警告が発生した場合に表示される記号とその内容は、次の表のとおりです。“対応番号”をご確認のうえ、“エラーや警告への対応” (128 ページ) の対応に従ってください。

エラー / 警告表示	内容	対応番号
U11	吸気温度警告	1
U13	排気温度警告	1
U21	吸気温度エラー	1
U23	排気温度エラー	1
FL5	光源バンク 1 警告	2
FL6	光源バンク 2 警告	2
FL7	光源バンク 3 警告	2
FL8	光源バンク 4 警告	2
FH0	PW ERROR (SUB)	2
H11	吸気温度センサーエラー	2
H13	排気温度センサーエラー	2
U04	フィルター目づまり警告	4
FL1	光源ユニットエラー	3
FE1	液晶パネル赤ファンエラー	2
FE2	液晶パネル緑ファンエラー	2
FE3	PBS ファンエラー	2
FE4	蛍光体ホイールファンエラー	2
FE5	光源ファンエラー	2
FE6	電源ファンエラー	2
FE7	モーターファンエラー	2
U25	光源温度 1 エラー	1
F16	角度センサーエラー	2
H14	光源温度センサー 1 エラー	2
U16	光源温度 1 警告	1
F18	気圧センサーエラー	2
F61	光源ドライバ通信エラー	2
FL1	光源ユニットエラー	3
U78	フィルター目づまりエラー	4

お知らせ

- 自己診断表示と故障の内容が異なることがあります。
- 表に記載されていないエラー / 警告が表示された場合は、販売店にご相談ください。

■ エラーや警告への対応

対応番号	対応
1	使用環境温度が高すぎます。適切な使用環境温度下 *1 でご使用ください。
2	電源プラグをコンセントから抜いてもう一度電源を入れても表示が消えない場合は、販売店にご相談ください。
3	光源点灯に失敗しています。再び電源を入れても点灯しない場合は、販売店にご相談ください。
4	フィルターのお手入れまたは交換をしてください。(122 ページ)

*1 本機の使用環境温度については、“使用環境温度” (141 ページ) をご覧ください。

第 7 章 その他

本機の仕様やアフターサービスについて説明しています。

付録

PJLink プロトコルを使用する

本機のネットワーク機能はPJLink クラス 1、クラス 2 に対応しており、PJLink プロトコルを使用してコンピューターからプロジェクターの設定や、プロジェクターの状態問い合わせの操作ができます。

対応コマンド

PJLink プロトコルで本機を制御する際のコマンドです。

- 表内の x は任意の文字です。

クラス	コマンド	制御内容	パラメーター / 応答文字列	備考			
1	POWR	電源制御	0 1	スタンバイ 電源入			
1	POWR?	電源状態問い合わせ	0 1 2	スタンバイ 電源入 電源を切る準備中			
1、2	INPT	入力切り換え	11 12 21	COMPUTER1 COMPUTER2 VIDEO			
	INPT?	入力切り換え問い合わせ	31 32 33 41 51	HDMI1 HDMI2 DIGITAL LINK MEMORY VIEWER NETWORK			
	1	AVMT	シャッター制御 / 音声出力制御	20 21 30 31	消音機能 無効 消音機能 有効（消音） シャッター機能 無効（シャッター：開）、消音機能 無効 シャッター機能 有効（シャッター：閉）、消音機能 有効（消音）		
AVMT?				シャッター状態 / 音声出力状態問い合わせ	21 30 31	シャッター機能 無効（シャッター：開）、消音機能 有効（消音） シャッター機能 無効（シャッター：開）、消音機能 無効 シャッター機能 有効（シャッター：閉）、消音機能 有効（消音）	
1	ERST?	エラー状態問い合わせ	xxxxxx	1 バイト目	ファンエラーを意味し、0 または 2 で応答します	● 0= エラーを検知していない ● 1= 警告 ● 2= エラー	
				2 バイト目	光源エラーを意味し、0 ～ 2 で応答します		
				3 バイト目	温度エラーを意味し、0 ～ 2 で応答します		
				4 バイト目	0 で応答します		
				5 バイト目	フィルターエラーを意味し、0 ～ 2 で応答します		
				6 バイト目	その他のエラーを意味し、0 ～ 2 で応答します		
1	LAMP?	光源状態問い合わせ	AAAAA X	AAAAA：光源使用時間 X：0= 光源消灯、1= 光源点灯			
1、2	INST?	入力切り換え一覧問い合わせ	11 12 21 31 32 33 41 51	—			
1	NAME?	プロジェクター名問い合わせ	xxxxx	[ネットワーク /USB] メニュー → [プロジェクター名] で設定した名称を応答します			
1	INF1?	メーカー名問い合わせ	Panasonic	メーカー名を応答します			
1	INF2?	機種名問い合わせ	PT-VMZ60J PT-VMZ50J PT-VMW50J	機種名を応答します			
1	INFO?	その他情報問い合わせ	xxxxx	バージョン番号などを応答します			
1	CLSS?	クラス情報問い合わせ	2	PJLink のクラスを応答します			

クラス	コマンド	制御内容	パラメーター / 応答文字列	備考
2	SNUM ?	シリアル番号問い合わせ	xxxxxxxxxx	シリアル番号を応答します
2	SVER ?	ソフトウェアバージョン問い合わせ	xxxxxxxxxx	バージョン番号を応答します
2	INNM ?	入力名称問い合わせ	COMPUTER1 COMPUTER2 VIDEO HDMI1 HDMI2 DIGITAL LINK MEMORY VIEWER NETWORK	入力名称を応答します
2	IRES ?	入力信号解像度問い合わせ	AAAAxBBBB	AAAA：水平解像度 BBBB：垂直解像度
2	RRES ?	推奨解像度問い合わせ	1920 x 1200	PT-VMZ60J PT-VMZ50J
			1280 x 800	PT-VMW50J
2	FILT ?	フィルター使用時間問合せ	xxxxx	フィルターの使用時間を応答します
2	RFIL ?	フィルター交換型番問合せ	ET-RFV500	交換用フィルターユニットの品番を応答します
2	SVOL	スピーカー音量	0 1	音を大きくします 音を小さくします
2	FREZ	フリーズ制御	0	静止機能無効
	FREZ ?	フリーズ状態問い合わせ	1	静止機能有効（静止）
2	LKUP	リンクアップ通知	xx:xx:xx:xx:xx:xx	PJLink の通信が可能になったときに、MAC アドレスを通知します
2	SRCH	プロジェクター検索	ACKN=xx:xx:xx:xx:xx:xx	同一ネットワーク内に接続されている、PJLink の通信が可能なプロジェクターが、その MAC アドレスを応答します

PJLink セキュリティ認証

PJLink で使用するパスワードは、WEB 制御で設定したパスワードと同じです。

認証なしで使用する場合は、WEB 制御のパスワードをなしに設定してください。

- PJLink に関する仕様については、(社) ビジネス機械・情報システム産業協会の WEB サイトをご覧ください。

URL <http://pjlink.jbmia.or.jp/>

LAN 経由の制御コマンドについて

〈SERIAL IN〉端子経由で制御するコマンド形式を用いて、〈DIGITAL LINK/LAN〉端子または〈LAN〉端子で制御することができます。

使用できるコマンド例については、“制御コマンド”（ 137 ページ）をご覧ください。

WEB 制御管理者権限パスワード設定時（プロテクトモード）

接続方法

- 1) プロジェクターの IP アドレスとポート番号（初期設定値 = 1024）を取得してプロジェクターへ接続を要求する

- IP アドレスはプロジェクター本体のメニュー画面から、ポート番号は WEB 制御の画面から取得できます。

IP アドレス	[ネットワーク] メニュー → [ネットワークステータス] から取得
ポート番号	WEB 制御の [詳細設定] → [ポート設定] から取得

- 2) プロジェクターからの応答を確認する

	データ部	空白	モード	空白	乱数部	終端記号
コマンド例	"NTCONTROL" (ASCII 文字列)	'' 0x20	'1' 0x31	'' 0x20	"zzzzzzzz" (ASCII コード 16 進数)	(CR) 0x0d
データ長	9 bytes	1 byte	1 byte	1 byte	8 bytes	1 byte

- モード：1 = プロテクトモード
- 例) プロテクトモード時の応答（乱数部は不定値）
"NTCONTROL 1 23181e1e" (CR)

- 3) MD5 アルゴリズムを用いて以下のデータから 32 バイトのハッシュ値を生成する

- "xxxxxx:yyyyy:zzzzzzzz"

xxxxxx	WEB 制御の管理者権限ユーザー名（デフォルトのユーザー名は "dispadmin"）
yyyyy	上記管理者権限ユーザーのパスワード（デフォルトのパスワードは "@Panasonic"）
zzzzzzzz	手順 2) で取得した 8 バイトの乱数

コマンドデータ形式

コマンドを送受信する際のデータ形式です。

■ 送信データ

	ヘッダー			データ部	終端記号
コマンド例	ハッシュ値 (上記 "接続方法" 参照)	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド (ASCII 文字列)	(CR) 0x0d
データ長	32 bytes	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例) 電源状態取得コマンドの送信（ハッシュ値はデフォルトのユーザー名、パスワードおよび取得した乱数より算出）
"dbdd2dabd3d4d68c5dd970ec0c29fa6400QPW" (CR)

■ 受信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド (ASCII 文字列)	(CR) 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例) プロジェクターの電源が入っている場合
"00001" (CR)

■ エラー応答

	文字列	内容	終端記号
メッセージ	"ERR1"	未定義の制御コマンド	(CR) 0x0d
	"ERR2"	パラメーター範囲外	
	"ERR3"	ビジー状態または受け付け不可期間	
	"ERR4"	タイムアウトまたは受け付け不可期間	
	"ERR5"	データ長不正	
	"ERRA"	パスワード不一致	
データ長	4 bytes	—	1 byte

WEB 制御管理者権限パスワード非設定時（非プロテクトモード）

接続方法

1) プロジェクターの IP アドレスとポート番号（初期設定値 = 1024）を取得してプロジェクターへ接続を要求する

- IP アドレスはプロジェクター本体のメニュー画面から、ポート番号は WEB 制御の画面から取得できます。

IP アドレス	[ネットワーク] メニュー → [ネットワークステータス] から取得
ポート番号	WEB 制御 → [詳細設定] → [ポート設定] から取得

2) プロジェクターからの応答を確認する

	データ部	空白	モード	終端記号
コマンド例	"NTCONTROL" (ASCII 文字列)	' ' 0x20	'0' 0x30	(CR) 0x0d
データ長	9 bytes	1 byte	1 byte	1 byte

- モード：0 = 非プロテクトモード
- 例) 非プロテクトモード時の応答
"NTCONTROL 0" (CR)

コマンドデータ形式

コマンドを送受信する際のデータ形式です。

■ 送信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド (ASCII 文字列)	(CR) 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例) 電源状態取得コマンドの送信
"00QPW" (CR)

■ 受信データ

	ヘッダー		データ部	終端記号
コマンド例	'0' 0x30	'0' 0x30	制御コマンド (ASCII 文字列)	(CR) 0x0d
データ長	1 byte	1 byte	不定長	1 byte

- 例) プロジェクターの電源がスタンバイ状態の場合
"00000" (CR)

■ エラー応答

	文字列	内容	終端記号
メッセージ	"ERR1"	未定義の制御コマンド	(CR) 0x0d
	"ERR2"	パラメーター範囲外	
	"ERR3"	ビジー状態または受け付け不可期間	
	"ERR4"	タイムアウトまたは受け付け不可期間	
	"ERR5"	データ長不正	
	"ERRA"	パスワード不一致	
データ長	4 bytes	—	1 byte

お知らせ

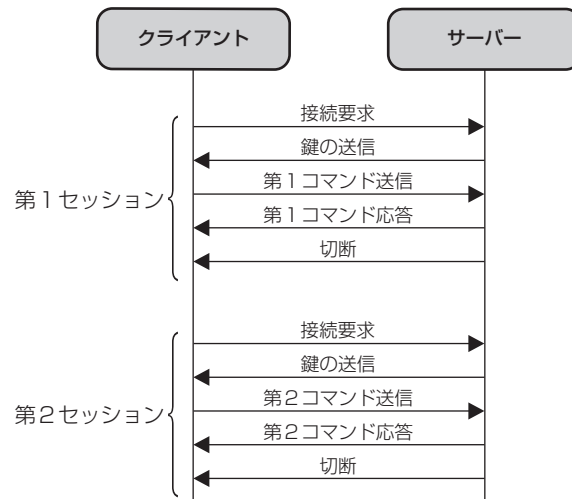
- 本機は、コマンドを送信した直後にネットワークとの接続を自動的に切断します。悪意の第三者による本製品の不正操作の防止など、セキュリティ上の観点からこのような仕様としています。連続してコマンドを送信する場合は、その都度ネットワーク接続の要求を行ったうえで送信してください。詳しくは、「サーバークライアント間の通信フロー」(134 ページ)をご覧ください。

サーバークライアント間の通信フロー

LAN 経由でコマンドを送受信する場合は、次に示す通信フローを参考にしてください。

サーバー：プロジェクター

クライアント：コンピューターなどの制御装置

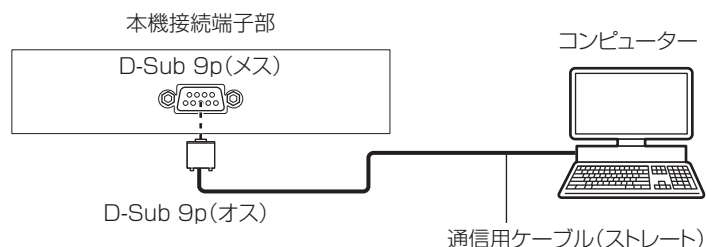


〈SERIAL IN〉端子について

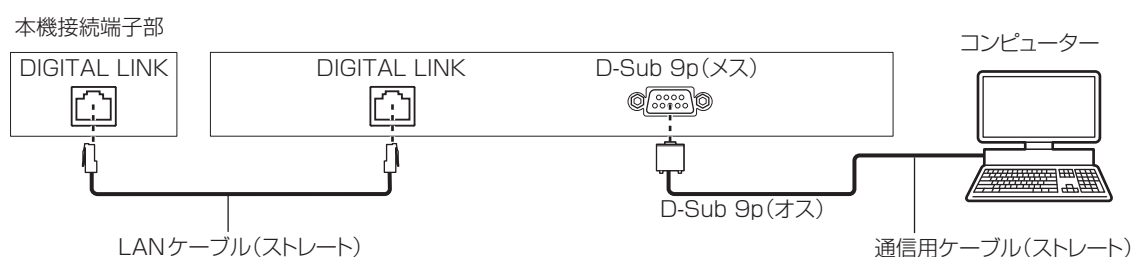
本機の接続端子部の〈SERIAL IN〉端子は RS-232C に準拠しており、コンピューターと接続して本機をコンピューターで制御できます。

接続

直接接続する場合



DIGITAL LINK を利用して接続する場合



お知らせ

- 接続方法に合わせて、[RS-232C] (82 ページ) の接続先を設定する必要があります。
- DIGITAL LINK 対応機器を利用して接続する場合、スタンバイ状態で本機を制御するには、[プロジェクター設定] メニュー → [ECO マネージメント] → [スタンバイモード] (81 ページ) を [ノーマル] に設定してください。
[スタンバイモード] を [ECO] に設定しているときは、スタンバイ状態での本機の制御はできません。

ピン配列と信号名

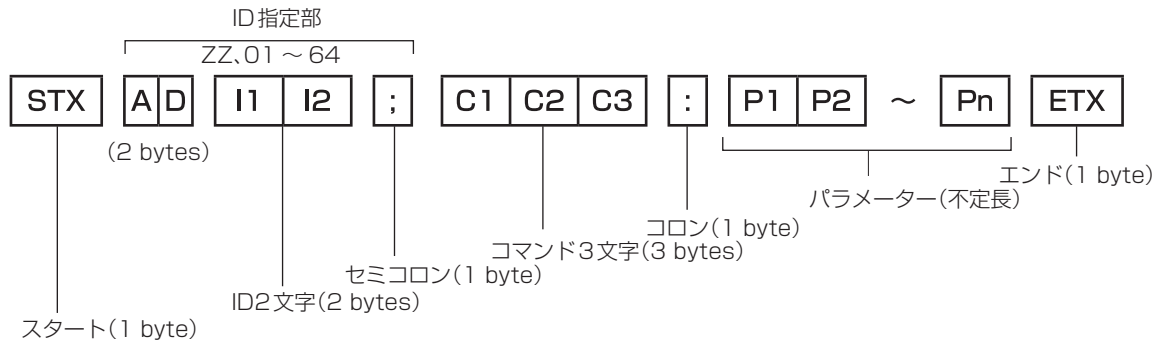
D-Sub 9 ピン (メス) 外側から見た図	ピン No.	信号名	内容
	(1)	—	NC
	(2)	TXD	送信データ
	(3)	RXD	受信データ
	(4)	—	NC
	(5)	GND	グラウンド
	(6)	—	NC
	(7)	CTS	内部で接続されています
	(8)	RTS	
	(9)	—	NC

通信条件 (工場出荷時の状態)

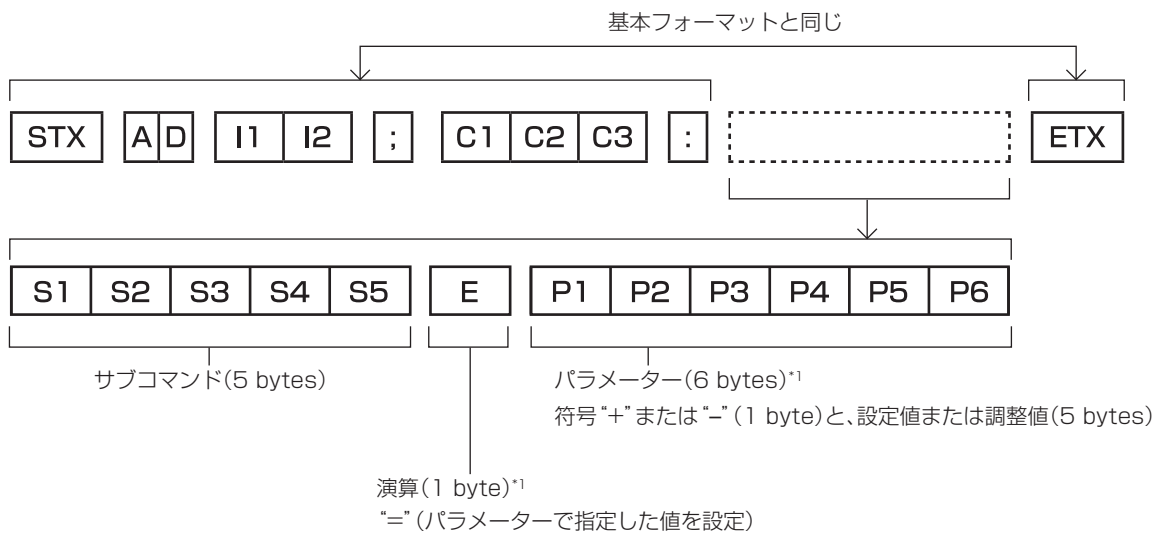
信号レベル	RS-232C 準拠
同期方式	調歩同期
ボーレート	9 600 bps
パリティ	なし
キャラクター長	8 ビット
ストップビット	1 ビット
X パラメーター	なし
S パラメーター	なし

基本フォーマット

コンピュータからの伝送は STX で開始され、続いて ID、コマンド、パラメーター、最後に ETX の順に送信します。パラメーターは制御内容の必要に応じて付加してください。



基本フォーマット (サブコマンドあり)



*1 パラメーターを必要としないコマンドを送信する場合は、演算 (E) とパラメーターは必要ありません。

お願い

- 光源の点灯開始直後にコマンドを送信すると、応答が遅く返ってきたり、コマンドが実行できなかったりすることがあります。60 秒経過後に送受信してください。
- 複数のコマンドを送信する場合は、必ず本機からの応答を受け取ってから 0.5 秒以上経過後に次のコマンドを送信してください。パラメーターを必要としないコマンドを送信する場合は、コロン (:) は必要ありません。

お知らせ

- コマンドが実行できない場合、本機から「ER401」という応答がコンピュータ側に送信されます。
- 無効なパラメーターを送信すると、本機から「ER402」という応答がコンピュータ側に送信されます。
- RS-232C での ID 送信は、ZZ (オール) と 01 ~ 64 の対応になっています。
- ID 指定でコマンドを送信した場合、以下のときのみコンピュータへの応答を返します。
 - 本機 ID と一致した場合
 - 本機の [プロジェクター ID] (78 ページ) が [オール] の場合
- STX と ETX はキャラクターコードです。STX は 16 進数で表すと 02、ETX は 16 進数で表すと 03 となります。

ケーブル仕様

コンピューターと接続する場合

本機側 (〈SERIAL IN〉端子)	1	NC	NC	1	コンピューター側 (DTE 仕様)
	2			2	
	3			3	
	4	NC	NC	4	
	5			5	
	6	NC	NC	6	
	7			7	
	8			8	
	9	NC	NC	9	

制御コマンド

コンピューターで本機を制御する際のコマンドです。

■ 操作コマンド

コマンド	内容	パラメーター / 応答文字列	備考 (パラメーター)
PON	電源入	—	電源が入っているかを確認する場合は、“電源問い合わせ” コマンドを使用してください。
POF	電源スタンバイ		
QPW	電源状態問い合わせ	000 001	スタンバイ 電源入
IIS	入力信号切り換え	VID RG1 RG2 HD1 HD2 DL1 MV1 NWP	VIDEO COMPUTER1 COMPUTER2 HDMI1 HDMI2 DIGITAL LINK MEMORY VIEWER NETWORK
OSH	シャッター制御	0	シャッター機能 オフ (シャッター開)
QSH	シャッター状態問い合わせ	1	シャッター機能 オン (シャッター閉)
Q\$ L	光源使用時間問い合わせ	—	応答は 0 ~ 99999
Q\$ S	光源点灯状態問い合わせ	0 1 2 3	スタンバイ 光源点灯制御中 光源点灯 光源消灯制御中
VSE	アスペクト切り換え	0 1 2 5 6	オート ノーマル ワイド リアル フル
QS1	アスペクト設定問い合わせ	9 10	H フィット V フィット

対応信号リスト

本機が投写できる映像信号です。

- フォーマットを表す記号は次のとおりです。
 - V : VIDEO
 - R : RGB
 - Y : YC_BC_R/YP_BP_R
 - H : HDMI、DIGITAL LINK
- プラグアンドプレイ対応欄の各項目に対応する入力は次のとおりです。
 - COMPUTER : COMPUTER1/COMPUTER2 入力
 - HDMI : HDMI1/HDMI2 入力
 - DIGITAL LINK : DIGITAL LINK 入力

信号名	解像度 (ドット)	走査周波数		ドットクロック 周波数 (MHz)	フォー マット	プラグアンドプレイ対応 ^{*1}	
		水平 (kHz)	垂直 (Hz)			COMPUTER	HDMI/ DIGITAL LINK
NTSC/NTSC4.43/ PAL-M/PAL60	720 x 480i	15.7	59.9	—	V	—	—
PAL/PAL-N/SECAM	720 x 576i	15.6	50.0	—	V	—	—
480 /60i	720 x 480i	15.7	59.9	13.5	R/Y	—	—
576 /50i	720 x 576i	15.6	50.0	13.5	R/Y	—	—
480 /60i	720 (1 440) x 480i ^{*2}	15.7	59.9	27.0	H	—	—
576 /50i	720 (1 440) x 576i ^{*2}	15.6	50.0	27.0	H	—	—
480 /60p	720 x 480	31.5	59.9	27.0	R/Y/H	—	✓
576 /50p	720 x 576	31.3	50.0	27.0	R/Y/H	—	✓
720 /60p	1 280 x 720	45.0	60.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H	—	✓
720 /50p	1 280 x 720	37.5	50.0	74.3	R/Y/H	—	✓
1080 /60i	1 920 x 1 080i	33.8	60.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H	—	✓
1080 /50i	1 920 x 1 080i	28.1	50.0	74.3	R/Y/H	—	✓
1080 /24p	1 920 x 1 080	27.0	24.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H	—	✓
1080 /24sF	1 920 x 1 080i	27.0	48.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H	—	—
1080 /25p	1 920 x 1 080	28.1	25.0	74.3	R/Y/H	—	—
1080 /30p	1 920 x 1 080	33.8	30.0 ^{*7}	74.3	R/Y/H	—	—
1080 /60p	1 920 x 1 080	67.5	60.0 ^{*7}	148.5	R/Y/H	—	✓
1080 /50p	1 920 x 1 080	56.3	50.0	148.5	R/Y/H	—	✓
3840 x 2160/24p	3 840 x 2 160	54.0	24.0 ^{*7}	297.0	H	—	✓
3840 x 2160/25p	3 840 x 2 160	56.3	25.0	297.0	H	—	✓
3840 x 2160/30p	3 840 x 2 160	67.5	30.0 ^{*7}	297.0	H	—	✓
4096 x 2160/24p	4 096 x 2 160	54.0	24.0 ^{*7}	297.0	H	—	✓
4096 x 2160/25p	4 096 x 2 160	56.3	25.0	297.0	H	—	✓
4096 x 2160/30p	4 096 x 2 160	67.5	30.0 ^{*7}	297.0	H	—	✓
640 x 400/70	640 x 400	31.5	70.1	25.2	R/H	—	—
640 x 400/85	640 x 400	37.9	85.1	31.5	R/H	—	—
640 x 480/60	640 x 480	31.5	59.9	25.2	R/H	✓	✓
640 x 480/67	640 x 480	35.0	66.7	30.2	R/H	—	—
640 x 480/73	640 x 480	37.9	72.8	31.5	R/H	✓	✓
640 x 480/75	640 x 480	37.5	75.0	31.5	R/H	✓	✓
640 x 480/85	640 x 480	43.3	85.0	36.0	R/H	—	—
800 x 600/56	800 x 600	35.2	56.3	36.0	R/H	✓	✓
800 x 600/60	800 x 600	37.9	60.3	40.0	R/H	✓	✓
800 x 600/72	800 x 600	48.1	72.2	50.0	R/H	✓	✓
800 x 600/75	800 x 600	46.9	75.0	49.5	R/H	✓	✓
800 x 600/85	800 x 600	53.7	85.1	56.3	R/H	—	—
832 x 624/75	832 x 624	49.7	74.6	57.3	R/H	✓	✓

第 7 章 その他 — 付録

信号名	解像度 (ドット)	走査周波数		ドットクロック 周波数 (MHz)	フォー マット	プラグアンドプレイ対応 ^{*1}	
		水平 (kHz)	垂直 (Hz)			COMPUTER	HDMI/ DIGITAL LINK
1024 x 768/50 ^{*6}	1 024 x 768	39.6	50.0	51.9	R/H	—	—
1024 x 768/60	1 024 x 768	48.4	60.0	65.0	R/H	✓	✓
1024 x 768/70	1 024 x 768	56.5	70.1	75.0	R/H	✓	✓
1024 x 768/75	1 024 x 768	60.0	75.0	78.8	R/H	✓	✓
1024 x 768/82	1 024 x 768	65.5	81.6	86.0	R/H	—	—
1024 x 768/85	1 024 x 768	68.7	85.0	94.5	R/H	—	—
1024 x 768/100	1 024 x 768	81.4	100.0	113.3	R/H	—	—
1152 x 864/60	1 152 x 864	53.7	60.0	81.6	R/H	—	—
1152 x 864/75	1 152 x 864	67.5	75.0	108.0	R/H	—	—
1152 x 864/85	1 152 x 864	77.1	85.0	119.7	R/H	—	—
1152 x 870/75	1 152 x 870	68.7	75.1	100.0	R/H	✓	✓
1280 x 720/50	1 280 x 720	37.1	49.8	60.5	R/H	—	—
1280 x 720/60	1 280 x 720	44.8	59.9	74.5	R/H	—	—
1280 x 768/60 ^{*6}	1 280 x 768	47.7	60.0	80.1	R/H	—	—
1280 x 768/60	1 280 x 768	47.8	59.9	79.5	R/H	—	—
1280 x 768/75	1 280 x 768	60.3	74.9	102.3	R/H	—	—
1280 x 768/85	1 280 x 768	68.6	84.8	117.5	R/H	—	—
1280 x 800/50	1 280 x 800	41.3	50.0	68.0	R/H	—	—
1280 x 800/60	1 280 x 800	49.7	59.8	83.5	R/H	✓ ^{*4}	✓ ^{*4}
1280 x 800/75	1 280 x 800	62.8	74.9	106.5	R/H	—	—
1280 x 800/85	1 280 x 800	71.6	84.9	122.5	R/H	—	—
1280 x 960/60	1 280 x 960	60.0	60.0	108.0	R/H	—	—
1280 x 1024/60 ^{*6}	1 280 x 1 024	64.0	60.0	108.0	R/H	—	—
1280 x 1024/75	1 280 x 1 024	80.0	75.0	135.0	R/H	✓	✓
1280 x 1024/85	1 280 x 1 024	91.1	85.0	157.5	R/H	—	—
1366 x 768/50	1 366 x 768	39.6	49.9	69.0	R/H	—	—
1366 x 768/60	1 366 x 768	47.7	59.8	85.5	R/H	—	—
1366 x 768/60 ^{*6}	1 366 x 768	47.7	60.0	84.7	R/H	—	—
1400 x 1050/60	1 400 x 1 050	65.3	60.0	121.8	R/H	—	—
1400 x 1050/60 ^{*6}	1 400 x 1 050	65.2	60.0	122.6	R/H	—	—
1400 x 1050/75	1 400 x 1 050	82.2	75.0	155.9	R/H	—	—
1440 x 900/50 ^{*6}	1 440 x 900	46.3	50.0	87.4	R/H	—	—
1440 x 900/60 ^{*6}	1 440 x 900	55.9	60.0	106.5	R/H	—	—
1440 x 900/60	1 440 x 900	55.9	59.9	106.5	R/H	—	—
1600 x 900/50 ^{*6}	1 600 x 900	46.3	50.0	97.0	R/H	—	—
1600 x 900/60 ^{*6}	1 600 x 900	55.9	60.0	119.0	R/H	—	—
1600 x 1200/60	1 600 x 1 200	75.0	60.0	162.0	R/H	✓	✓
1680 x 1050/50	1 680 x 1 050	54.1	50.0	119.5	R/H	—	—
1680 x 1050/60	1 680 x 1 050	65.3	60.0	146.3	R/H	—	—
1680 x 1050/60 ^{*6}	1 680 x 1 050	65.2	60.0	147.1	R/H	—	—
1920 x 1080/50	1 920 x 1 080	55.6	49.9	141.5	R/H	—	—
1920 x 1080/60 ^{*3}	1 920 x 1 080	66.6	59.9	138.5	R/H	—	—
1920 x 1200/50	1 920 x 1 200	61.8	49.9	158.3	R/H	—	—
1920 x 1200/60 ^{*3}	1 920 x 1 200	74.0	60.0	154.0	R/H	✓ ^{*5}	✓ ^{*5}

*1 プラグアンドプレイ対応欄に✓がある信号は、プロジェクターのEDID（拡張ディスプレイ識別データ）に記述している信号です。プラグアンドプレイ対応欄に✓がない信号でもフォーマット欄に記載があれば入力可能です。プラグアンドプレイ対応欄に✓がない信号は、プロジェクターが対応していてもコンピューター側で解像度の選択ができない場合があります。

*2 Pixel-Repetition 信号（ドットクロック周波数 27.0 MHz）のみ

*3 VESA CVT-RB（Reduced Blanking）準拠

*4 PT-VMW50J のみです。

*5 PT-VMZ60J および PT-VMZ50J のみです。

*6 該当のアナログ信号を入力している場合、[映像調整] メニュー→ [RGB-SYSTEM] でその信号に合った設定にしたときに表示できます。デジタル信号の場合は、[RGB-SYSTEM] の設定は不要です。

*7 1/1.001 倍の垂直走査周波数の信号にも対応しています。

お知らせ

- PT-VMZ60J および PT-VMZ50J の表示ドット数は 1 920 x 1 200、PT-VMW50J の表示ドット数は 1 280 x 800 です。解像度が異なる信号は表示ドット数に変換されて表示されます。
- 解像度のドット数の後ろにある「i」はインターレース信号を意味します。
- インターレース信号接続時は映像にちらつきが発生することがあります。
- ロングリーチの通信方式で DIGITAL LINK の接続をしている場合、本機が受像できる信号は 1080/60p (1 920 x 1 080 ドット、ドットクロック周波数 148.5 MHz) までになります。
- 対応信号リストに掲載されている信号であっても、特殊な方式で映像信号が記録されている場合は、本機で表示できないことがあります。

仕様

本機の仕様は次のとおりです。

使用電源		AC100 V 50 Hz/60 Hz	
消費電力		PT-VMZ60J	420 W (4.3 A)
		PT-VMZ50J	370 W (3.9 A)
		PT-VMW50J	360 W (3.8 A)
消費電力（スタンバイ時）		[スタンバイモード] を [ECO] に設定時：0.4 W	
		[スタンバイモード] を [ノーマル]、[音声設定] の [スタンバイ時動作] を [オフ]、[ECO マネージメント] の [高速スタートアップ] を [オフ] に設定、〈DIGITAL LINK/LAN〉 端子接続なし、〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉 端子接続なし時：18 W	
		[スタンバイモード] を [ノーマル]、[音声設定] の [スタンバイ時動作] を [オン]、[ECO マネージメント] の [高速スタートアップ] を [オフ] に設定、〈DIGITAL LINK/LAN〉 端子接続、〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉 端子給電（2 A）時：45 W	
		[スタンバイモード] を [ノーマル]、[音声設定] の [スタンバイ時動作] を [オン]、[ECO マネージメント] の [高速スタートアップ] を [オン] に設定、〈DIGITAL LINK/LAN〉 端子接続、〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉 端子給電（2 A）時： PT-VMZ60J / PT-VMZ50J：71 W PT-VMW50J：63 W	
液晶パネル	サイズ	0.64 型（アスペクト比 16：10）	
	表示方式	透過型液晶パネル 3 枚 3 原色方式	
	駆動方式	アクティブマトリクス方式	
	画素数	PT-VMZ60J PT-VMZ50J	2 304 000 画素（1 920 x 1 200 ドット）x 3 枚
PT-VMW50J		1 024 000 画素（1 280 x 800 ドット）x 3 枚	
投写レンズ		マニュアルズーム	1.6 倍
		マニュアル フォーカス	F=1.6 ～ 2.12、f=15.30 mm ～ 24.64 mm
光源		レーザーダイオード	
光出力 *1		PT-VMZ60J	6 000 lm
		PT-VMZ50J PT-VMW50J	5 000 lm
		〔映像モード〕を [ダイナミック]、[光源電力] を [ノーマル]、[デイライトビュー] を [オフ]、[省エネ設定] を [オフ] に設定時）	
周辺照度比 *1		85 %	
コントラスト比 *1		3 000 000：1 （〔映像モード〕を [ダイナミック]、[ダイナミックコントラスト] を [1] に設定時）	
カラー方式		7 方式（NTSC/NTSC4.43/PAL/PAL-N/PAL-M/SECAM/PAL60）	
投写画面サイズ		30 ～ 300 型	
画面アスペクト比		16：10	
投写方式		[フロント/天つり]、[フロント/床置き]、[リア/天つり]、[リア/床置き]	
スピーカー		4.0 cm 円型 1 個	
音声実用最大出力		10 W（モノラル）	
電源コードの長さ		2.0 m	
外装ケース		樹脂成型品	
外装色		白	
外形寸法	横幅	399 mm	
	高さ	133 mm（脚最小時）	
	奥行	348 mm	
質量		約 7.2 kg*2	
騒音値 *1		[ECO マネージメント] の [光源電力] を [ノーマル] に設定時：37 dB	
		[ECO マネージメント] の [光源電力] を [静音] に設定時：27 dB	
レーザー規格分類	レーザークラス	クラス 1（IEC 60825-1:2014）	
	リスクグループ	リスクグループ 2（IEC 62471-5:2015）	
使用環境条件	使用環境温度	0℃～45℃ *3*4	
	使用環境湿度	20 % ～ 80 %（結露のないこと）	

リモコン	使用電源	DC 3 V (単 4 形マンガンまたはアルカリ乾電池 2 本)
	操作距離	約 30 m 以内 (受信部正面)
	質量	102 g (乾電池含む)
	外形寸法	横幅 : 48 mm 高さ : 145 mm 奥行 : 27 mm

*1 工場出荷時における本製品全体の平均的な値を示しており、JIS X 6911:2015 データプロジェクタの仕様書様式に則って記載しています。測定方法、測定条件については附属書 B に基づいています。

*2 平均値。各製品で質量が異なる場合があります。

*3 海拔 2 700 m 以上の場所ではご使用いただけません。

次の使用環境では、プロジェクターを保護するために、光出力が低下することがあります。

- 海拔 700 m 未満、かつ使用環境温度が 36 °C 以上の場合
- 海拔 700 m 以上 ~ 1 400 m 未満、かつ使用環境温度が 34 °C 以上の場合
- 海拔 1 400 m 以上 ~ 2 100 m 未満、かつ使用環境温度が 32 °C 以上の場合
- 海拔 2 100 m 以上 ~ 2 700 m 未満、かつ使用環境温度が 30 °C 以上の場合

*4 別売品のワイヤレスモジュール (品番 : AJ-WM50GT) を取り付けられている場合の使用環境温度は、0 °C ~ 40 °C になります。

お知らせ

- 付属品や別売品などの品番は、予告なく変更する可能性があります。
- 本機を使用できるのは日本国内のみです。海外では使用しないでください。
(This projector is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.)

■ 接続端子

〈COMPUTER 1 IN〉端子	1 系統 高密度 D-Sub 15 p (メス)
	RGB 信号 0.7 V [p-p] 75 Ω (SYNC ON GREEN 時 1.0 V [p-p] 75 Ω)
	HD/SYNC TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性自動対応
	VD TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性自動対応
	YPbPr 信号 Y : 1.0 V [p-p] 同期信号を含む、PbPr : 0.7 V [p-p] 75 Ω
〈COMPUTER 2 IN/1 OUT〉端子	1 系統 高密度 D-Sub 15 p (メス)、モニター出力兼用
	RGB 信号 0.7 V [p-p] 75 Ω (SYNC ON GREEN 時 1.0 V [p-p] 75 Ω)
	HD/SYNC TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性自動対応
	VD TTL ハイインピーダンス 正 / 負極性自動対応
	YPbPr 信号 Y : 1.0 V [p-p] 同期信号を含む、PbPr : 0.7 V [p-p] 75 Ω
〈VIDEO IN〉端子	1 系統 ビンジャック 1.0 V [p-p] 75 Ω
〈HDMI 1 IN〉端子 〈HDMI 2 IN〉端子	計 2 系統 HDMI 19 p HDCP 対応、Deep Color 対応
	音声信号 リニア PCM (サンプリング周波数 : 48 kHz/44.1 kHz/32 kHz)
〈AUDIO IN 1〉端子 〈AUDIO IN 2〉端子	計 2 系統 M3 ステレオミニジャック 0.5 V [rms]、入力インピーダンス 22 k Ω 以上
〈AUDIO IN 3〉端子	1 系統 ビンジャック × 2 (L-R) 0.5 V [rms]、入力インピーダンス 22 k Ω 以上
〈VARIABLE AUDIO OUT〉端子	1 系統 M3 ステレオミニジャック (モニター出力、ステレオ対応可) 0 V [rms] ~ 2.0 V [rms] (可変)、出力インピーダンス 2.2 k Ω 以下
〈USB (VIEWER/WIRELESS/DC OUT)〉端子	1 系統 USB コネクタ (タイプ A)、メモリービューワー機能 / ワイヤレスモジュール (別売品 : AJ-WM50GT) 接続用、給電用 (DC5 V、最大 2 A)
〈SERIAL IN〉端子	1 系統 D-Sub 9 p (メス) RS-232C 準拠 コンピューター制御用
〈DIGITAL LINK/LAN〉端子	1 系統 RJ-45 ネットワーク、DIGITAL LINK 接続用 (HDBaseT™ 準拠) PJLink (クラス 2) 対応 100Base-TX HDCP 対応 Deep Color 対応
〈LAN〉端子	1 系統 RJ-45 ネットワーク接続用 PJLink (クラス 2) 対応 10Base-T/100Base-TX

■ 無線 LAN

本機で無線 LAN 機能を使用するためには、別売品のワイヤレスモジュール (品番 : AJ-WM50GT) を取り付ける必要があります。

準拠規格	IEEE802.11b/g/n
伝送方式	DSSS、OFDM
周波数範囲 (チャンネル)	2 412 MHz ~ 2 462 MHz (1 ~ 11 ch)
データ転送速度 (規格値)	IEEE802.11n 最大 144 Mbps IEEE802.11g 最大 54 Mbps IEEE802.11b 最大 11 Mbps
暗号化方式	WPA2-PSK(AES)

■ 対応信号

本機が投写できる映像信号について、詳しくは“対応信号リスト” (🔍 138 ページ) をご覧ください。

ビデオ信号入力
水平 15.73 kHz 垂直 59.94 Hz、水平 15.63 kHz 垂直 50 Hz
RGB 信号入力
- 解像度：640 x 400 ~ 1 920 x 1 200 - ドットクロック周波数：162 MHz 以下 - PIAS (Panasonic Intelligent Auto Scanning) 方式
YC _B C _R /YP _B P _R 信号入力
- 解像度：480i/576i ~ 1 920 x 1 080 - ドットクロック周波数：148.5 MHz 以下 - HD/SYNC、VD 端子は、3 値 SYNC には対応していません。
HDMI 信号入力
- 動画系信号解像度：480i^{*1}/576i^{*1} ~ 4 096 x 2 160 - 静止画系信号解像度：640 x 400 ~ 1 920 x 1 200 (ノンインターレース) - ドットクロック周波数：25 MHz ~ 297 MHz

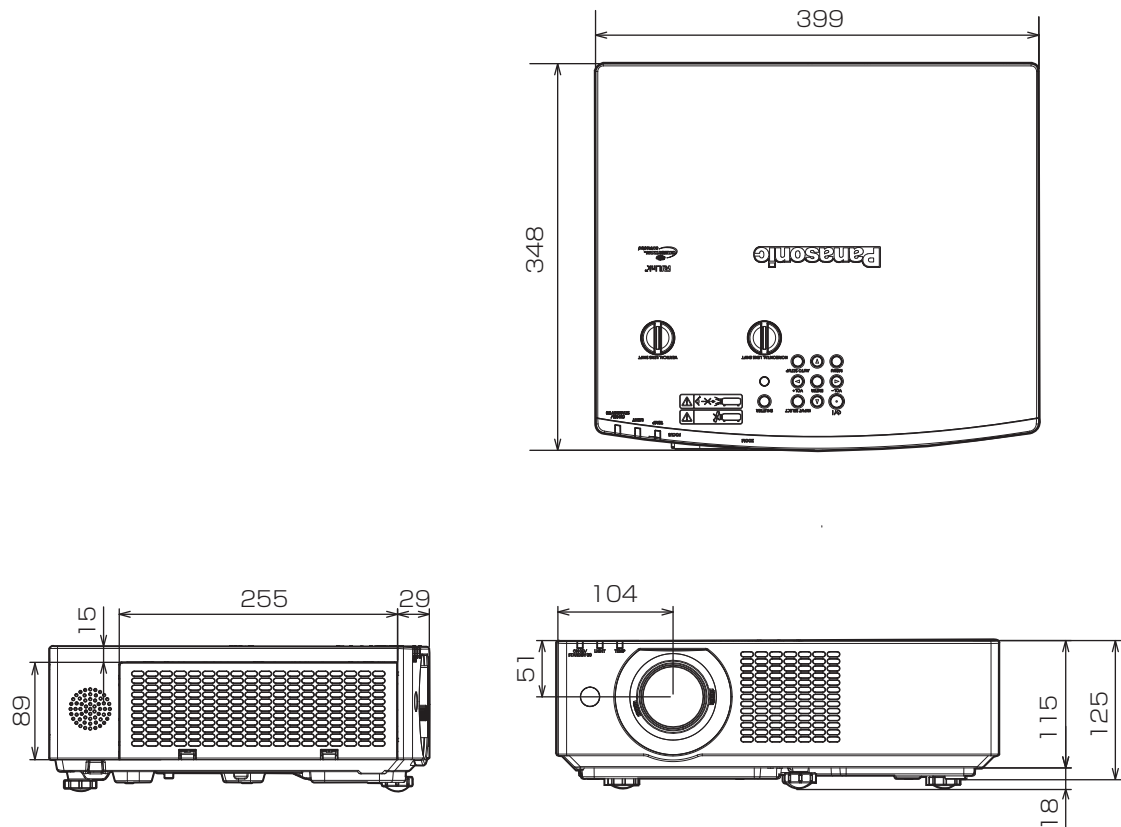
*1 Pixel-Repetition 信号 (ドットクロック周波数 27.0 MHz) のみ

お知らせ

- DIGITAL LINK 入力の対応信号は、HDMI 入力の対応信号と同じです。

外形寸法図

単位：mm



* 各製品で寸法は異なる場合があります。

天つり金具取り付け時の注意事項

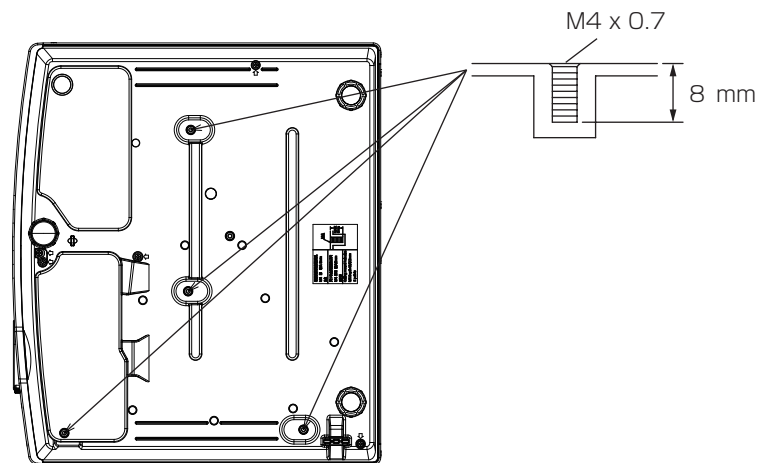
- 本製品を天井に取り付ける場合は、当社指定の別売品の天つり金具（品番：ET-PKL100H（高天井用）または ET-PKL100S（低天井用））と、天つり金具（品番：ET-PKV400B（取付用ベース金具））を組み合わせで設置してください。

品番：ET-PKL100H（高天井用）、ET-PKL100S（低天井用）、ET-PKV400B（取付用ベース金具）

- 既設の天つり金具（品番：ET-PKV100H（高天井用）または ET-PKV100S（低天井用））に本機を取り付ける場合は、天つり金具（品番：ET-PKV400B（取付用ベース金具））と天つり金具用アタッチメント金具（品番：ET-PAD100）を組み合わせで設置してください。
- 取り付けの際は、天つり金具に付属の落下防止セットを取り付けてご使用ください。
- 天井取り付けなどの設置工事は、工事専門業者にご依頼ください。
- 当社製以外の天つり金具の使用、および天つり金具設置環境の不具合による製品の損傷などについては、保証期間中であっても責任を負いかねますのでご注意ください。
- ご使用を終了した製品は、工事専門業者にご依頼のうえ速やかに撤去してください。
- ねじ類の締めつけの際は、トルクドライバーまたは六角トルクレンチを使用し、規定値内のトルクで締めつけてください。電動ドライバー、インパクトドライバーを使用しないでください。
（ねじの締めつけトルク：1.25 ± 0.2 N・m）
- 詳しくは、天つり金具の施工説明書をお読みください。
- 付属品や別売品などの品番は、予告なく変更する可能性があります。

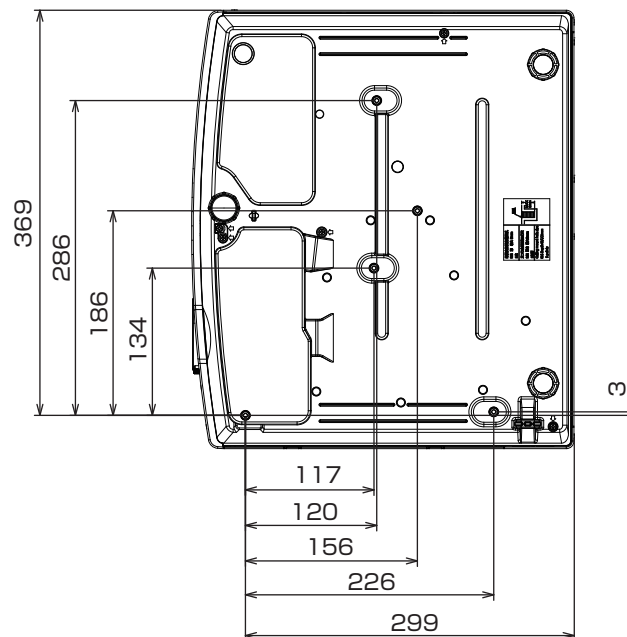
■ プロジェクター固定用ねじ穴仕様（本体底面）

単位：mm



■ プロジェクター固定用ねじ穴寸法図（本体底面）

単位：mm



保証とアフターサービス

よくお読みください

故障・修理・お取扱い・メンテナンス

などのご相談は、まず、

お買い上げの販売店

へ、お申し付けください。

お買い上げの販売店がご不明の場合は、パナソニック業務用プロジェクターサポートセンター（下記）までご連絡ください。

* 内容により、お近くの窓口をご紹介させていただく場合がありますのでご了承ください。

保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ずお確かめのうえ、お買い上げの販売店からお受け取りください。内容をよくお読みいただき、大切に保存してください。万一、保証期間内に故障を生じた場合には、保証書記載内容に基づき、「無料修理」させていただきます。

保証期間：お買い上げ日から本体 3 年間または
プロジェクター使用時間 20 000 時間の
早い方

補修用性能部品の保有期間

8 年

パナソニック コネクト株式会社では、プロジェクターの補修用性能部品を、製造打ち切り後、8 年間保有しています。

* 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理のご依頼について

この取扱説明書を再度ご確認ください。お買い上げの販売店までご連絡ください。

■ 保証期間中の修理は...

保証書の記載内容に従って、修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は...

修理により、機能、性能の回復が可能な場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

■ ご連絡いただきたい内容

品名	液晶プロジェクター
品番	PT-VMZ60J PT-VMZ50J PT-VMW50J
製造番号	
お買い上げ日	
故障の状況	

パナソニック 業務用プロジェクターサポートセンター

電話 フリー
ダイヤル

0120-872-601

※携帯電話からもご利用になれます。

営業時間：月～金（祝日と弊社休業日を除く）
9：00～17：30（12：00～13：00は受付のみ）

URL <https://panasonic.biz/cns/projector/supportcenter/>

- * 文書や電話でお答えすることがあります。また、返事を差しあげるのにお時間をいただくことがあります。
- * お電話の際には、番号をお確かめのうえ、お間違えのないようにおかけください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック コネクト株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

さくいん

A	〈AC IN〉 端子 21, 37	〈SERIAL IN〉 端子 134	す	[スクリーン設定] 73
	〈ASPECT〉 ボタン	〈SHUTTER〉 ボタン		[スクリーン補正] 64
	リモコン 20, 50	本体 22, 47		[スタートアップロゴ] 74
	〈AUTO SETUP〉 ボタン	リモコン 20		[ステータス] 78
	本体 22	〈STATUS〉 ボタン		[スライド効果] 93
	リモコン 20	リモコン 51		
C		T	せ	[セキュリティ] 57, 88
〈COMPUTER 1/2〉 ボタン		〈TEST PATTERN〉 ボタン		セキュリティに関するお願い 14
リモコン 20		リモコン 51		接続 31
		[TV システム] 62		設置 27
D		V		設置形態 27
〈D.ZOOM-〉 ボタン		〈VIDEO〉 ボタン		設置に関する留意点 12
リモコン 49		リモコン 20		[セツトスライド] 93
〈D.ZOOM+〉 ボタン		〈VOL-〉 ボタン	そ	
リモコン 49		リモコン 20, 48		[操作設定] 90
〈DEFAULT〉 ボタン		〈VOL+〉 ボタン		[ソート順] 94
リモコン 20, 55		リモコン 20, 48		[その他の機能] 76
DIGITAL LINK 16			た	
[DIGITAL LINK 信号レベル] 72		あ		対応信号リスト 138
[DIGITAL LINK ステータス] 91		[明るさ] 58		[ダイナミックコントラスト] 61
〈DIGITAL LINK〉 ボタン		アジャスター脚の調整 45	て	
リモコン 20		[アスペクト] 68		[テキスト設定] 89
[DIGITAL LINK メニュー] 92		[アドバンスドメニュー] 60		[テキスト変更] 89
[DIGITAL LINK モード] 91		アフターサービス 146		[デジタルシネマリアリティー] 61
		アプリケーションソフトについて 17		[テストパターン] 85
E		安全上のご注意 4		電源インジケータ 38
〈ECO〉 ボタン				電源コード 37
リモコン 52		い		電源コードの接続 37
〈ENTER〉 ボタン		[位置調整] 56, 64		電源ボタン
本体 22		[色あい] 59		本体 22
リモコン 20		[色温度設定] 59		リモコン 20
		[色の濃さ] 59		電源を入れる 39
F		う		電源を切る 42
〈FREEZE〉 ボタン		運搬上の留意点 12		天つり金具取り付け時の注意事項 145
リモコン 20, 48		え	と	
〈FUNCTION〉 ボタン		エアフィルターユニット 125		投写する 43
リモコン 20		[映像調整] 55, 58		投写する映像の選択 43
		[映像モード] 58		[投写方式] 79
H		お		[ドットクロック] 67
〈HDMI 1〉 ボタン		[オートセットアップ] 74	に	
リモコン 20		[オーバースキャン] 67		[入力検出] 75
〈HDMI 2〉 ボタン		お手入れ 122		入力信号切り換え 43
リモコン 20		オンスクリーンメニュー 54	ね	
[HDMI 信号レベル] 72		[音声設定] 84		[ネットワーク / USB] 57, 91
		温度インジケータ 121		[ネットワークコントロール] 93
I		か		[ネットワークステータス] 95
〈ID ALL〉 ボタン		外形寸法図 144		ネットワーク接続 97
リモコン 20, 52		[回転] 94	の	
〈ID SET〉 ボタン		[ガンマ選択] 60		[ノイズリダクション] 61
リモコン 20, 52		き	は	
〈INPUT SELECT〉 ボタン		[起動方法] 79		廃棄について 17
本体 22		[曲面スクリーン補正] 65		[パスワード設定] 88
M		く		[パスワード変更] 88
〈MENU〉 ボタン		[クランプ位置] 68		[バックカラー] 75
本体 22, 54		[クロズドキャプション設定] 73	ひ	
リモコン 20, 54		[クロックフェース] 67		[表示オプション] 56, 71
〈MUTE〉 ボタン		こ		表示言語 56, 70
リモコン 20, 47		光源 / 温度インジケータ 121	ふ	
N		[光源電力] 80		付属品の確認 19
〈NETWORK/USB〉 ボタン		工場出荷時の状態に戻す 55		部品交換 125
リモコン 20		[高速スタートアップ] 81		[フレームロック] 68
O		[コーナー補正] 65		[プレゼンテーションタイマー] 75
〈ON SCREEN〉 ボタン		ご使用になる前に 12		[プロジェクター ID] 78
リモコン 48		[コントラスト] 58		[プロジェクター設定] 56, 78
P		さ		[プロジェクター名変更] 92
〈P-TIMER〉 ボタン		サブメニュー 55	へ	
リモコン 20		し		[ベストフィット] 94
[Presenter Light ソフトウェア] について		[自己診断] の表示 128	ほ	
..... 104		[自動位置補正設定] 74		保証とアフターサービス 146
R		[シフト] 66		本体 21
〈RETURN〉 ボタン		[シャープネス] 59	む	
リモコン 20		[シャッター設定] 74		無線 LAN で接続する 102
[RGB/YC _B C _B] 62		修理のご依頼の前に 126		
[RGB/YP _B P _B] 62		仕様 141		
[RGB システム] 63		使用上の留意点 17		
[RS-232C] 82, 135		[初期化] 95		
		初期設定 40		
S				
〈SCREEN ADJ〉 ボタン				
リモコン 49				
〈SCREEN ADJ〉 ボタン				
リモコン 20, 49				

め	
メインメニュー	55
メニュー画面の操作方法	54
メニュー項目	55
[メニューロック]	89
[メニューロックパスワード]	89
ゆ	
[有線 LAN]	92
有線 LAN で接続する	100
ら	
ランブインジケータ	121
り	
[リアルタイム台形補正]	64
[リピート]	95
リモコン	20
リモコン操作	47
れ	
レンズキャップの取り付け	25

■ ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報



これらのシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法
をお問い合わせください。



パナソニック コネクト株式会社

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号